

教育

れども、新教徒も、少なからず。教育は、高等教育は、著く進歩したれども、初等教育は、未、十分ならず。下民中には、讀書に堪へざるもの多し。

政治

七、政治 此の國、今は共和國にして、大統領は、行政權を統べ、其の任期は、七年なり。内閣は、其の下にありて、十一省に分かる。立法府は、元老院、代議院を以て組織し、大統領は、兩院より選舉せらるゝなり。之を國民議會と稱す。地方制度は、全國を八十七州に區分し、各州長を置けり。

領地

此の國の領地は、面積我が國に、二十五倍し、イギリス、ロシア二國に次げる大國なり。其の領地は、イギリスの半にも及ばざれども、同じく、五大洲に跨がりて、散布せり。

兵制

八、兵制 軍制は、ドイツと同じく、舉國皆兵の制にして、陸軍は、平時は、六十萬あれども、戰時には、更に増して、四百餘萬となすことを得べし。此國は、陸上防備として、國境上に要塞を設けたり。海軍も、亦、有

陸軍

海軍



ワテルロー古戦場

力にして、イギリスに次ぎ、世界第二の海軍國なり。其の艦隊を、地中海、海峽、リス、等に分遣すること、イギリスに同

生業

農産

じ。

九、生業 農業と工藝とは、フランス人の主なる生業なり。農産物多き中に、小麥、甜菜糖の産額は、共にヨーロッパ第二位にあり。葡萄の産出は、世界一なり。之より醸造する葡萄酒は、此の國輸出品の要位を占めたり。絹の産出、亦、尠なからず。

工藝

工藝は、イギリスの壯大堅牢なる製造品と相反し、主として精巧なる美術工藝品を出だせり。中にも、意匠嶄新の絹織は、當國人の最得意とする所にして、我が國より輸入する生糸のごときも、其の原料となるなり。絹織の外、毛織物あり。又、什器、粧飾品等、皆、新様を此の國より出だせり。

礦産

礦産には、鐵、石炭、等他國に譲らざる産額あれども、盛大を極むるに至らず。

貿易

輸出入

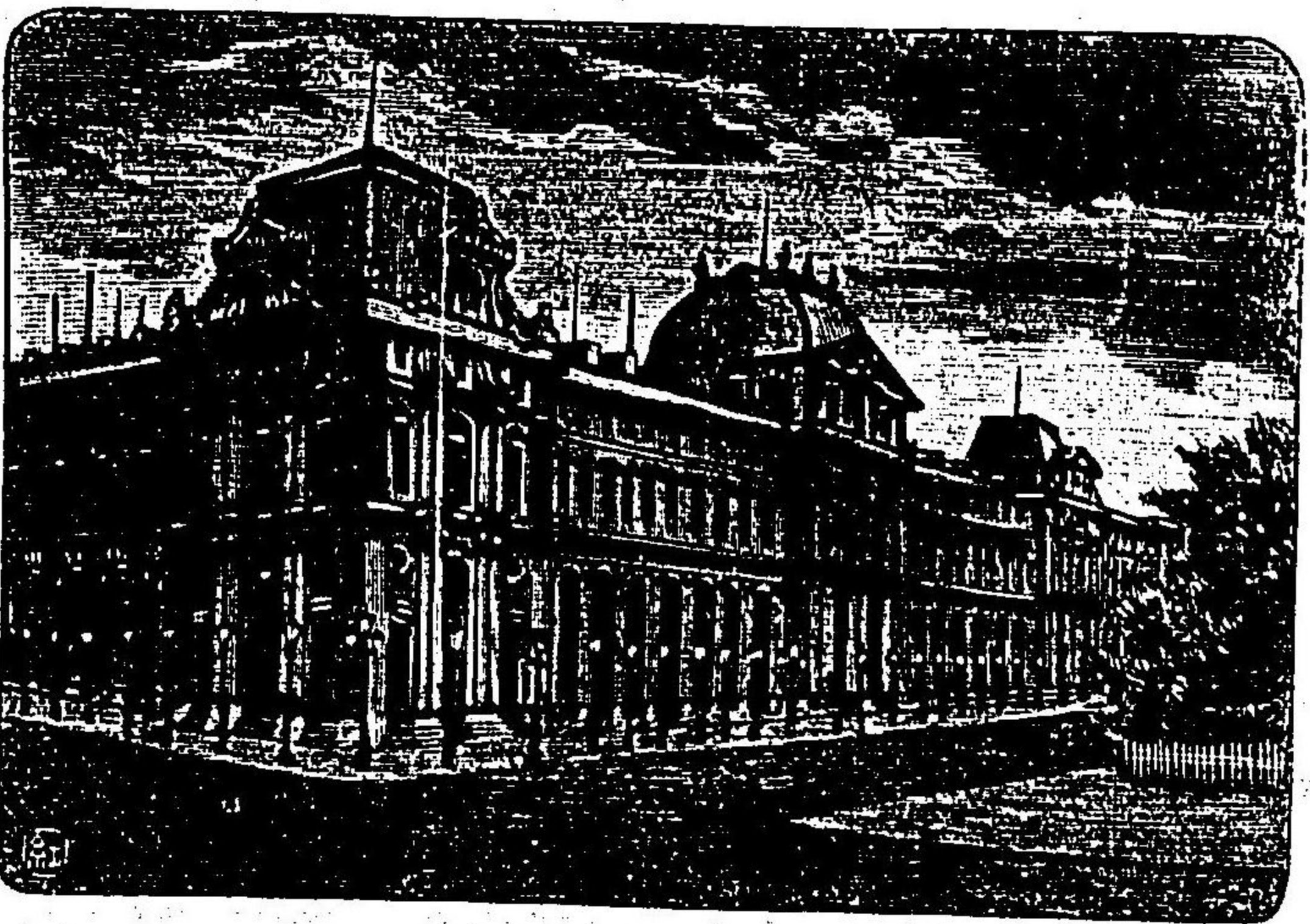
一〇、貿易、交通 貿易額は、イギリス、ドイツ、合衆國に亞ぎて、第四位にあり。其の主要輸出品は、絹、毛、綿、三種の織物、葡萄酒、生絲、工藝品にして、我が國へは、縮緬、吳呂を輸出せり。其の取引は、イギリス、ベルギー、ドイツ、合衆國の間に盛なり。

交通

交通には、諸種の機關、具はりたれども、海岸線に乏しき故に、商船の數は、近隣の強國に劣れり。

處誌

一一、處誌 首府バリー 人口二百六十六万は、ロンドン、ニウヨークに次ぎて、世界第三の都會なり。市街は、セイヌ河に跨がり、強固なる堡塞を遶らし、所々に城樓あり。其の結



ルブルグ博物館

構の壯大なる、建築の美麗を極めたる、實に世界第一と稱するに足れり。府内の「ノートルダム」寺院は、ローマ舊教の本山にして、建築の異觀を呈し、「ルイブル」博物館、グランオペラ「座」エッフェル高塔、凱旋門等、何れも人目を驚かせり。氣候は、快適にして、天候、常に清亮なり。都人の服裝器具は、時様を競ひ、世界流行の本場たり。此所より西南程近く、ベルサイユあり。皇城の美觀

リール
ルアーブル

を以て世に知られたり。リールは、工業の大中心にして、麻布を製造す。セイヌ河口なるルアーブルは、大貿易港

オルレアン



グランドパレ及エッフェル塔

岸にあり。女丈夫ダンヌダルクが、イギリス兵を圍みて、勇名を顯し、地なり。ポルトーは、ガロンヌ河の下流にあり。葡萄酒の産地

ポルトー

リオン

として、其の名世界に轟けり。リオンは、ローヌ河とソーヌ河との會點に位し、フランス第三の都會なれども、絹織業の盛大なることは、ヨーロッパ第一なり。我が領事館此所にあり。

マルセイユ

マルセイユは、地中海岸にあり。地中海貿易の樞機を握り、當國第一の商港たり。我が國よりヨーロッパに航する者は、先、此のマルセイユに着き、鐵道凡五百哩を経て、パリに入り、其より四方に散ず。但、ロンドンに行く者は、此所に寄泊せず。マルセイユの東方には、有名なるツィロン軍港あり。

モナコ侯國

モナコ侯國

フランス國の東南隅なる一小島にして、其の保護を仰

生要地を指し、
自らが領土を認め、
保護を仰ぐ。

げり。面積、八萬哩、人口、一萬三千を有せり。

第四章 南ヨーロッパ

第一 イスパニア 西班牙

一、境域、廣袤 イスパニアは、イベリヤ半島の大部を占め、北方を除きて他の三面は、皆海に瀕せり。廣袤は、フランスより、稍、小さく、我が國よりも大なり。

二、海岸 イベリア半島の海岸は、屈折、甚、稀にして、東方に、バレンシア灣、南方にカヂス灣あるのみ、島嶼には、バレアル諸島あり。

三、地勢 全半島は、一大高原より成り、北は、ピレネー山脈、及其の連脈、カンダブリア山脈にて、限られ、南は、チバ

地勢

海岸

廣袤

境域

イスパニア

南ヨーロッパ

三大河

ダ山脈を境とせり。二連山の間にも、山脈の交叉するありて河谷を造れり。ドイロ、タホ、グアチアナの三大河は、高原の東方より、西南に流れて、ホルトガルに入れども、運漕の便は、グダルキビルを以て、第一とす。地中海に入るエプロ河も、亦、舟運の便を缺けり。

氣候

四、氣候 中部以南は、大陸性氣候にして、乾燥甚しけれども、東北地方には雨多し。

住民

五、住民政治 此の國住民の數は、一千八百萬人あり、多くは、「ケルト」族ギリシア、ラテン族に屬すれども、多種の混合より成り、人情風俗は、地方に依りて同じからず。勤勉、遊惰相雜れり。闘牛戲の弊風は、今に至るまで、尙存せり。

人口種族

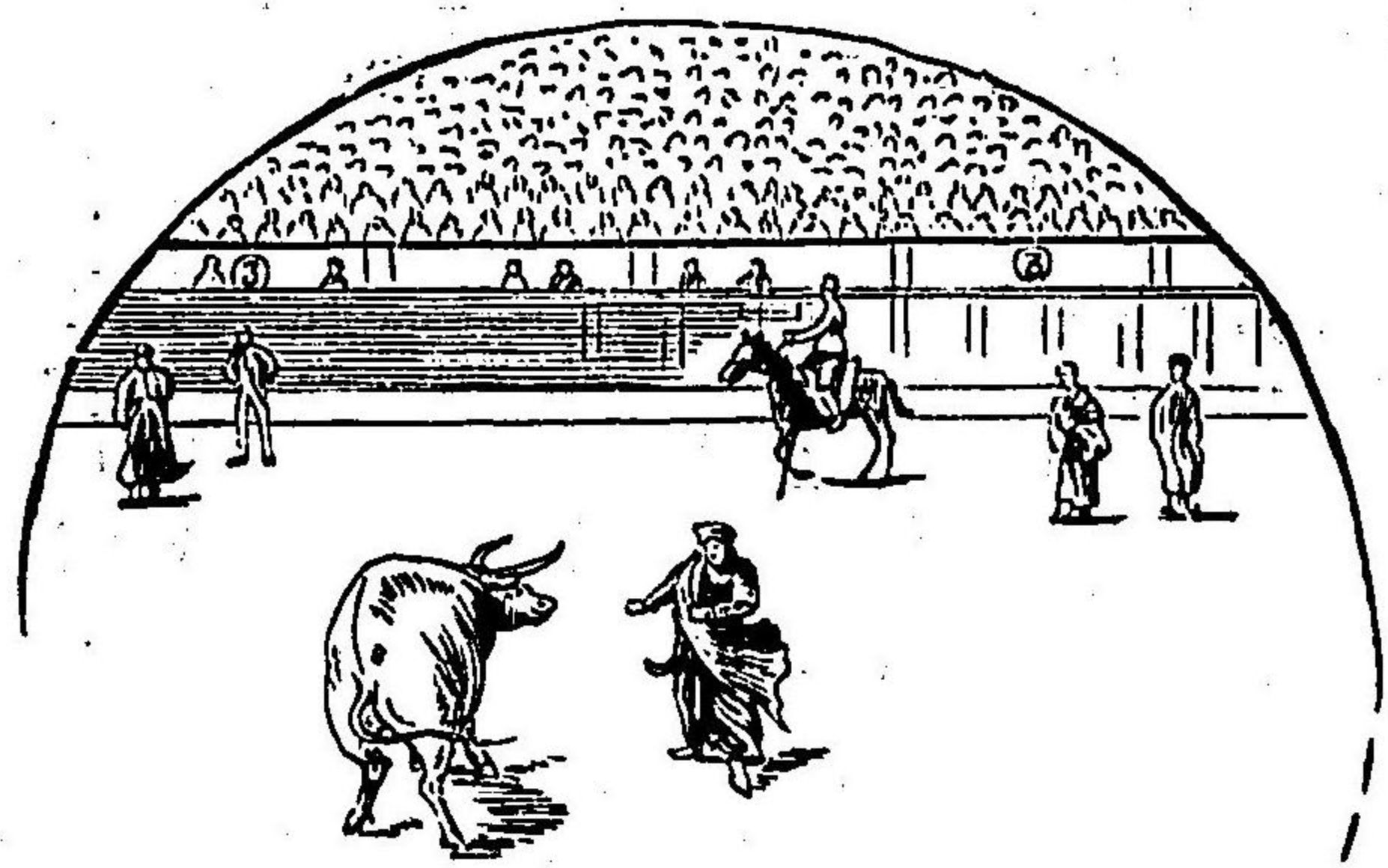
闘牛戲

言語

宗教

政體

生業



闘牛戲

言語は、ラテン語の、稍、轉化せるものにて、商業上の用語として外國にも行れたり。宗教は、ローマ舊教を國教とす、教育は、頗、振はず。此國は、立憲君主政體にして、上下兩院より成れる議會を有せり。

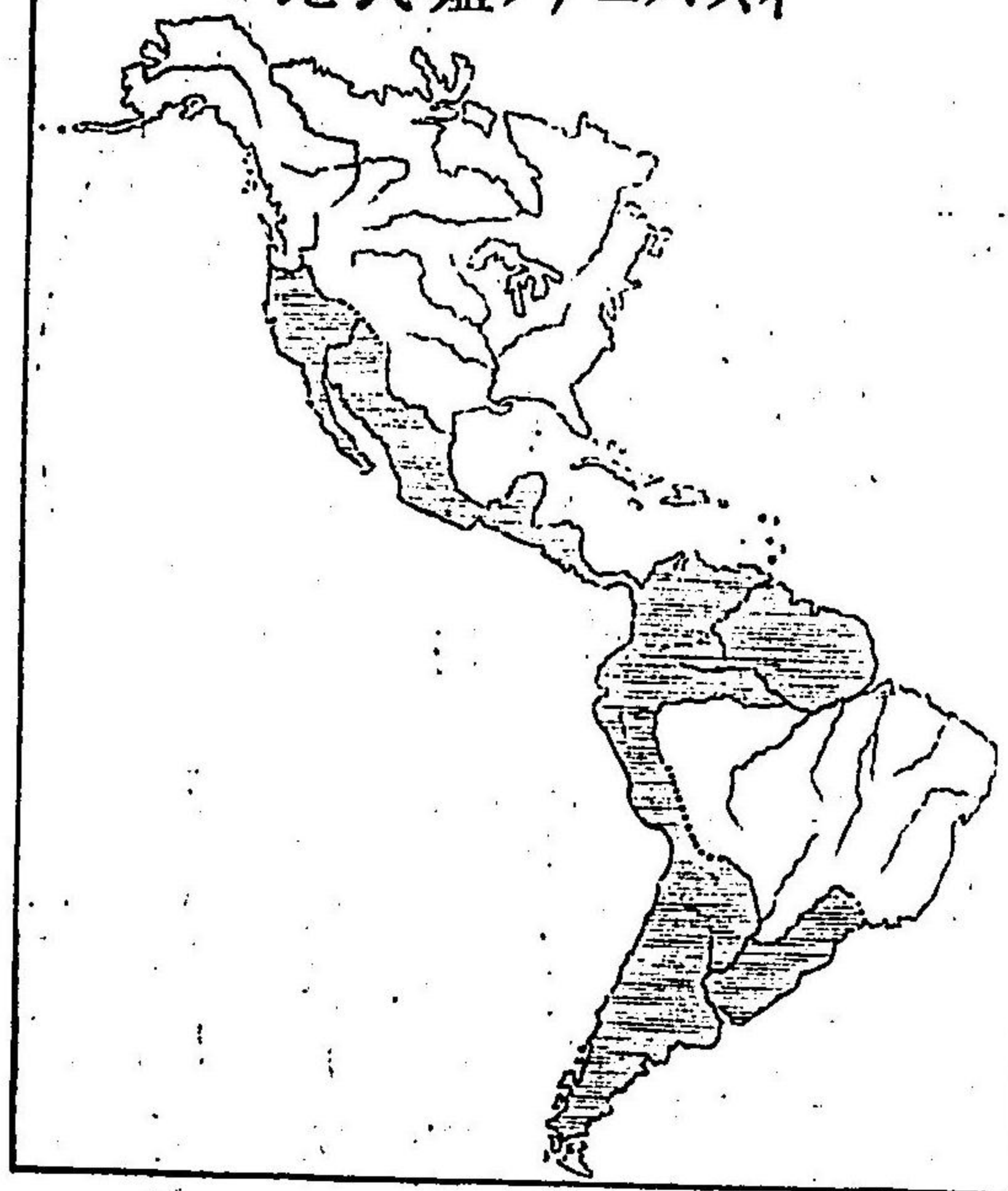
六、生業 生業の主なるは、

農業にして、耕地の一半は、之に充てたり。葡萄、橄欖、菓實殊に名あり。鑛産は、甚、豊富にして、鐵、石炭、銅、水銀等、殊に著し。牧羊、漁業も、亦、盛なり。

現勢

七、現勢 西紀一千四百年代、イスパニア、ホルトガル兩國は、航海上の覇權を握り、ホルトガル人は、グードホープ崎を廻りて、インド及我が國等に入れり。當時、イスパニアにては、イサベラ女皇、コロンプスをして、西方に航せしめ、アメリカ大陸を發見せしめたり。かくて、頻りに領土の擴張を謀りしかど、政策宜しきを失ひ、又奢侈風を成

ルケ於ニカリメア古中
地民殖ノアニパスイ



地民殖の古中アニパスイ

しめ、アメリカ大陸を發見せしめたり。かくて、頻りに領土の擴張を謀りしかど、政策宜しきを失ひ、又奢侈風を成

してより、漸次其の地を失ひ、クイバ、ポルトリコ、フリピンのごとき有望なる殖民地も、皆、合衆國に奪はるゝに至れり。

處誌
マドリッド

八、處誌 首府マドリッド 人口五十萬は、國の正中にあり。

バルセロナ

高さ二千四百尺の高地に位し、市中に宏大なる宮殿、美術館等あれども、四近は寂寥たり。バルセロナは、當國第一の商港にして、兼ねて、最大の工業市たり。綿布の製造、最盛なり。バレンシアは、絹布業の中心にして、地肥え、穀果の收穫、一年數回に及ぶものあり。

バレンシア

グラナダ市

南方、ネバダ山脈に接する高原上に、グラナダ市あり。

ジブラルタル

曾「ムーア」帝國の首府たりし處にして、今も遺跡の存するものあり。ジブラルタルは、南端地中海に突出せる崎に

アンドラ共和國

ホルトガル

境域

地勢



ルタルラプジ

して、一千七百四年以來、英領に歸せり。地中海の咽喉を扼し、絶壁の上に砲臺を設けたり。

アンドラ共和國 人口六千を有する一小國にして、ピレネイ山中にあり。フランス、イスパニア兩國の保護を受く。住民は農業及獸獵を以て生業とせり。

第二 ホルトガル 葡萄牙

一、境域 此の國は、イベリア半島の西隅に占據し、面積は、イスパニアの五分一に及ばず。

二、地勢

イスパニア高原の大西洋に傾斜する所に

當たり、大河は、いづれも、イスパニアの餘流を受け、却りて、舟運の利を獨占するの趣あり。

三、氣候

イスパニアと同一半島中に國すれども、大西洋に面するを以て、暖流の影響に依り、氣候一般に平和なり。海上より來たる濕風の、此の國を過ぐるや、水分は、皆、此所に雨となりて降り、イスパニアに入る頃は、乾風となるが故に、沿岸は、ヨーロッパ洲最多雨の地たり。

四、住民

人口五百餘萬に過ぎず。屬地の人口は、其の二倍に近し。種族は、イスパニアに似たれども、兩國人は、年久しく互に相反目せり。言語、宗教、政體も、亦、イスパニアに同じ。

五、生業

農業を主なる生業とせり。穀物、葡萄、最、有

氣候

住民

生業

國勢
南蠻人

名にして、葡萄酒は、最良品の名あり。

六、國勢　イスパニアと共に我が國とは、舊交厚き國の一なり。南蠻人と稱せられて、始めて、我に鐵砲を輸入せしは、即此の國人にして、當時は、海上權の全盛期たりしなり。國人、バルソロメヂアスは、グードホープ崎を發見し、次ぎてバスコ、ダ、ガマ之を廻りて、東洋に來たり、マヂェラののごときは、最初の世界廻航者として名を揚げたり。されど、國勢次第に傾き、一時領地となりし、インド、ブラジル等を失ひ、今は僅に、アジア、アフリカに殖民地を有するのみ。

處誌
リスボン
オポルト

七、處誌　首府リスボン人口三十五萬は、タホ河口に臨み、安
全の港口を控へたるを以て、商業繁盛なり。オポルトは、

屬島

第二の港市にして、ドイロ河畔にあり。製造業の盛なること、國中第一なり。

アフリカの屬島なるマデイラ、アゾレス諸島は、當國の直轄たり。

イタリア

第三　イタリア伊太利

境域

一、境域、廣袤

イタリアは、北方アルプ山脈に依りてフランス、スウイス、オーストリアと接し、東は、アドリア海、南は、地中海、西は、チレニア海に瀕せり。形状、恰長靴のごとく、シチリア、サルヂニアの二島之に屬せり。面積は、我が國よりも小なり。

海岸

二、海岸　南ヨーロッパ三大半島の一にして、海岸線に富み、西岸には、島嶼多し。

地勢

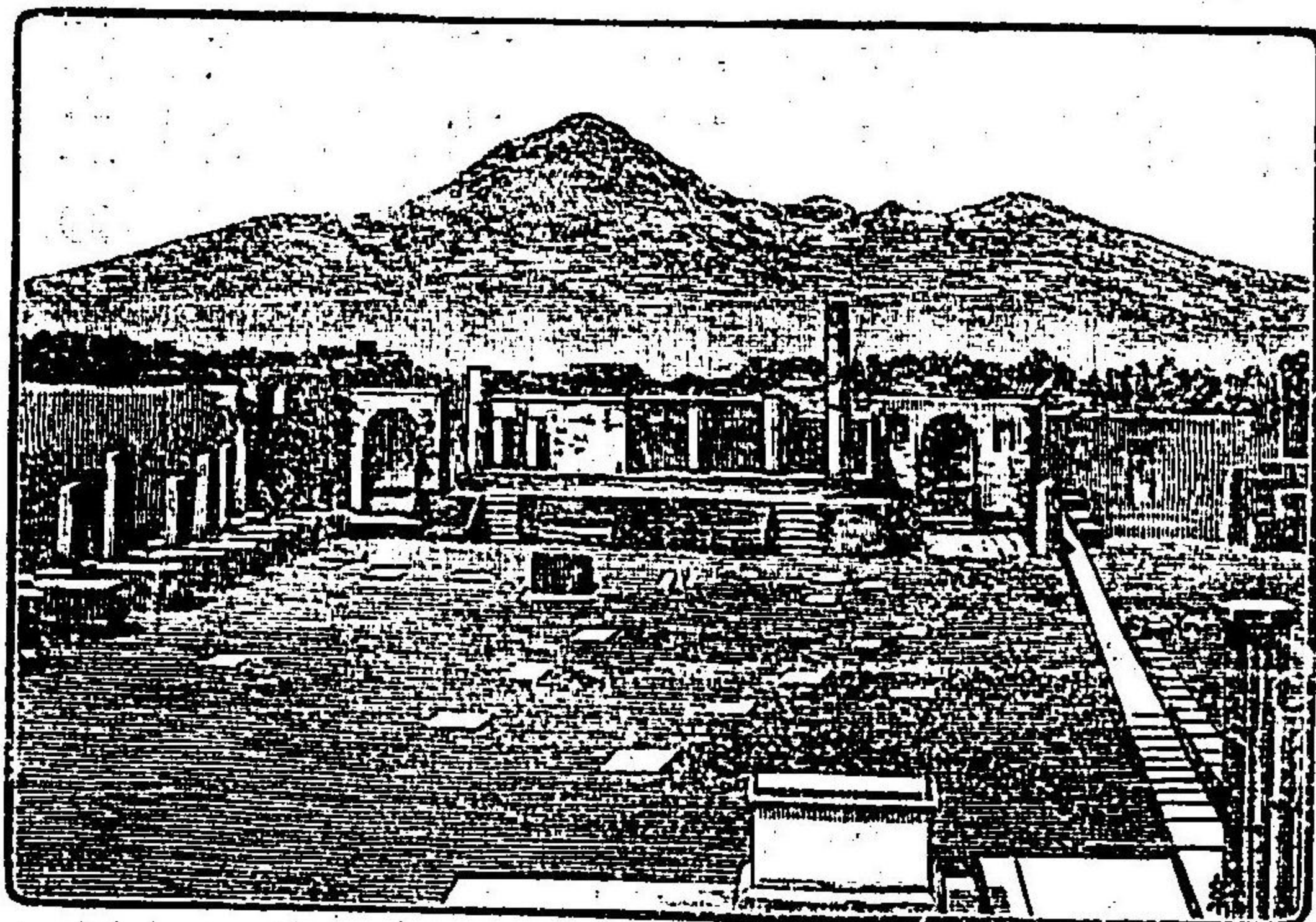
大陸部

半島部

アヘニン

火山

三、地勢 大陸部は、北にアルプ山脈を繞らし、南にアヘニン連山を控へ、中間に肥沃の平野あり。半島部は、殆



ボムムイ廢墟

アヘニン連山の蟠屈する所にして、支脈諸方に分岐せり。島嶼部も、亦、高原性を呈せり。

アヘニンは、國の脊梁にして、餘脈メシナ海峽を通じて、シチリア島に連なれり。此山脈中には、又、火山多し。ベスピオ、エトナ、ストロンボリ等を著名なり

河流

湖水

とす。曾、ベスピオの爆發せし爲に、ヘルクラチウム、ボムヘイの二市を埋みし事あり。河流は、我が國と同じく、山海の距離相近きを以て、長流を生ぜず。唯、大陸部なるポー河を最大とす。此の河は、アルプ山中の小湖より發し、北方の平野を潤ほす急流なり。アルプ山中に、小湖二三あり。此の國風光の美を飾れり。

氣候

四、氣候 大陸部の氣候は、極端の大陸性にして、半島部は、溫和乾燥なり。島嶼は、大概、半熱帶氣候を有すれども、海風に和らげらるること少なからず。

住民

五、住民 人口は、三千一百万あり。種族は、ギリシア、

ラテン族に屬せり。國人、美術心に富み、風流華美を喜ぶ

伊國人

の風あり。又、勤勉勞力を厭はず。偶、外國に出稼ぎすることあるも、唯、貨殖のためにするものにして、金を得れば、直に郷國に歸らむことを希ひ、永住すること能はず。是、ヨーロッパ強國中、其の屬地の最少なき所以にして、唯、僅にアフリカの一部を有するのみ。

言語

言語は、フランス、イスパニア、ポルトガルと共にラテンより出でたり。然れども、此の國の語は、其の轉訛、最、輕少にして、流暢和諧なれば、音樂上の歌詞として、最、廣く賞用せらる。

宗教

宗教は、ローマ舊教を奉ずれども、嚴酷ならず。新教、猶太教、亦、稍、行はれたり。初等教育は、未、普及するに至らず。國人文字を知らざるもの、甚、多し。されど、大學は、二十一

校あり。

政治

六、政治 政體は、立憲君主政治にして、上下院より成

陸軍

れる議會あり。陸軍兵員は、イギリス國の上に位し、二十

海軍

六萬人あり。世界中、第五位なり。戰時には、更に百萬人

財政

を増加し得べし。海軍に於いては、所謂、七大海軍國の一

にして、我が國よりも稍、優勢なり。此の海陸軍を有するがため、ヨーロッパ六強國の中に數へらるれども、財政は、決して豊かならず。

生業

七、生業 人民の一半は、農業に従事し、四分一は、工業

に従事せり。農産の主なるは、穀物、葡萄、及橄欖にして、葡萄酒の産額は、フランスに次ぎて、第二位にあり。生絲は、當國第一の重要産物にて、ヨーロッパ第一の養蠶國たり。

礦産

硫黄、大理石の産、亦、有名なり。就中、カラネ大理石は、其の名宇内に聞こゆ。當國彫刻の進歩したるは、一は、此の大理石あるがためなりと云ふ。海外貿易は、イギリス、ドイツ、フランスとの間に、最、盛大なり。

鐵道

鐵道の延長は、我が二倍を超え、アルプ山中には、大隧道數條を穿ちて、北境諸國と交通せり。

ローマ國

此の國は、古のローマ國にして、其の制度文物は、久しく天下の師となりき。されば、其の紀念とすべき繪畫、彫刻、建築等、到る所に存在し、今も、美術國として、此の國の名は、世界に轟けり。又、史上の遺跡、無數なるを以て、諸方より遊覽の客、年々、其の幾許なるを知らず。

處誌

八、處誌　ローマ　人口四十六万　チベル河に跨がり、古は、ロー

マ帝國の首府、今は、即、イタリアの首府にして、又、ヨーロッパ帝王の上に立ちて、無上の威權を擅にせしローマ法王の居所たり。故に、凡、市中の美觀を有せる此のローマに過ぐるものなかるべし。殊に、「コロセウム」、セント・ペートル寺、及ウチカン宮をローマ建築の三幅對と稱せり。我が公使館此所にあり。

ナポリ

ナポリは、同名の灣に臨み、近く、ベスビオ火山を望み、風光明媚なり。此の地は、商業盛にして、人口ローマよりも多く、イタリア第一の都會なり。彼の二千年前灰砂に埋れしポムペイ古市の發掘せられしは、此の近傍なり。ミラノは、第二の都會にして、ロンバルディアの平野にあり。サンゴタルドを通ずる鐵道に沿ひ、商業上、重要な位置に

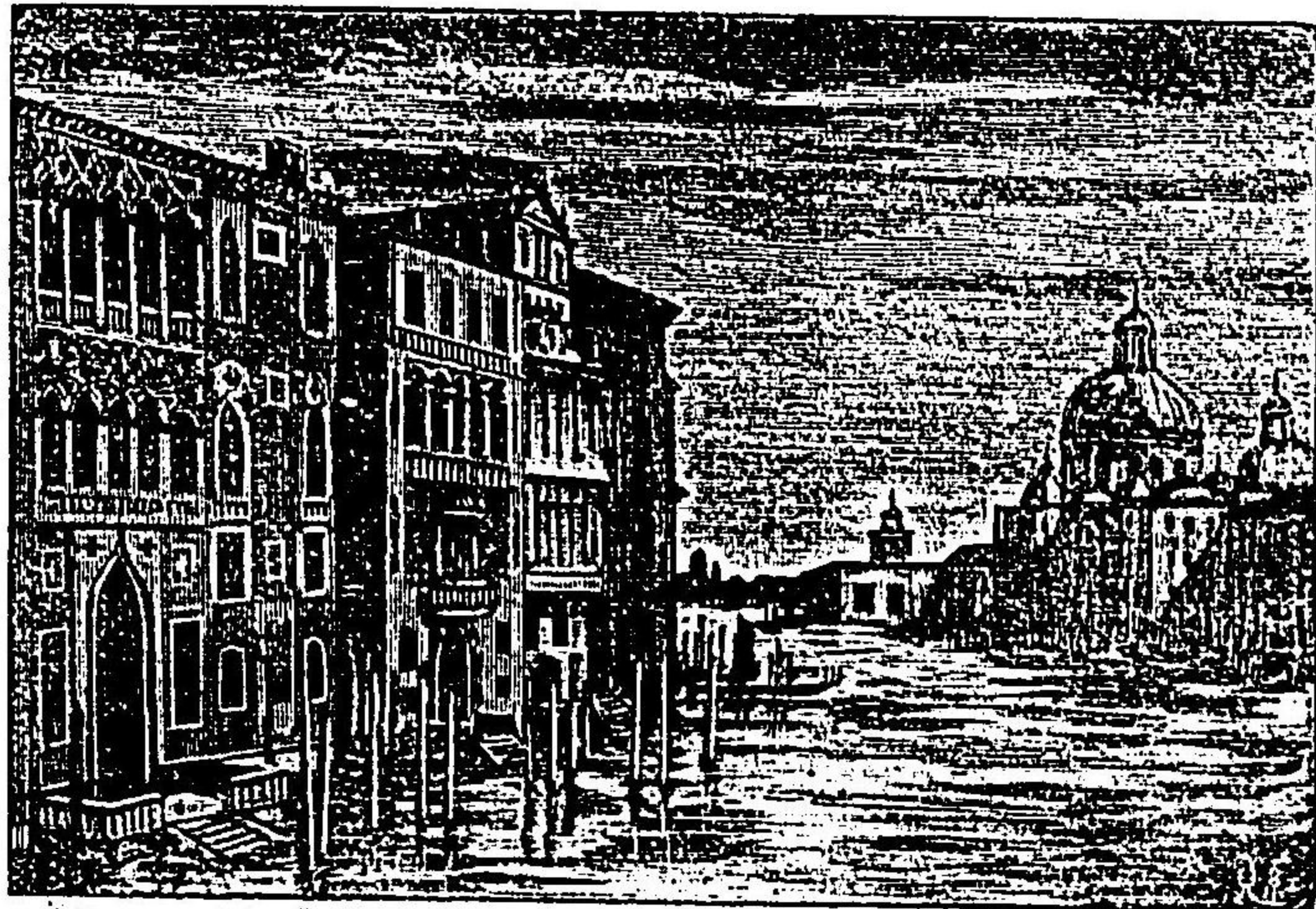
ミラノ

當れり。トリノは、養蠶盛にして、ジエバは、全國第一の商業

トリノ
ボロニア

ベチチア

フィレンツェ



ベチチアノ水上街

シは、東西航路の衝に當たり、サルジニアのバレルモは、島

ピサ

嶼内の大都なり。

マルタ島

マルタ島は、英領にして、シチリアの南に位し、イギリス地中海艦隊の根據地なり。

サンマリノ共和國

サンマリノ共和國、フィレンツェの東に位し、面積二十八方哩、人口八千を有する小共和國にして、イタリアの保護を仰げり。

第四、バルカン半島諸國

位置

バルカン半島諸國

一、位置、區劃　バルカン半島は、南ヨーロッパ三半島の

中、最東に位するものにして、北はドナウ、サーベの二河を境界とし、他の三面は海に瀕せり。

區劃

此の半島は、分かれて、六國となれり。(一)ギリシア(二)ユーロパトルコ(三)ブルガリア(四)ロマーニア(五)セルビア(六)

海岸

モンテネグロ是なり。オーストリアのボスニア、及、ヘルゼゴビナは、地勢上、此の半島に入れり。

二、海岸 半島の北方は、多少、大陸性を帯びたれども、南は、半島中の半島にして、遙に海上に突出し、モレナ半島を最終端とせり。海岸の出入多きも、此の半島部にあり。附近の島嶼中には、エペア、カンデアを最大とし、多島海中に、碁布せる小島は、數ふるに違あらず。

地勢

三、地勢 ドナウ河と、多島海との間には、バルカン山脈、一面に瀰蔓して、地勢、山がちなり。バルカンと云ふ名は、トルコ語の「山脈」と云ふ義なり。ギリシアの部も、亦、山多くして、其の四分一は、赤地を成し、唯、僅に、テッサリア地方のみ平地を存せり。

水系

四、水系 ドナウ河、ホンガリアより來たりて、セルビアの北境にサーベ河を合はせ、ローニアと、ブルガリアとの境を分かちて、黒海に入れり。此の他に、小流はあれども、舟運の利缺けたり。

氣候

五、氣候 地貌複雑なるを以て、氣候も、亦、一ならず。概するに、バルカン山脈の北は、冬寒酷しく、ギリシア部は、溫和にして、平地に雪を見ること稀なり。地味肥えたる所多けれども、ギリシアの外は、農業は進歩したりといふべからず。

住民

六、住民 分かちて、四種族とせり。(一)スラフ族は、半島住民の一半を占め、ブルガリア人、セルビア人之に屬せり。(二)アルバニア族は、アルバニア地方を占めたり。(三)

政治

ギリシア族は、ギリシア多島海岸、及島嶼部を占めたり。
(四)トルコ種は、僅少なれども、全半島上に散居せり。
七、政治 六國の中ブルガリアを除けば、他は、皆獨立の君主國たり。

ギリシア

形勢

(一) 概論 ギリシアは、半島中、最、形勢の地を占め、氣候、亦最良なり。面積は、オランダの二倍を有すれども、人口は其の半にも及ばず。

生業

(二) 生業 沿河の地は、肥沃にして、農産豊かなり、中にも小麥、乾葡萄、橄欖、煙草、無花果の産出、最、名あり。乾葡萄は、即、輸出品の最要なるものなり。礦物には、鉛、亞鉛を出だすこと多し。工業は、却りて、古に劣れども、商業は巧なり。

住民

モレア半島の地頭たる、コリント海峡は、十年以來、運河四哩を開鑿して、多島海を、イオンア海とを連絡せり。

三、住民 住民の多くは、古代ギリシア人の子孫にして、宗教は、ギリシア教、最、行なはれたり。國人の性質、敏捷にして、學問と航海とに秀でたり。學問は、古代ホーマー、プラトーン、アリストートルのごとき、世界無雙の文傑、鴻儒を出だし、又、航海業は、今に多くの商船を有して、其の國旗を黒海、地中海上に翻へせり。

政治

四、政治 立憲王國なり。此の國、上古はローマに先だちて、ヨーロッパ文明の魁をなし、文華燦然として、世界に輝きしが、ローマ興こりてより、次第に衰へ、爾來、久しく、他國の版圖に歸せり。前世紀の初に當たりて、イギリス、フラ

アテネ

ピレウス

ヨーロッパ

境域

生業

ンス、ロシアの保護に依りて、再國を建つるに至れり。
五、 處誌 首府アテネ一人口十は、古のアテネの迹にして、市の中央には、有名なる「バルテノン」宮趾あり。其の外、遺跡少ならず。ピレウスは、アテネの東、エギナ灣に臨み、繁盛の商港たり。

(二)ヨーロッパ・トルコ・歐羅巴・土耳其

一、 境域 オトマン帝國の版圖は、ヨーロッパ、アジア、アフリカの三洲に跨がれり、其のヨーロッパトルコは、バルカン半島の中部を占め、國內、山多けれども、海岸には、平野あり。其の地積は、全帝國の十分一に足らず、人口は六、百萬あり。
二、 生業 國內肥沃の地多く、煙草、穀物、果實、綿等を産せり、又、其の輸出品には、葡萄、絹、羊毛布等ありて、布帛、砂糖等

住民

政治

沿革

を輸入せり。

三、 住民 トルコ種、ギリシア族等の、雜居にして、半は、回教を奉じ、之に次ぐを、希臘教とす。ヨーロッパ中無二の非基督教國なり。政治教育、皆回教の主義に従へり。

トルコ人は、アジア人種の中にして、其の風俗は、頗、東洋風を帯びたり。

四、 政治、沿革 ロシアと共に君主專制國なり。國帝を、サルタンと稱し、回教の總管長を兼ね、回教經典の主意に則りて施政せり。

十七世紀の頃には、此の國は、ヨーロッパの一強國として、バルカン半島の全部を領せしが、同世紀の末葉より、國土日に縮まり、今は、アドリア海と黒海との間に、一條の狭き

處誌
コンスタンチノ
ブル

地を残せるのみ。其の制度及風俗は、ヨーロッパ洲中にありて、一種、黒色の國と稱せらる。

五、處誌 首府コンスタンチノブル 人口一百二十萬は、ボスポロス海峽に臨み、小アジアのスクタリ市と相對し、ヨーロッパ、アジア兩陸の間にありて、黒海と地中海との交通の中心となり、其の形勢、最優なり。港を、金角灣と稱し、屈指の良港なれば、貿易も、亦、盛なり。帝宮は、海に面し、市の外觀は、美なれども、市中は、甚汚穢なり。サロニキは、多島海に臨める一商港なり。アドリアノーブルは、マリツ、河畔にあり。薔薇油の産を以て聞こえたり。

國の東南隅マセドニア州は、歴王の故國にして、史上に著名なり。又、其のオリムプス山九千五百尺は、全半島中の最

サロニキ

マセドニア州

カンヂヤ島

ブルガリア

位置



コスタントヌポル トコル人

高峯にして、古、ギリシア諸神を崇めて、擧國の信仰を集めし所とす。

カンヂヤ島は、トルコの保護の下にあり、橄欖油の産多し。

(三)ブルガリア

南は、トルコより、北は、ドナウ河に至る間に、ブルガリア侯國あり。其の中央なるバルカン山脈以南の地を、又、東ルメリアとも稱せり。東ルメリアには、香水の名産あり。

住民

住民は、スラブ族にして、ギリシア教を奉ずるもの多し。この國は、露土戦争後、ベルリン條約に依りて、トルコの保護の下に一侯國となりぬ。

首府をソフィア 人口六万七千と稱せり。

ロマーニア

(四)ロマーニア

境城

この國は、ドナウ河と、ブルート河との間に擴がり、ソラキア、モルダヴィア、及、ドブルヂャの三州を合はせたり。

住民

住民は、スラブ族、ラテン族等の混合より成り、人口は、トルコに同じく、宗教は、ギリシア教を奉ぜり。ベルリン條約に依りて、國土擴張し、獨立王國となれり。

天産

ドナウ沿岸、殊に、其の三角洲は、地味肥えたれば、玉蜀黍以下の穀類を産すること夥し。又、鑛産に富みて、石炭、石

ブカレスト

腦油、岩鹽を出だせり。

首府ブカレスト 人口二十八万は、ドナウの一支流に沿ひ繁華なり。

セルビア

(五)セルビア

位置

ブルガリアの東に位せる一小王國にして、立憲政を施けり。國民は農牧を業とし、スラブ族に屬し、希臘教を奉ぜり。

ベルグレド

首府をベルグラド 人口七萬と稱せり。ドナウ河のサーベ

河と會流する所に位せる一要區なり。

モンテネグロ

(六)モンテネグロ

住民

モンテネグロは、「黒き山」の義なり。國內山を以て充たされたり。住民宗教等皆、前記諸國に同じ。國人勇武に

して、其の獨立の舉を成就せむがため、二百年間、屈せずして、トルコ人と戦ひ、遂に、強國の助を得て、今日の獨立侯國をなしぬ。

チエチニエ 四千人と稱せり。

チエチニエ

アフリカ洲

第四篇 アフリカ洲

第一章 總論

境位
界區

一、位置、廣袤 此の洲は、東半球の南西に位し、スエズ

の地峽に依りて、僅に、ヨーロッパ、アジア大陸に連結せり。

其の境界、北は、地中海を隔てて、ヨーロッパ洲と相對し、西、及

南は、大西洋、東は、インド洋に臨み、又、北東は、紅海を隔てて

アジア洲に對せり。

其の東西の距離は、南北と同じく、五千哩、面積一千二百

萬方哩ありて、五大洲中、第三に位せり。

二、海岸 本洲の海岸線は、一萬六千哩あれども、面積

海岸

廣袤

の大きさに比すれば、五大洲中にて、最短なり。面積七百五十哩に對し、一て海岸線今其の出入の甚だしきものを舉れば左の如し、地中海方面には、シドラ、カベスの二灣あり。インド洋方面には、紅海、アデン灣、ソマリ半島あり。又、モサンビク海峽を隔てて、マダガスカル島あり。大西洋方面には、唯一のギニア灣あり。南端にある一岬を、グードホープ崎といふ。



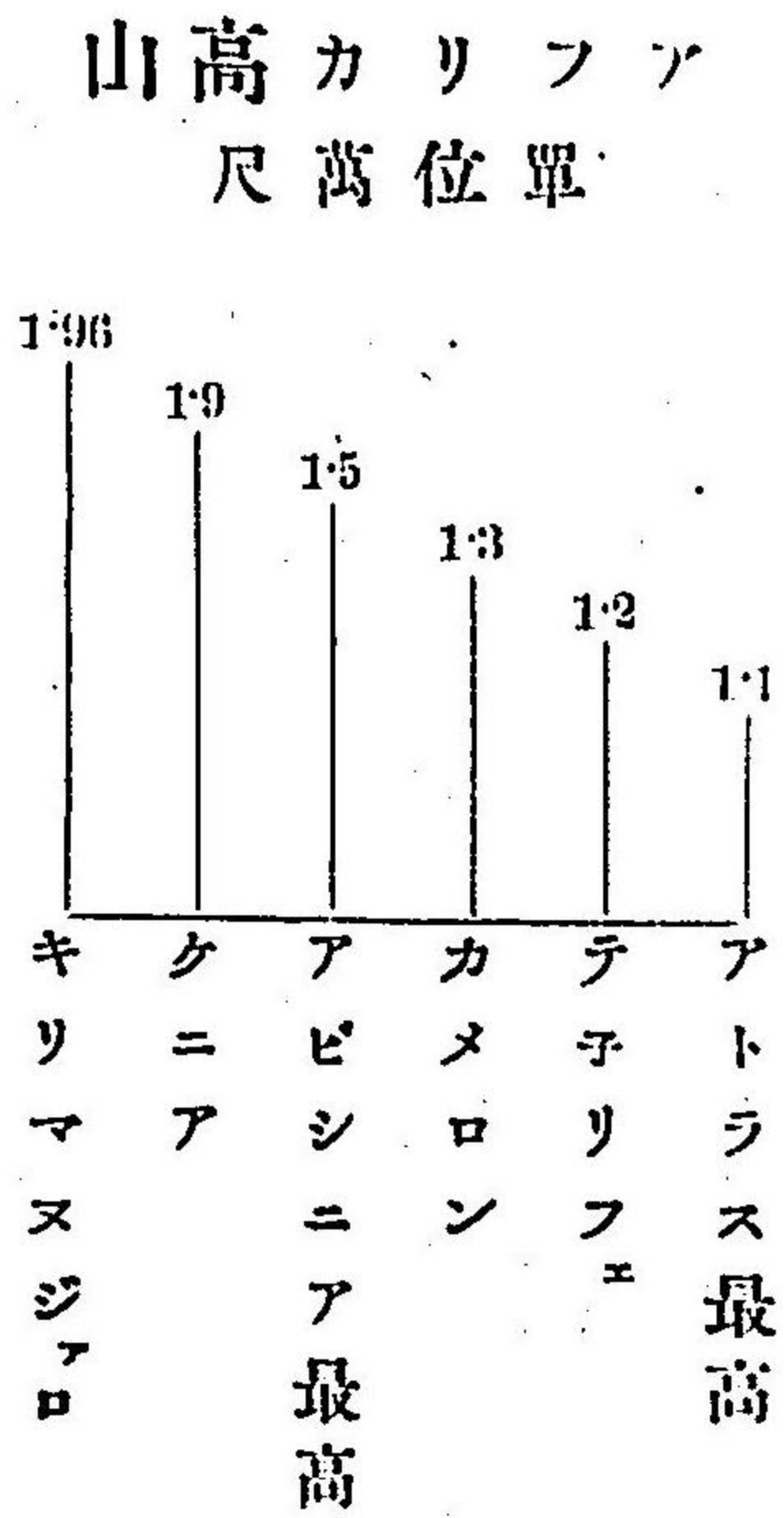
洲カリフア

地勢、山系

三、地勢、山系 本洲は、周邊に山脈を遶らし、中央は大高原を形どれり。試みにアデン灣より、ギニア灣に至る間に一線を畫せば、この高

北部高原

南部高原



原は、亦、おのづから、南北の二部に分かるべし。北部高原は、横に、東西に廣がり、其の山脈には、北邊にアトラ

ス山脈あり。東方に、アビシニア山彙、ギニア灣北にコング山脈あり。有名なるサハラ大沙漠は、是等の山脈に圍繞せられたり。南部高原は、縦に南北に伸び、高度は、遙に北部高原に優れり。其の東岸山脈中、ケニア、キリマヌジャロの二峰は、高さ共に一萬九千尺に及べり。西岸山脈は、北カメロン山脈の後を嗣ぎて、グードホープ崎に達せり。此の南端の地方も、一般に、高峻の地貌を呈し、南緯二十度

區劃

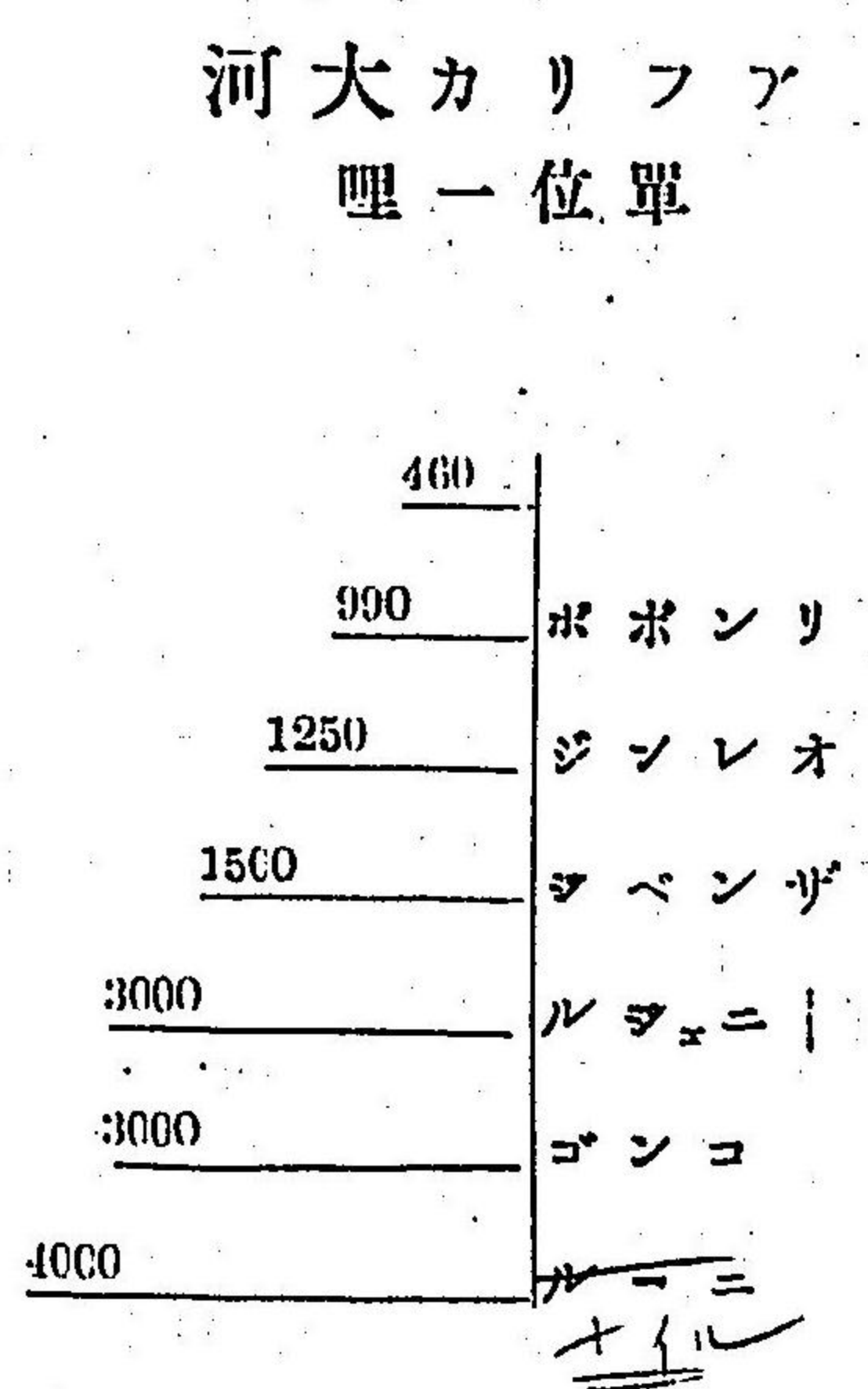
より、三十度に至る間に、カラハリ沙漠あり。
四、區劃 上の地勢に基づき、本洲は、之を北アフリカ、南アフリカ及、島嶼部の三に分かてり。今、其の各部に屬せる國名を示せば左のごとし。

- 一、北アフリカ バルバリ諸國、エジプト、サハラ、スダン、アビシニア、ソマリ、上ギチア、セチガンビア、
- 二、南アフリカ 下ギチア、東岸諸國、英領南地方、
- 三、島嶼、

水系

五、水系 本洲には、又、大河多し。ニール、ザンベジ、オレンジ、コンゴ、及、ニジルを其の五大河と稱せり。されど、是等の河は、吐口に三角洲を成し、中流には、急湍、瀑布あり

ニール河



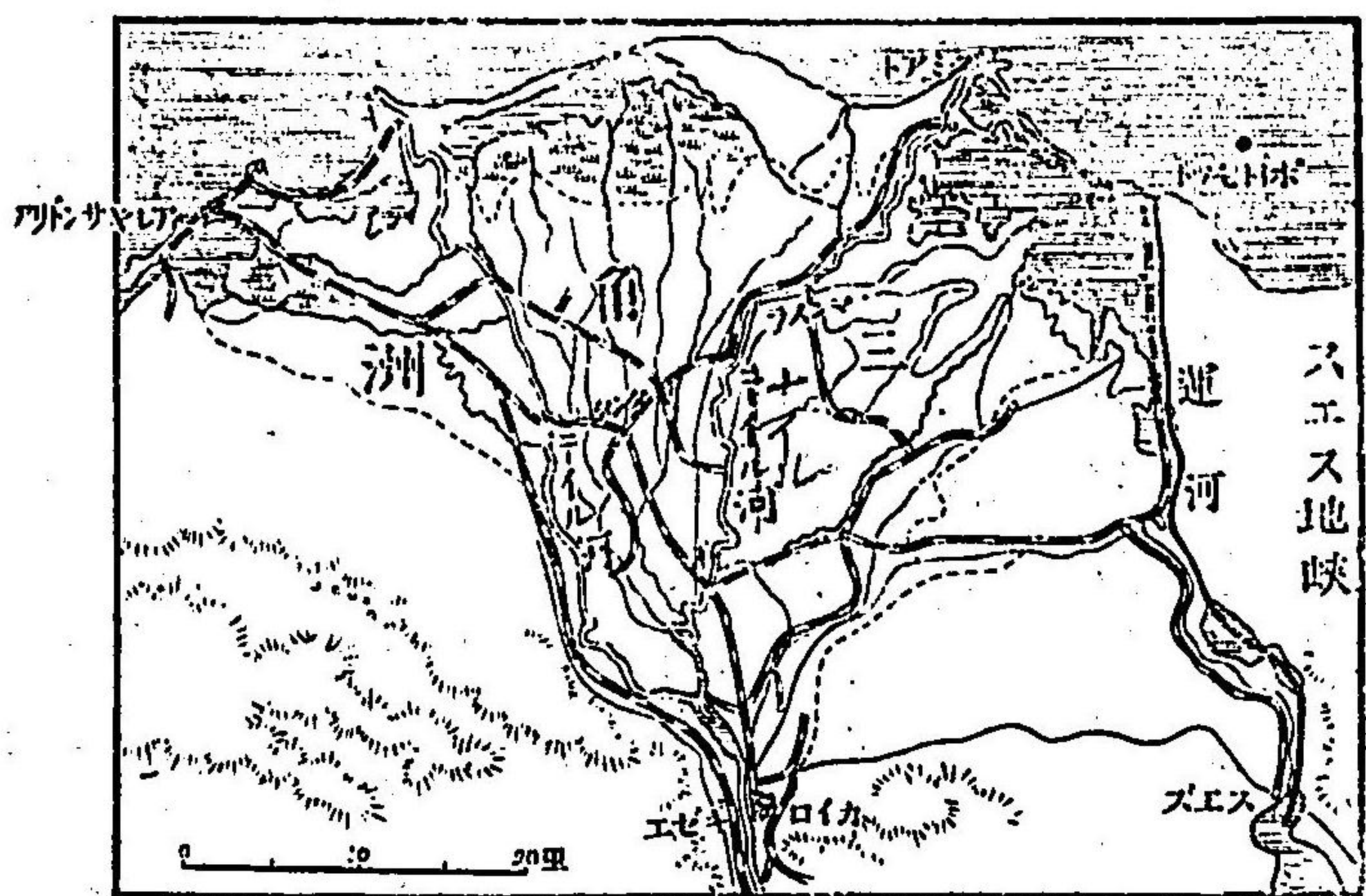
て、交通を障礙すること
尠からず。ニール河は、
世界第三の長流にして、
流程四千哩あり。本流
は、白ニールと稱し、ビク
トリア、
エヤンガ湖より

コンゴ河

發し、蜿蜒として、森林、溪谷の間を流れ、途次、青ニール、アト
バラの兩大河を合せ、エジプトに至り、三大角洲を作りて、
地中海に入れり。之に次ぐは、コンゴ河にして、流程三千
哩あり。タンガンイカ湖に發源し、ギチア灣に注げり。
ニジル河は、長さ此と相伯仲せり。又、本洲に大湖の多き
は、北アメリカに次げり。中にもビクトリア、ヌヤンガ湖、

湖水

氣候

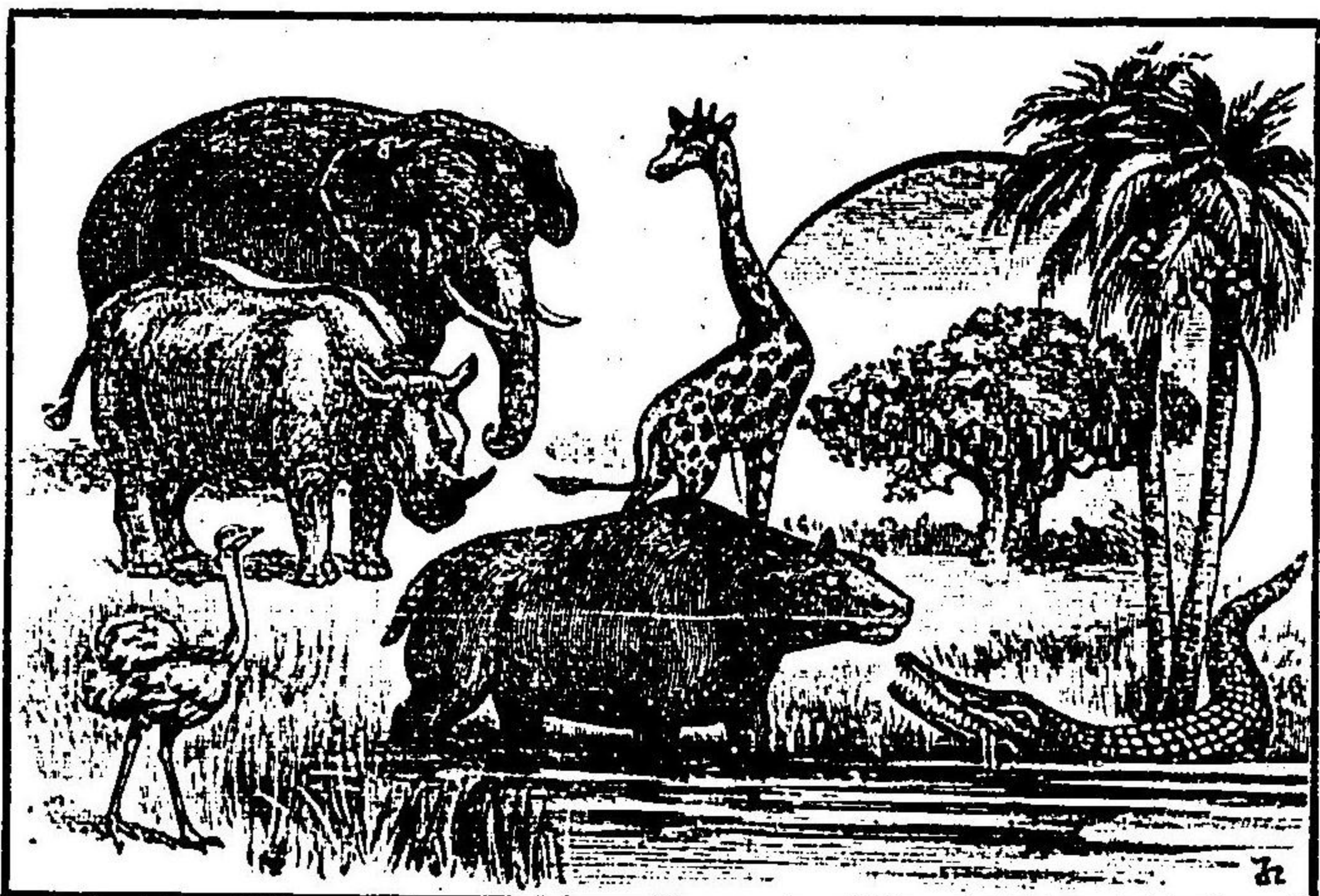


沙漠地を生じ、氣候酷烈なり。

最大にして面積三萬方哩あり。タンガンイカ、ニアス、チアード湖等之に次げり。
六、氣候 本洲の大部は熱帯に位するを以て、氣候は概して高熱にして、且大陸性なり。赤道附近の地は、降雨多くして、樹林繁茂すれども、南北回歸線の近傍は、四時乾燥せるが故に、サハラ、カラハリの兩大殊に、サハラ、カラハリの兩大

ニナール河

天產物
植物



アフリカの動物植物

の熱地にして、極暑には攝氏寒暖計六七十度を示し、土は火、風は燄の稱あり。北西端には、稍中和なる所あり。
七、天產物 本洲には、珍奇なる熱帶動物植物多し。植物は、地中海沿岸のものは、南ヨーロッパに類し、紅海沿岸のものは、アジアに似たれども、沙漠地方には、ペルシア棗十分に生育し、スダンには、ベオバブとて、幹棉樹、椰樹、護謨樹等亦、此

動物

に繁茂せり。グードホープ崎附近には、穀物、葡萄の産あり。コンゴ河の灌域なる大森林は、南アメリカアマゾナの森林と併び稱せらる。

動物の種類も亦、甚多く、殊に、巨大のものに富めり。獅子、象、犀、麒麟、駱駝、河馬、人に似たる獼猴、駝鳥、鱈魚等は、本洲の特産と稱すべきものなり。中部以南には、ツツと稱する毒蛇蔓延し、家畜を傷害すること甚しといふ。

礦物

礦物は、探査未至らざれども、トランスバールは世界稀有の金産地として、聞こえ、其の附近には、多額の金剛石をも産せり。岩鹽は、分布弘く、アトラス山よりは、鐵、銅、鉛を出だせり。

住民

八、住民 人口總數、凡、二億あり。其中、白人種には

黑人

「ハミット」「セミット」の二派ありて、地中海、及東方の沿岸に住めり。黑人種は、中部以南に居り、スダン人、バンツール人、ホッテントット人、ブッシュマン人等の種族あり。此の外、マダガスカル島には、マライ種あり、又、南端には、白人のヨーロッパより移住せるもの少なからず。是等、各種族の中、白人は、姑く措き、他は多く、蠻民中の最劣等なるものにして、其の性質は、殘忍酷薄を極めたり。

蠻族

宗教

九、宗教 宗教は、中部以北にては、回教の勢力、甚盛なり。基督教は、多く、移住民の間に行なはれ、エジプト、アビシニアの住民にも、多少之に歸依するものあれども、未盛なりと謂ふべからず。黑人種の間には、拜物教、專行なる。言語の最、流通するは、アラビア語なり。

言語

交通

鐵道

現勢

探險

一〇、交通 本洲は、沿岸の出入乏しきのみならず、内地交通の媒介たる河流も、急流多くして、十分の功を收め難し。然れども、鐵道は、年年延長せられ、イギリス人は、南北縦貫鐵道の敷設に着手して、已に深く内地に入り、又、フランス人は、東西横貫鐵道の設計を案出せりといふ。

一一、現勢 本洲は、文化、今に洽からずして、内地は到るところ蠻民の住地となり、一も完全なる獨立の邦國をなさず。さればヨーロッパ各國は競うて、此等の蠻土を分取し、之を領土となし、或は保護國となせり。唯マロコ、アビシニア、リベリアの數國のみは、現時、僅に、他の羈絆を免かれたり。

本洲は、闇黒アフリカの稱あるごとく、古來、蠻族の住地

となり、猛獸の巢窟となりて、内地の事情、久しく分明ならざりしが、ヨーロッパ人の好奇心は、永く之を棄つるに忍びず、前二世紀の間に、許多の探險家出でて、次第に内地の秘密を發き、之を世上に紹介したり。彼の有名なスコットランド人、リビングストーンのごときは、サンベジー河源を探り、又、ニールの源頭を極め、大いに内地の事情を明らかにせしかど、不幸にして、病に斃れたり。又、イギリス人スタンレーのごときは、始めて、深く、内地に入り、コンゴ河口より赤道を越えて、東岸に出づるまでに、殆、三年を費やしたりといふ。是等の偉人の功績は、今尙、世上に喧傳せられたり。

北部アフリカ

第二章 北部アフリカ

バルバリ諸國

第一 バルバリ諸國

バルバリとは、地中海に瀕せる諸國の總稱なり。其の國々は、マロコ、アルジェリア、チュニス、及、トリポリ是なり。アトラス山脈は、東西に連亘し、マロコにては、高さ一萬尺以上に達せるものあり。沿海の地は、肥沃にして、樹林繁茂せり。氣候も、亦、溫暖なり。

住民

住民は、主として、バルバリ人なり。宗教は、回回教、專行なはれたり。

マロコ

(一) マロコ

此の國は、バルバリの最西に位し、海岸は、地中海と大西

フェズ
マロコ

洋とに瀕せり。内地は、高峻にして、地味、肥沃なり。牧畜は、國人の主要なる生業にして、農業之に次げり。國の主權は、サルタンの手にありて、祭政一致なり。

フェズ人口十萬を國內第一の都會とし、マロコを、其の首府とせり。

アルジェリア

(二) アルジェリア

フランスの屬地にして、地中海を隔てて、本國と相對せり、フランスの殖民地中、最要のものたり。風土大いに、人身に適し、農業發達せり。製紙の原料に供する「アルファ」草は、此の國主要の輸出品なり。

首府アルジェーには、フランス國派出の總督あり。

チュニス

(三) チュニス

アルジェリアの北東にあり。初、トルコ領なりしが、今は、フランスの保護地となりたり。此の國も、亦、農業進歩し、穀物、橄欖等を産せり。

チロニス

首府を、チロニスといへり。其の近傍には、有名なるカル

セージの遺跡あり。

トリポリ

(四)トリポリ

トルコの所領にして、フェザン、バルカの二地方を含めり。

トリポリ

首府を、トリポリと云ひ、海濱に位せり。毎年隊商の數群、

此所より出でて、サハラに入る。

エジプト

第二 エジプト埃及

位置

一、位置形勢

エジプトは、本洲の東北隅を占め、スエズ運河の東なるシナイ半島をも含めり、面積四十萬方哩

あり。

形勢

ニール河中央を貫流し、年々、七月より十月に至る間に洪水氾濫して、沃土を残留す。故に此の地の灌域、及其の三角洲は、無類の飢地を成せども、他は、多く荒蕪に委せり。リウ、ア沙漠のごとき是なり。此の國は、炎威甚しく、降雨乏しきが故に、氣候、人身に適せざれども、産物は豊饒にして五穀、棉花、甘蔗等の收穫多し。

住民

二、住民

戸口の繁殖せるは、主として、ニール地方にして、人口凡、一千萬あり。其の中、古代エジプト人の裔を最多しとす。宗教は、回教、盛にして、ヨーロッパ人は、基督教を奉ぜり。教育は、甚、振はず。

政治

三、政治

此の國、表面は、トルコの所屬にして、國王之

沿革

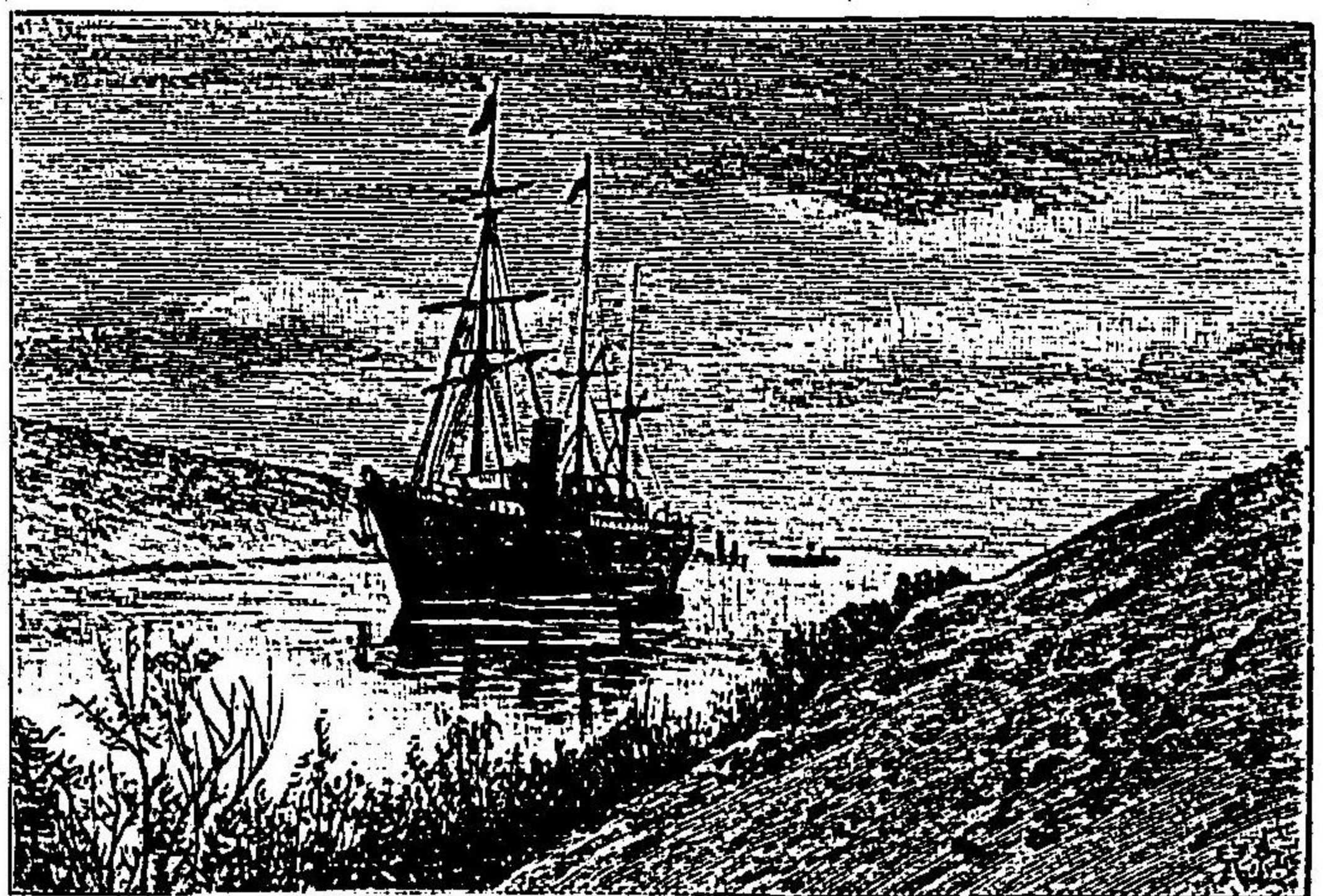
を統率し、貢金をトルコ廷に納む。然るに、一千八百八十三年、更に財政顧問をイギリス國に聘せしより、以來、イギリスは、諸般の施政に干涉し、竟に其の實權を掌握せり。エジプトは、世界最古の開明國として、文化、夙に進みしが、今は國の獨立をさへ失ふに至りぬ。されど、古代の遺蹟は、今、尙存して、當時の盛況を追想せしむるに足れり。彼の金字塔、方尖碑、獅身人面像のごときは是れなり。

交通
スエズ運河

四、交通　スエズ地峽には、スエズ運河あり。長さ八十七哩にして、紅海と地中海とを連絡せり。フランス人レセップの設計に依り、千八百五十四年より、着手し、八百六十九年に始めて、其の工を竣へたり。此の運河の通ぜしより以來、世界の交通貿易の上に、一大變動を興へたり。

縦貫鐵道

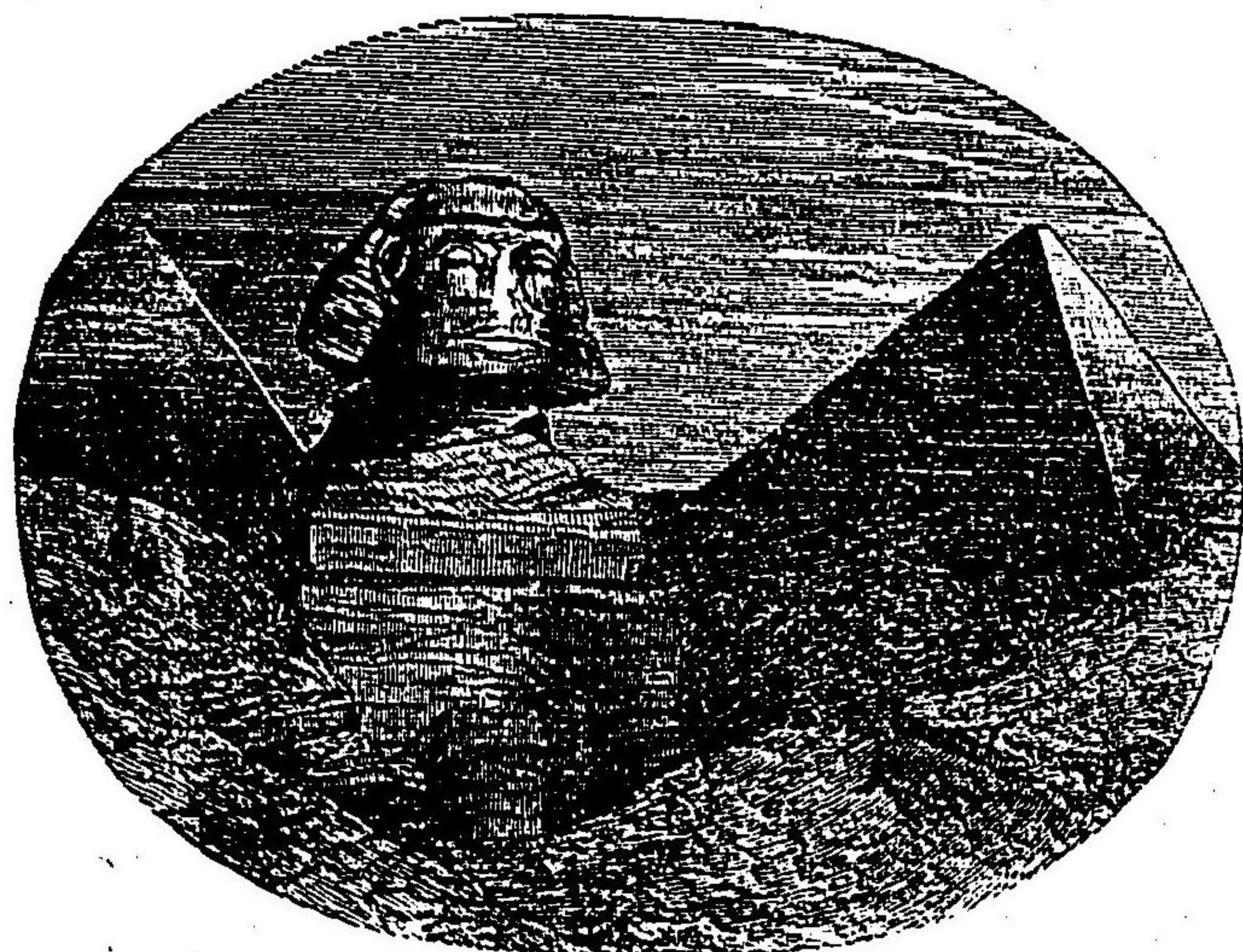
處誌
カイロ



スエズ運河

又、ニール河口より、河に沿ひて、國を南に貫く縦貫鐵道あり。此の他、重要都市の間にも、鐵道ありて、其の軌條、及車輛の構造、完全せること、ヨーロッパ、アメリカにも類少なしと稱せらる。五、處誌　首府カイロ人口五十萬は、ニール河の右岸に立ち、アフリカ第一の都會なり。此の對岸、ギゼーの近傍に、彼の金字塔の最大なるものあり。大三角洲の

アレクサンドリ



大金字塔

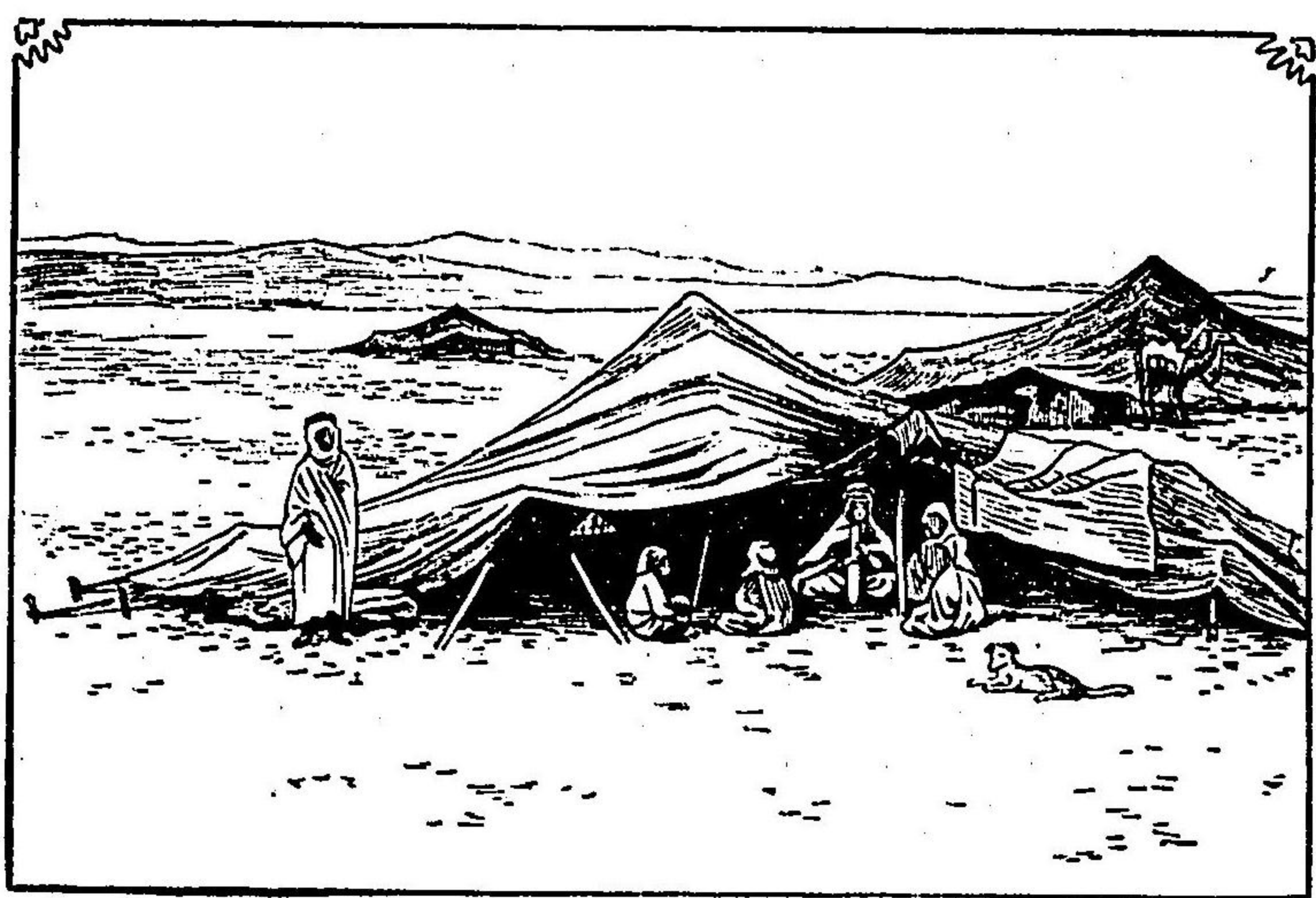
西北隅、地中海に枕んでアレクサンドリア市あり。古、アレクサンドル大帝の創設に係り、當時は文華燦然として、智識の府と稱せられしが、今は唯、當國主要の商業港たり。スエズ運河の南北兩端にスエズ、ポート、サイドの兩港あり。

第三 サハラ

サハラ沙漠の境域は、西、大西洋より、東、ニール河畔に至

サハラ
境域

オシス



沙漠の隊商

漠旅行者の生命と頼む所なるのみならず、中には、方數百

り、北アトラス山脈より、南、一千哩の間に亘れり。其の面積は、本洲の五分一に過ぐ、實に世界中、最大の沙漠たり。

サハラには、所々に、山脈「ワヂー」水ある川「オシス」の沙漠中、等あり。オシスは、泉水あり。草木叢生して、宛、海中の島嶼のごとき觀あり。沙

氣候

哩に擴がれるものありて、人、此の所に棲めり。氣候は、雨ふることに稀にして、晝間、炎暑燬くがごとくなれども、時として、夜中の冷氣甚しきことあり。もし又旋風起るときは、沙塵天に滿ち、人獸、爲に埋没せらるゝことありと云ふ。

第四 スダン

スダン

地域及區劃

サハラ沙漠以南、上ギチアまで、南方はニール上流に至るまでの一帯の廣地を、スダンと稱し、之を大別して、東、中、西の三部とせり。氣候は、サハラに比すれば、佳良にして、降雨多きが上に、ニジェル河、チーデ湖、ニール河等の水潤あれば、植物能く繁茂せり。又象牙、駝鳥の羽毛、砂金等をも出だせり。

氣候

産物

住民

元來、スダンとは、黑人地の義なり。住民の半は、黑人より成り、半は雜種の民より成りて、奴隸賣買及、殺人遠征に従事するもの多し。以て其の殘忍なることを知るべし。

東スダン

一、東スダン 一にエジプト・スダンとも稱せり。エジプトの南に隣し、從來、ヌビアといひし地方をも含めり。其の初、エジプトの管下たりしが、今は名のみは、エジプトの配下に屬すれど、實は、イギリスの掌中にあり。

ハルツーム

ハルツームは、青、白、ニール河の會合點に位し、曾、ゴールドン將軍が、重圍の中に陣歿せしところなり。縦貫鐵道は、今や、此の地まで、南下し來たれり。ドンガラは、土民の貿易市なり。

中、西スダン

二、中、西スダン 此の二部は、輓近、共にフランスの勢

テムブクツ

力範圍に屬せり。ナイゼル河の中流なる、テムブクツは、西スダンの一邑にして、商業の樞要地たり。

アビシニア

第五 アビシニア

形勢

アビシニアはエジプトスダンの東にあり、其の海岸の地は、低平なれども、西方は、高峻なる山脈を遶らし、アフ리카のスウイスと呼ばれたり。中央タナ湖よりは、青ニール發源し、アトバラ河も、亦、此の國を流れたり。毎年六月より九月に至る間は、有名なる大雨季にして、是が爲に、ニール河に、定時の洪水あり。氣候は、東西に依りて、大差あり。されど、一般に熱帶性の植物を生ぜり。

住民

住民は、黒人とアラビア人との雜種なり。性、殘忍にして、好んで、生肉を喰へり。其の生業の主要なるものは、牧

政治

畜なり。此の地方には、一種の基督教行なはれたり。此の國は、一千八百八十九年に、一旦、イタリアの保護國となりたれども、翌年直に、列國の承認を経て、獨立することを得たり。現時、專制君主、上にありて、聯合諸國を率ゐたり。

ゴンドル

首府、ゴンドルは、タナ湖畔にあり。

エリトリア

紅海岸にあるエリトリアは、フランス領なり。

第六 ソマリ

ソマリ

ソマリは、本洲の最東部なる大海角にして、三部に分かる。即、最西の小部をフランス領とし、アデン灣に瀕せるをイギリス領とし、インド洋に向へるをイタリア領とせり。

上ギチア

境城

地勢

住民

處誌

第七 上ギチア

上ギチアは、ギチア灣の北岸にして、東ニジール河の流域を以て、ドイツ領カメロンと境を分かち、西、シエラ、レオネを以て、セチガンビアと相隣る一帶の地なり。

ユング山脈は、北邊を横走し、ニジール河、此を發して、西ニダンを迂回し、河口に、三角洲をなして海に入れり。瀕海の地は、大抵、平行にして、椰子油、護謨、及、各種の物産、皆、豊なり、沿岸の各部に、象牙岸、黄金岸など、物産名を冠せしめたり。されど、氣候は、酷烈にして、濕氣多し。住民は、スダシと同種の黑人にして、其の風習、亦、大概、彼に似たり。

二、處誌 上ギチアの區分は、凡、八地方とせり。即、左のごとし。

ニジール

ダホメ

トゴ

サラガ中立地

アシアンチ

象牙岸

リベリア

(一)ニジール地方領 英領アフリカ中、重要部の一なり、ラ

コス府は、椰子油、集散の中心市場たり。

(二)ダホメ領 佛 首府アボメ。

(三)トゴ領 獨 領ニジール地方より、此の地に至る間の海岸を、奴隸峯と稱せり。

(四)サラガ中立地 トゴの西北内地の一小部なり。

(五)アシアンチ領 英 黄金岸と稱するは、此の沿岸地方なり。

(六)象牙岸領 佛

(七)リベリア 一に穀物峯、或は、胡椒峯ともいへり。解放せられたる奴隸の爲に、北アメリカ合衆國人の建てし一小共和國にして、政治、一に合衆國の制に則とる。首府をモンロウア人口五千と稱せり。

シエラレオネ

(八)シエラレオネ領 英 舊き殖民地なり、首府をフリータウ
ンといふ。

セネガンビア

第八 セネガンビア地方

バード崎の近傍、セネガル、ガンビア二河の灌域にして、
氣候、産物、大抵、上ギニアに類せり。住民は、黒種なり。分
ちて、佛領、ヒチガル、英領ガンビア、葡領ギニア、佛領ギニア
の四部とせり。要するに、大部は、佛領にして、其の勢力、亦
最、強し。都邑には、佛領のサン、ルイ、英領のバサースト有
名なり。

南部アフリカ

第三章 南部アフリカ

下ギニア

第一 下ギニア

位置

カメロンの南フリオ崎に至る間の大西洋沿岸地方を、

區劃

下ギニアと總稱せり。中に獨領カメロン、佛領コンゴ、コ
ンゴ獨立國、葡領西アフリカの四部を含めり。今是に一
の獨領南、西アフリカを附屬せしめたり。

カメロン

(一)カメロン カメロン山脈の東邊に廣がれるドイツ
領地なり。氣候不良にして、マラリア流行するが故に、ヨ
ーロッパ人は、河上に舟筏を泛べて、居住せり。椰子油の産
あり。

佛領コンゴ

(二)佛領コンゴ カメロンの南、大西洋岸より、深く内地
に連なりて、北は、チャード湖邊に、及び、東南、コンゴ河を以て、
コンゴ獨立國と界を分かつてり。フランス驛と名づくる
商業地あり。

コンゴ獨立國

地域

コンゴ河

(三)コンゴ獨立國 南アフリカの中部を占め、廣袤、殆、我が國の六倍に相當し、人口、凡、三千萬を有せり。住民は、大抵、「バンツ」族にして、コンゴ河の流域に住めり。當國は、實に、この膏腴なる流域の全部を領せり。河流、所々に激湍、急瀑あれども、河口より三百哩なる、スタンレー沼より、上流、約一千哩の間は、汽船の通航自由なり。

氣候

氣候は、海濱の地は、炎熱強く、又、濕潤なれども、内地は、稍人身に適せり。殊に、コンゴ河の沿岸には、數十の宿驛起こりて、人多く集まれり。地味、肥えたれば、物産に富めり。護謨、象牙、椰子油、落花生等は、重要な輸出品にして、輸入品は、大抵、雜貨類なり。

物産

政治

この國は、以前、ベルギー王の發意になれる、コンゴ協會

葡領西アフリカ

獨領南西アフリカ



ンマシワ



トットンテソホ

の治下なりしが、皇は、一個人の資格にて、此の國に、君臨し、嚴正に中立を守りて、自由に、世界各國と通商せしむ。總督は、ボマにありて、管内、十數州を支配せり。近時、我が國とも條約を結べり。
(四)葡領西アフリカ 一に、アンゴラと稱せり。コンゴ河口より、クチーチ河に至る間の地にして、首邑をロアンダといへり。
(五)獨領南西アフリカ ギチアの南、クチーチ河より、オレンジ河に至る間の地なり。其の中、ワルフ、ツシ灣の一小部をイギリス領とす。葡領西アフリカと共に、蠻族、ホ、テントット、ブッシュマン

東岸諸國

區劃

の棲息せる所なり。是等は身長四五尺の矮小なる人民にて、物理を辨へず、最劣等の人類たり。

第二 東岸諸國

ソマリの南境、ジバ河以南のインド洋岸なる三國を總稱す。英領、獨領、葡領、東アフリカ是なり。

東岸山脈、此所に崛起し、本洲の最高峯キリマヌジャ口は、二萬尺に近く、獨領部にあり。之に次ぐ高峯ケニアは英領部に峙ちて、地勢甚昂起するを以て、ビクトリアヌヤンザ以下の三大湖、西邊に連なりて、諸河の源頭を成せども、河流數所に瀑布を懸くるもの多し。中にも、ザンベジ中流のビクトリア瀑布、最高名なり。其の壯觀、ナイアガラと匹敵すべし。

地勢

ビクトリア瀑布

英領東アフリカ

ザンシバル

獨領東アフリカ

葡領東アフリカ

(一)英領東アフリカ、^{ウガンダ}保護地と稱す。モンバサは、東南隅の一港なり。ザンシバルは、同名の島上にあり。東岸諸國中第一の商港たり。

(二)獨領東アフリカ、ダル・エス・サレム港、名あり。

(三)葡領東アフリカ、モザムビーク海峡を隔て、マダガスカル島と相對せり、モザンビクは首府なり。

英領南方諸國

地域

第三 英領南方諸國

タンガンイカ湖以南、グードホープ崎に至るまでの東岸諸國と、下ギチアとの間に横はる地域全部の總稱にして、總べてイギリス勢力の範圍内にあり。分かちて、中アフリカ保護地、南アフリカ、ベチアナランド、トランスバール殖民地、オレンジ河殖民地、ナタル、バストランド、グード

區劃

中
ア
フリ
カ
保
護
地

南
ア
フリ
カ

ベ
チ
ャ
ア
ナ
ラ
ン
ド
保
護
地

ホープ殖民地の八部とせり。

(一)中アフリカ保護地 英領中アフリカは、東ニアス湖に至り、南ザンベジ河を限りとす。地廣けれど、事情未審かならず。縦貫鐵道は、將に南より來たりて、此の地に入らむとせり

(二)南アフリカ ザンベジ河以南、リンポポ河に至る區域なり。縦貫鐵道は、グードホープ崎より來たりて、ブルワヨールを経たり。

(三)ベチャアナランド保護地 ザンベジ河の上流地方より、南オレンジ河に至る區域を名づく。カラハリ沙漠は、此の國の西方にあり。縦貫鐵道は、其の東邊を貫流せり。此の地は「ベチャアナ」といふ土人あるに因みて名づけたり。

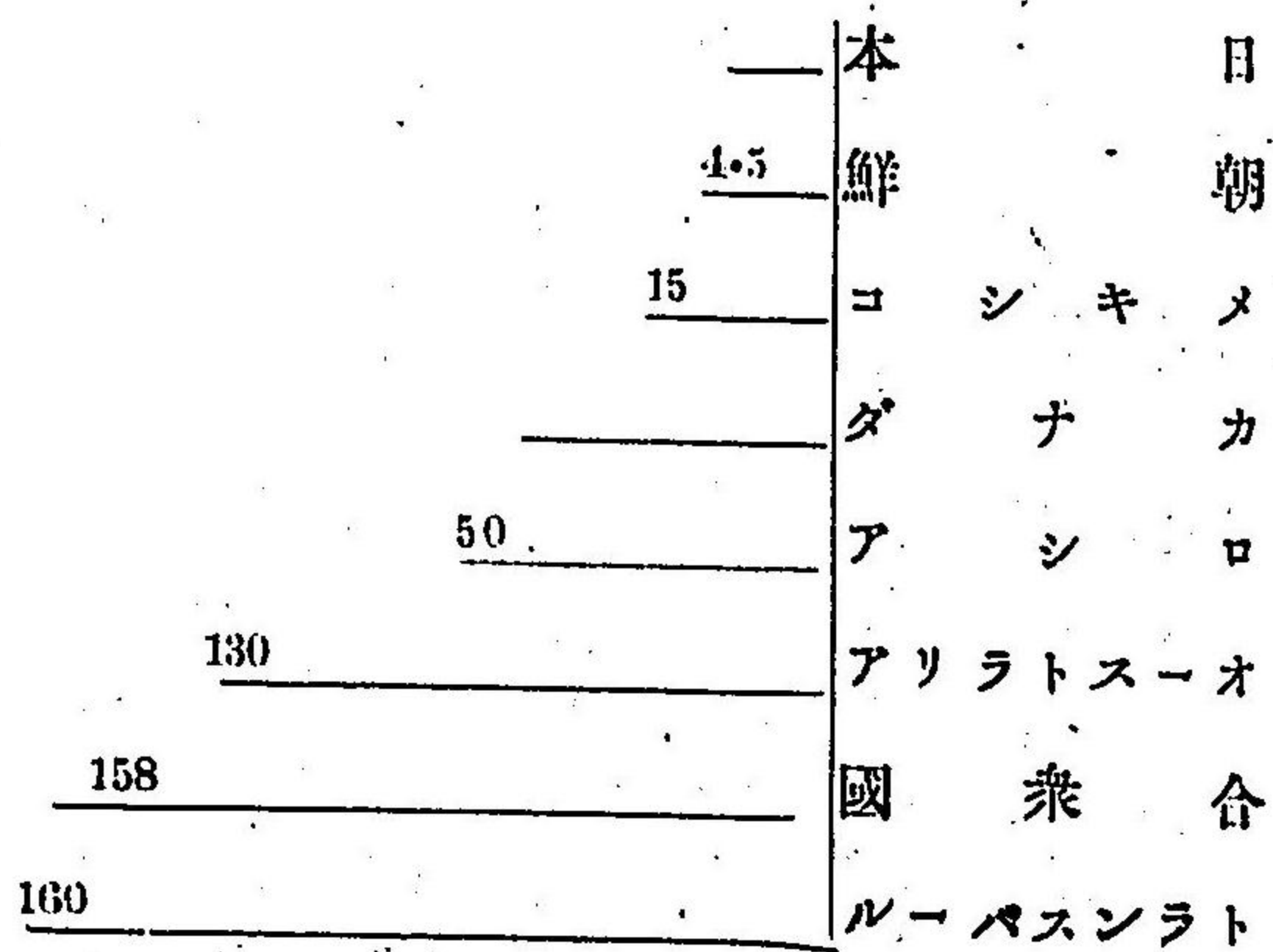
ト
ラ
ン
ス
バ
ー
ル
殖
民
地

礦
物

沿
革

(四)トランスバール殖民地 リンポポ河と、オレンジ河の分流との間に、夾まれる地にして、大さ殆、我が國と等し、

各 國 金 産 額
單 位 百 萬 圓
工 學 士 前 川 益 次



て、北アメリカ合衆國、オーストラリアといへども、此の地に比すれば、較、遜色あり。

地味、氣候兩つながら、農牧に適せり。又、金石炭、鐵等の良鑛を埋藏すること、頗多し。殊に、金の量は、世界第一にし

都邑

オレンジ河殖民地

始め、グロッドホープ崎に殖民せしオランダ人は、イギリス人の力に敵せず、次第に内地に邵きて、南アフリカ共和国即このトラ及、オレンジ共和國を建てたり。其の民を「ボリア」と稱せり。一千八百七十七年、南アフリカ共和國は、一旦、英領となりしかど、やがて、再獨立することを得たりしに、イギリス人の干涉、煩はしきに依り、遂に戦端を開き、一時勝を得て世界の耳目を聳動せしかど、程なく敗れて、降をイギリスに乞ひ、今は其の殖民地となれり。

人口、殆、百萬に餘り、其の内、三分一は、白人なり。首府プレトリアは、鐵道の集合點たり。ヨハネスブルグ人口は、十萬は、最大の都會にて、金産地の中心に立てり。

(五)オレンジ河殖民地 トランスバールの南に接し、オ

ナタル

バストランド

グロッドホープ殖民地

レンジ河、其の南を限れり。風土、亦、よくトランスバールに似たり。産物には、羊毛、駝鳥羽毛、金剛石あり。

人口凡、二十萬、ボリア人を多しとす。トランスバールと共に、イギリス人と交戦の末、今は其の一殖民地となりぬ。首府をアルムフンタインといふ交通の中心たり。

(六)ナタル オレンジ河殖民地の東に接せり。地味、肥え、甘蔗、玉蜀黍の産に富めり。又、石炭、羊毛を出だす。ナタル港は、重要な商港にして、首府を、ピーターマリツブルグといへり。

(七)バストランド ドラ、ケンベルグ山脈の西麓なる英皇直轄の一小國にして、風土、能く、人身に適せり。土地の豊饒なるは、南方諸國中の首位にあり。

境域

(八)グードホープ殖民地 北はオレンジ河、東北ナタルより南海に至る。面積は、我が國よりも稍大なり。英領

地勢

アフリカ殖民地中、最肝要にして、且最開けたる地方なり。

氣候

地勢 海岸より次第に内地に高隆し。又山脈は所々、海岸に併行して、斷續し、最高峯は、八千五百尺に達せり。

天産

南温帯に位するを以て、夏季を除くの外は、氣温、大抵温和にして、雨少し。農耕牧畜の業、甚盛なり。中にも、牧羊は生業中の最要なるものにして、羊毛の産出は、他に多く比類を見ず。駝鳥羽毛の輸出額、亦巨大なり。礦物には、金剛石、銅あり。殊に、金剛石の産額は、世界第一にして、二十年間の採掘額、三億五千萬圓に達せりといふ。

ケープタウン

首府ケープタウン 八萬人口は、テーブル灣に臨み、鐵道四通

島嶼

キンバリー

せり。スエズ運河、開通前は、東西兩洋の通航上、必由の港なりしかば、甚殷賑なりしが、今は、出入の船舶大いに減少せり。されど、貿易は、尙依然として、其の盛況を維持せり。キンバリーは、北方に面し、金剛石の中央産地として、其名を知られたり。

第四章 島嶼

インド洋諸島

本洲に屬する諸島嶼を大別して、インド洋諸島、大西洋

ソコトラ島

第一 インド洋諸島

コモロ諸島

一、ソコトラ島、セーシェル諸島 英領

マダガスカル島

一、コモロ諸島 佛領

三、マダガスカル島 長さ一千哩に及び、世界三大島の
一なり。島中、大概、火山質の山にして、最高峰は、九千尺に
達せり。沿海は、沃地を以て圍繞したれども、氣候、宜しか
らず。東岸は、インド洋に面するを以て、雨量、殊に多し。
農牧の業、盛に行はれ、住民は、米、マニオ、薯を常食とせり。
諸種の輸出品あり。住民は、マレイ人種を主とし、其の最
進歩せるものを、ホバー入と稱せり。前に、一君主國を建
てたる事ありしが、フランスは、其の王を廢して、屬領とせ
り。首府に、アンタナナリトウ、人口五萬商港に、マタプあり。
四、モリシアス島 英領 島内風光の美を以て稱せらる。
次のレユニオンを合はせて、マスカリーヌ諸島ともいへ
り。諸方の民雜居し、甘蔗の栽培に従事せり。首府を、ポ

モリシアス島

ト、ルイスと稱せり。

レユニオン島 佛領 珈琲、香料を産せり。

第二 大西洋諸島

一、トリスタン、ダクニア島、セント・ヘレナ島、アセンション
島 英領 共に、南大西洋中の孤島にして、又、皆、火山岩の團塊
たり。セント・ヘレナ島は、一千八百十五年、ナポレオン一
世の流人となり、七年にして、不歸の人となりし所にて、能
く、人の知れる所なり。アセンション、今も船舶の寄泊地た
り。

二、ギチア諸島 ギチア灣内に、併列せる四個の島にし
て、西端の二島、フルナンド、ゴアンノボン、は、イスパニアに、
中間の二島、プリンセス、セント・トマス、は、ポルトガルに屬

大西洋諸島

トリスタン
ダクニア島
セント・ヘレナ島
アセンション島

ギチア諸島

ベルデ崎諸島

す。

三、ベルデ崎諸島領 バード崎の西に位せり。 セント
ベンサン港あり。

カナリア諸島

四、カナリア諸島領 「カナリヤ」島の名に知らるゝこと
舊し。氣候溫和にして、曾風雪の害なし。古人が安樂島
と稱せしも、溢美にあらず。テネリフ島、最大にして、其
のテネリフ峯は、高さ一萬二千尺に達せる火山なり。

マデイラ諸島
アゾレス諸島

五、マデイラ諸島、アゾレス諸島 共に
葡領 いづれも、火山岩
より成れり。前者は、氣候溫和なれば、避寒の客の集ふ所
となれり。後者は、地味肥沃にして、柑樹多し。

アメリカ洲

第五篇の上 アメリカ洲

位置

アメリカ洲は、互に相連結せる二の大なる三角形の大
陸にして、西半球にあり。東半球の大陸を、舊世界と稱し、
之を、新世界と稱す。其の位置は、南北に長く、北方の一部
分は、北寒帯に位し、他は、北温帯、熱帯、及南温帯に位せり。
此の大陸は、パナマの地峽に依りて相分かれ、北なるを、北
アメリカと稱し、南なるを、南アメリカと稱せり。

北アメリカ洲

北アメリカ洲

第一章 總論

位置

一、位置、境界 北アメリカは、新世界の北部を領し、パ

境界

ナマの地峽に依りて、南アメリカに連なる、其の境界、北は、北極洋に臨み、東は、大西洋、西は、大平洋に面し、南は、メキシコ灣を抱けり。

廣袤

二、廣袤 東西の距離は、最長の所、三千一百哩。南北の延長は、南アメリカと加ふれば、九千哩に達せり。面積は百六十萬方哩にして、アジアの半よりも小なり。

海岸

北極沿岸

三、海岸 本洲の北方沿岸は、出入多く、其の一大灣を、ハドソン灣といふ。此の邊には、數多の島嶼ありて、北極群島と呼べり。東北なる半島を、ラブラドルと稱す。其の東に、英領ニッファウンドランド島あり。此の島は、ラブラドル、ノワスコチアの兩半島と共に、セント・ローレンス灣を圍めり。

大平洋岸

大平洋岸



洲カリメア

是れより南、フロリダ半島に至る間、大西洋岸の北半は、屈曲多く、從ひて、良港灣に富めども、南半は、出入稀なり。フロリダ半島と、ユカタン半島とを以て、包める大灣は、メキシコ灣と稱し、灣口より、東に並べたる島嶼を、西インド諸島と稱せり。此の諸島と、中央アメリカとの間の海は、カリブ海の名あり。水深けれども、暗礁多し。南端バナマ灣より、大平洋岸を西北に進めば、下カリフォルニア半島あり。其の東には、同名の細長き灣をなせり。之より北には、サンフランシスコ、及、バンクーバー島あり。西北に突出せる大半島を、ア

ラスカといひ、其のプリンス・オブ・ウェールズ崎は、ベーリン
 グ海峡を隔て、アジアの東岬と相向かひ、アラスカ半島
 は、更に、アレウト諸島に依りて、我が千島に逼れり。要す
 るに、此の大平洋沿岸
 は、出入最少し。

地勢山系



アメリカの西海岸に沿うて、連亘し、北にありては、ロッキー
 山系、南にありては、アンデス山系と稱せり。此の連山の

ロッキー及アン
デス山系

四、地勢山系 本

洲の北端より、南アメ
 リカの南端に亘りて、
 廣大なる一の山系あ
 り。此の大山系は、兩

中には、火山多く、又、鑛物に富めり。

ロッキー山の西、大平洋岸に沿うて、カスケード山脈、ネバ
 ダ山脈あり。北アメリカの最高峰、ローガン、及、セントエ
 リアスは、是等の山脈中にあり。今、此の兩山脈と、ロッキー
 山系との間は、一體に高原をなせり。之を、大平洋高原と
 名づく。又、本洲の東部にも、一の大山脈ありて、アバラチ
 ア山系と總稱し、アレガニー山脈を、其の主腦とせり。此
 の山脈の近傍は、亦、一體に高原をなせり。之を、大西洋高
 原といへり。

以上の兩高原の間は、即、北アメリカ中央の一大平野に
 して、之を中央大平野と稱せり。此の平野の北部は、即、北
 極洋沿岸の低地にして、南部は、ミシシッピ河流域の低地に

大平洋高原

アバラチア山系

大西洋高原

中央大平野

區劃

屬せり。

五、區劃 本洲の北部、中部、南部には、左の諸邦あり。

北部
グリーンランド
アラスカ
英領北アメリカ

中部
アメリカ合衆國

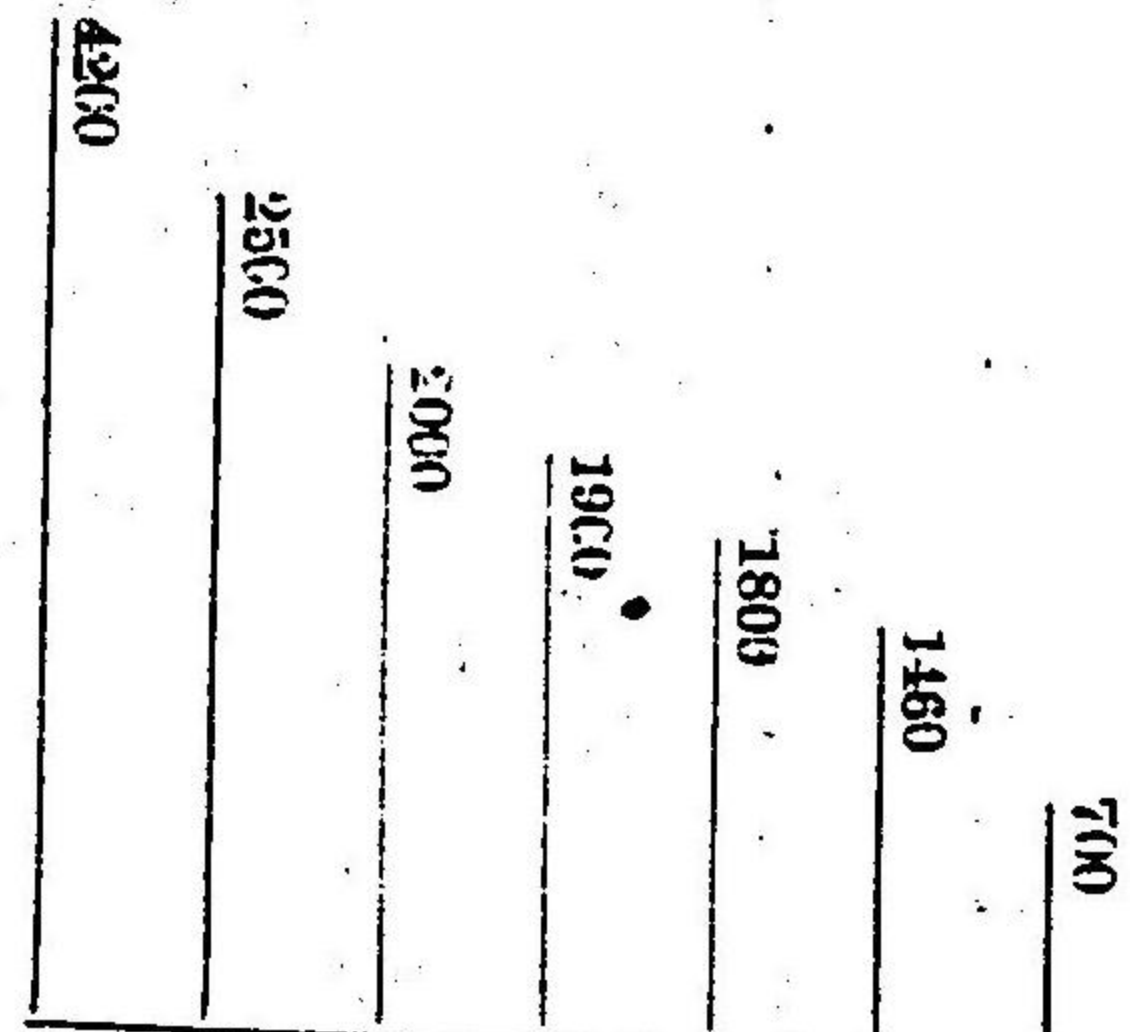
南部
中央アメリカ
西インド諸島

六、水系 北アメリカは、大河に富めり。其の四大河と稱せらるるは、メキシコ灣に入る、ミシシッピ河、セントロレンス灣に注ぐ、セントロレンス河、及、北部のマケンジー、サスカチワンにして、いづれも、中央大平野の間を流

水系
河流

湖水

北アメリカ大川
第一位一哩



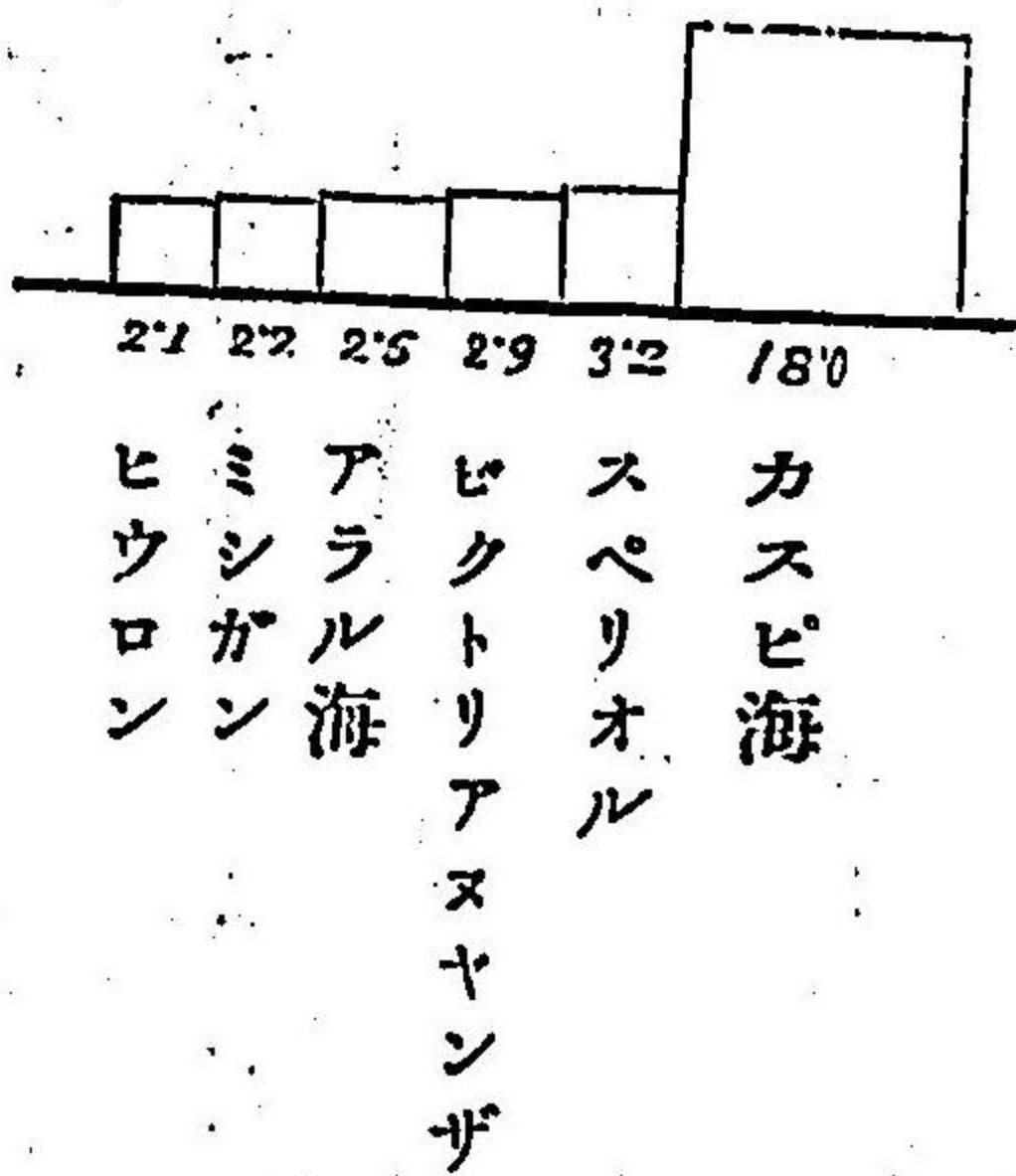
ユウコンノ長(カスリア)Yukon

れたり。其他

コロンビア、メキシコ灣に注ぐものに、リオグランデあり。大平洋に入るものに、ユーコン、コロラド

等あり。

本洲は、特大河に富めるのみならず、大湖の多きも世界第一なり。特に、名高きは、スペリオル、ミシガン、ヒュロン、イリ、オンタリオの五大



湖にして、其の總面積は、日本全國に等しといふ。スベリ
オルは、淡水湖として、世界第一に位せり。イリ湖と、オン



ナイアガラ瀑布

タリホ湖との間
には、彼の有名な
るナイアガラ大
瀑布あり。

氣候

ナイアガラ

氣候 本

氣候、大陸性にして、寒暑共に強し。但、大平洋沿岸、及、大西
洋沿岸の一部は、暖流の影響に依りて、概、中和なり。又、北
部の北極洋に面せる部は、寒威凜烈にして、河海氷結する

を常とす。

雨量は、北より南に多く、東より西に多し。要するに、北
米の氣候は、歐洲の同緯度の地と比較する時は、著く低溫
なるを見るなり。

天産

八、天産 本洲の地味は、概して肥沃なれば、植物繁茂

し、殊に南部地方は、其の生育、盛にして、種類にも富めり。
農産物中にて、煙草、棉、玉蜀黍、小麥、甘蔗等は、其の名高きも
のなり。

農産

動物

動物には、吾人の普通に知れる、野獸、家畜等の外に、野牛、
白熊、海狸、麋、亞米利加虎、袋鼠、白露鷄、蜂雀、響尾蛇のごとき
本洲特有のもの多し。

礦物

礦物は、其の種類と、量の多きこと、世界第一にして、鐵、石

住民人口

炭、貴金屬、石油等、其の最たり。

九、住民 全人口、九千萬あり。土地の大いなるに比すれば、甚、少數なり。此の中、ヨロロ、白人種四分の三を占め、イギリス人の子孫最多數にあり。外に、黒人、アメリカインド族、及、雜種の人民あり。

言語

白人種は、主として、英語を用ゐ、之に次ぐは、イスパニア語、ポルトガル語なり。

黒人及土人

黒人は、元、奴隸として、アフリカより輸入せしものにて、其の増殖著きに反し、本來の土人なるインド族の減少も、亦、甚し。北方の住民なる「エスキモー」族は、今日、ヨーロッパなる「ラプ」種と同族にして、黄色種に屬せり。

宗教

一〇、宗教 カナダ、及、合衆國民は、主として新教を奉

現勢

ずれども、舊教も、亦、行なはる。メキシコ以南には、一般に、舊教行なはる。インド族、及「エスキモー」族は、名ある宗教を知らず。

沿革

一一、現勢 本洲は、西曆一千四百九十二年、ヨーロッパの發見に係れども、本大陸を知りしは、之より六年後なりき。初、本洲の土地は、イスパニア、フランス、イギリス等に依りて、領有せられしが、後に、合衆國、先、イギリスの羈絆を脱して、獨立し、他の諸國、亦、皆之に倣ふに至れるなり。

獨立國

今や、本洲内の獨立國は十ありて、悉く、共和國なり。他は、カナダを始めとして、尙、他の所屬となれり。茲に、其の獨立國の名稱を示せば、左のごとし。

アメリカ合衆國、メキシコ、グアテマラ、サルバドル、ホンデュ

現勢

ラス、ニカラグア、ユスタリカ、キバ、ハイチ、ドミニコ。この中、我が條約國なるは、合衆國と、メキシコとの二國のみ。本土は、新開地にして、住む人寡く、鑛山、沃野は、廣大無邊なれば、ヨーロッパ諸國人は、更なり、支那人、及、我が國の人に至るまで、移住するもの相踵げども、遺利、尙頗多し、望みを將來に屬すべきも、少なからず。

グリーンランド

第二章 グリーンランド

デンマルク領グリーンランドは、總べて、氷雪に鎖されたり。但内地の探險、未、至らず。此の島は、或は、ニギニアを凌ぐに足る世界の、大島なりともいへり。其の南端を、ファルベル崎と稱し、ノルウェーのクリスチアニア、若くは露

氣候

都、ペテルブルグと同緯度に位すれども、寒氣は、更に甚し。毎年二月より十月までは、太陽、地下に没することなく、其の他の月は、全く、暗夜なり。

生物

生物には、寒帶動物、僅に此に生息せり。

住居

住民には、エスキモーあり。常に雪窟を營み、水獸を捕へて、食料とせり。南端の方には、デンマルク人あり。

英領北アメリカ

第三章 英領北アメリカ

一、境域 英領北アメリカは、合衆國の北、本洲の北半を領し、殆、ヨーロッパ洲に等しき面積を有せり。北は、北極洋に面し、東西には、大西洋、太平洋を控へたり。分ちて、カナダ、ニューファンドランド、及、ベルミューズ諸島の三部とせり。

區劃

海岸

二、海岸 北極洋岸は、出入極めて多く、ハドソン灣口には、バフィンランドあり。大西洋岸には、セント・ローレンス灣を抱きて、ラブラドル・ノワスコチア半島及、ニップアウンブランド島あり。大平洋岸には、陸地に密邇して、小島嶼連列し、中にもバンクーパー島最大なり。

地勢

三、地勢 太平洋岸には、ロッキー山系南北に連なりて、山西は高原をなし、山東は、茫漠なる平野、ハドソン灣及、ラブラドルに至れり。南部は、森林田野相連なり、殊に、セント・ローレンス河の四近は、最肝要の地にして、人口の大半は、此に集れり。

水系

セント・ローレンス河は、五湖の水を引ける水道のごとく、河幅廣くして、舟路、四千五百哩に及べり。其の將にオ

氣候

ンタリオ湖を辭せむとする所に、千島の奇勝あり。此の外、マケンジー河、チルソン河等あれども、氷結の爲に、水利大ならず。

四、氣候、天産 此の國は、夏短くして、冬長し。殊に、北方は、嚴寒にして、年中、氷雪あり。南方なる、セント・ローレンス河のごときも、冬季、三箇月間は、氷結して、用をなさず。又、東海岸も、寒氣強く、唯、西海岸は、黒潮、暖流の影響あるに依りて、稍、溫和なり。

天産

地味、頗、肥沃にして、穀物の産出夥しく、又、森林は、西岸に沿うて、遂に、アラスカの地に至るまで繁茂せり。此の地は、亦、鑛物に富めり。

住民

五、住民 人口は、至りて寡く、僅に、五百萬人に過ぎず。

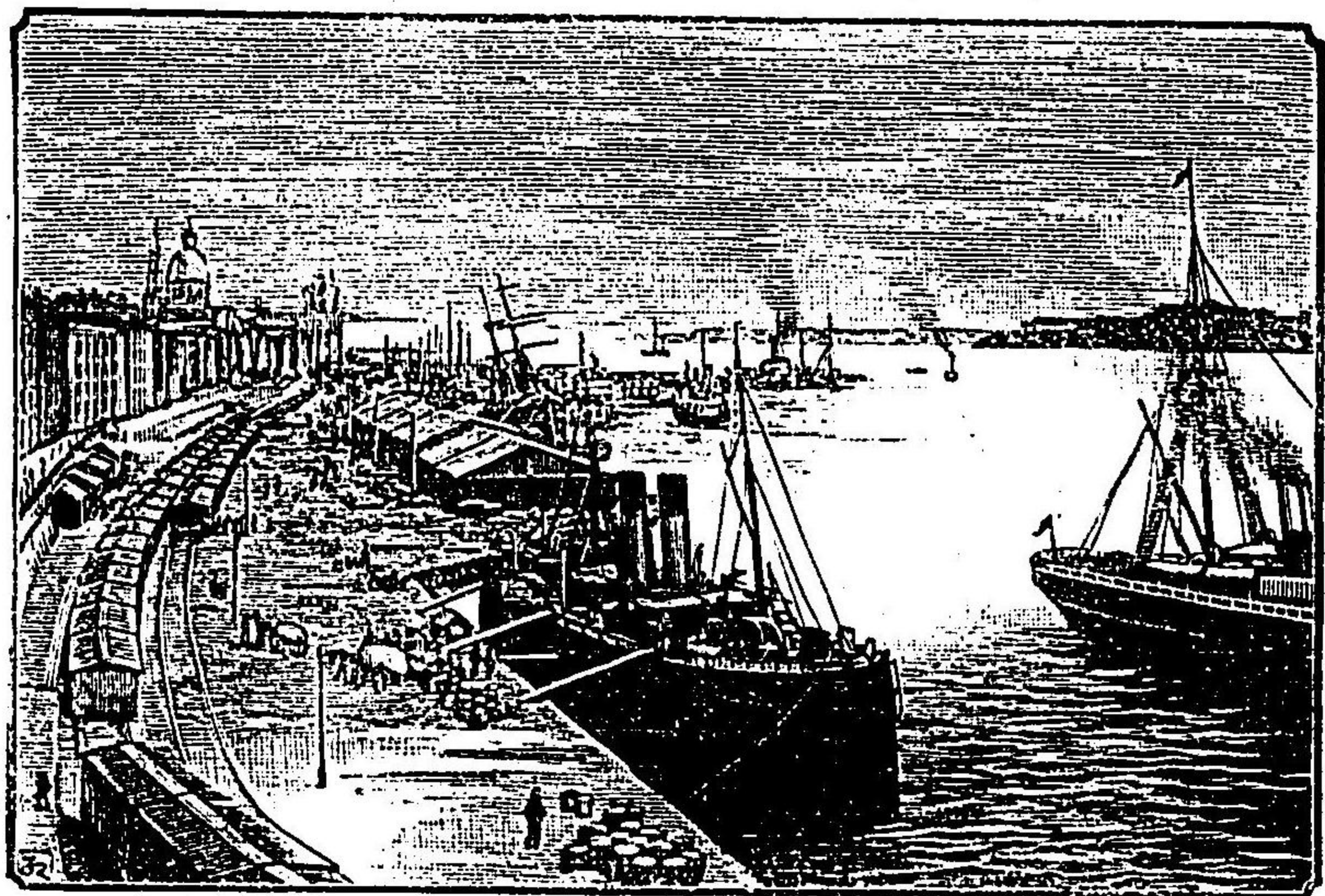
人種	イギリス人の子孫多ければ、一般に、英語を用ゐれど、クヰベック州のみは、フランス人の子孫、多くして、佛語を用ゐり。
宗教	宗教は、概、舊教なり。
教育	教育は、普通教育、最、能く行はれ、大學のごときは、毎州に、少なくとも一校を有せり。
政治	<p>六、政治 カナダには、イギリス國王の勅任に係る大總督ありて、行政權を有し、上下兩院の議會ありて、立法の府たり。</p> <p>政治區劃は、七州、八地方に分かれ、各州にも、亦、議會あり。ニッファウンドランド島、及、ベルミユダ諸島には、共に知事ありて、イギリス國王の直轄たり。内治は、概、自治制を採れり。</p>
生業	<p>七、生業 國人の主なる生業は、林業なり。農業、牧畜</p>

五大生業	<p>漁業、鑛業、之に次げり。之を、カナダの五大生業とす。されど、是等は、いづれも、其の開發の端緒を得たるのみなれば、其の發達は、今より後に期せざるべからず。</p> <p>輸出品の重要なるは、木材、乾酪、小麥、金鑛、燻肉、家畜、魚類等にして、輸入品は、主として、鐵器、毛布等の工業品に屬せり。貿易は、イギリス本國、合衆國との間に、盛に行なはれたり。我が國よりは、主として茶を輸入せり。</p>
輸出入品	
交通	<p>交通は、至便にして、河、湖、運河、鐵道並び通ぜり。鐵道の有名なるは、カナダ大平洋鐵道にして、バンクーバより、モントリオールまで、三千哩の間に通ぜり。我が横濱より、モントリオールまでは、十四日間にして達すべし。</p>
處誌	<p>八、處誌</p>

カナダ

オタワ

モントリオール



モントリオール

(一)カナダ加奈陀
 首府、オタワ 人口六萬
 セント・ローレンス河の支流
 オタワ河畔にあり。即、
 カナダの首府にして、木
 材を出だすこと盛なり。
 モントリオールは、オタ
 ワ河のセント・ローレン
 ス河に會する所があり
 て、カナダ第一の都會な
 り。貿易盛にして、カナ
 ダ大平洋鐵道の起點と

トロント

ケベック

バンクーバー

ビクトリア

ニューファウン
ドランド

なり、府内に宏大なる建築多し。

トロント府は、一大商業市にして、又、大學あり。其の建
 築の壯大なることは、アメリカ洲中にて第一位にあり。

ケベックは、史上の關係深き市街にして、セント・ローレンス
 河口に立ち、「アメリカジブラルタル」の稱あり。

バンクーバーは、英領コロンビア州の海岸にありて、同
 名の島と相對せり。カナダ大平洋鐵道の終端なり、我が
 領事館あり。此の地は、我が國の對岸なれば、我が國人の
 來往するもの殊に多し。又、コロンビア州の首府を、ビク
 トリアと稱し、風致に富めり。

(二)ニューファウンドランド島

ニューファウンドランド島は、ラブラドルと共に、イギリス

セントジョン

政府の直轄なり。本島は、東に、ラブラドルの寒流あれば、時に、深霧を起すことあれども、鱈、海豹等の漁獲、莫大にして、沿海は、世界三大漁場の一に數へらる。首府を、セントジョンといへり。

アメリカ合衆國

第四章 アメリカ合衆國

境城

一、境城 此の國は、北緯四十度線を中央として、其の

南北に跨がり、東西は、大洋に面せり。面積は、アラスカ、及、屬地を除き、本國のみにて、我が國の十八倍に相當せり。

海岸

二、海岸 海岸線は、殆ど均一なれど、大西洋岸には、稍、出入あり。北部の峽灣、デラウェア、フロリダの兩半島のごときは是なり。大平洋岸には、サンフランシスコの一小灣

あるのみ。

地勢氣候

三、地勢氣候 此の國の地勢氣候は、總べて、四區に大

別することを得。

東海岸地方

(一)東海岸地方は、一帯に、アパラチア山系の斜面にして、幅廣く、工業最盛の地なり。氣候は、不順なるが上、寒流の影響に依りて、寒氣強し。

中央大平野

(二)アパラチア山系以西、ロッキー山系以東は、一面の平野にして、之を中央大平野とせり。即、北アメリカ中央大平野の南部に當たり、ミシシッピ河、及其の支流の灌域なり、地積、頗廣く、地味肥えたれば、農産夥しく、又、所々に、炭産地を有せり。氣候は、寒暑の變化、烈しく、且、ロッキー山麓は、非常に乾燥して、綠草忽に枯死す。之を「天造枯草」と稱せり。

ミシシッピ河

されど、メキシコ灣邊は、國中、最、雨量多き地なり。
 ミシシッピ河は、「河中の父」の義にして、スベリオル湖西の
 一小湖に發源し、南流の途上、右岸には、ミズーリ、アーカン
 ソス、レッドの三流、左岸には、オハイオ河を容れ、メキシコ灣
 に注ぐ。其の最大延長は、ミズーリ河源に至るものにて、
 之をミシシッピ・ミズーリ河と汎稱せり。長さ、四千二百哩、
 ありて、世界第一の長流とせり。舟楫、到る處に通じ、灌漑
 の利大なり、合衆國富源の開發には、此の河與かりて、最、力
 あり。

西部高地

(三) ロッキーマウンテン系と、シーラチバダ、カスケード山脈との間
 にある高地を、西部高原とす。平均の高さ、五千尺。有名
 なる大鹽湖此所にあり。空氣乾燥し、寒暑の差甚しく、地

西海岸地方

味、瘠せたれど、鑛物の埋藏は、莫大なり。
 (四) カスケード山脈、シーラチバダ以西の大平洋沿岸は、
 又、低平にして、之を西海岸地方とす。氣候は、暖流あるが
 爲に、東海岸地方に比ぶれば、溫和にして、雨量多し。

住民
人口種族

四、住民 人口の増殖、極めて速やかにして、現今、殆、八
 千萬の人口を有せり。其の中、九割は、チントン族にして、黒
 人、インド人等も雜はれり。此の國は、自由主義の本國と
 て、一切の階級制度を棄て、平等を尙ふこと、對岸の東洋諸
 國とは、正反對なり。又、アメリカ人は、一般に、拜金の風は
 あれど、溫和勤勉にして、進取の氣に富みたり。

言語は、大抵、英語を用ゐれど、スペイン語、フランス語、ド
 イツ語等の行なはるゝ所もあり。

附註

教育	宗教	生業	農産
<p>普通教育普及し、中等、高等専門教育も亦盛大なり。其の大學と稱するもの、五百餘あれど、多くは程度甚低く、其の實際の資格あるは、連合大學と稱するものにして、十三あり。</p> <p>宗教は、新教最弘く行なはる。舊教は、之に次ぎ、主として、南部に行なはれたり。ユータ州には、モルモン宗教あり。</p>	<p>宗教は、新教最弘く行なはる。舊教は、之に次ぎ、主として、南部に行なはれたり。ユータ州には、モルモン宗教あり。</p>	<p>五、生業 此の國の天産物は、無盡藏にして、支那、印度と並び稱せらる。</p>	<p>農業 肥沃の地、廣濶なれば、農産、最多額なり。其の中にも、棉花は、世界總産額の過半を占め、小麥の産出も、世界第一にあり。</p>

牧畜	林業	水産	鑛業	工業
<p>牧畜 此の國牧場の廣大なること、亦驚くべし。牛、馬、羊の三畜は、順次に、世界第一、二、三位を占めたり。</p>	<p>林業 林業の盛大なることも、他に比類を見ず。カリフォルニア州の大樹中には、高さ六十間、周回二十間に及ぶものありといふ。</p>	<p>水産 水産も亦甚豊富にして、一年の産出額、一億圓に上れり。</p>	<p>鑛業 鑛業の總額は、十五億圓なり。中にも、一種の鑛物にて、産額、世界の第一位にあるものは、鐵、石炭、石油、銅等にして、第二位にあるは、金、銀等なり。吾人の用ゐる石油は、大抵、此の國の輸出に係り、「世界燈光の王」と稱せらる。</p>	<p>工業 以上のごとく、製造業に要する、萬般の原料、要素</p>

貿易

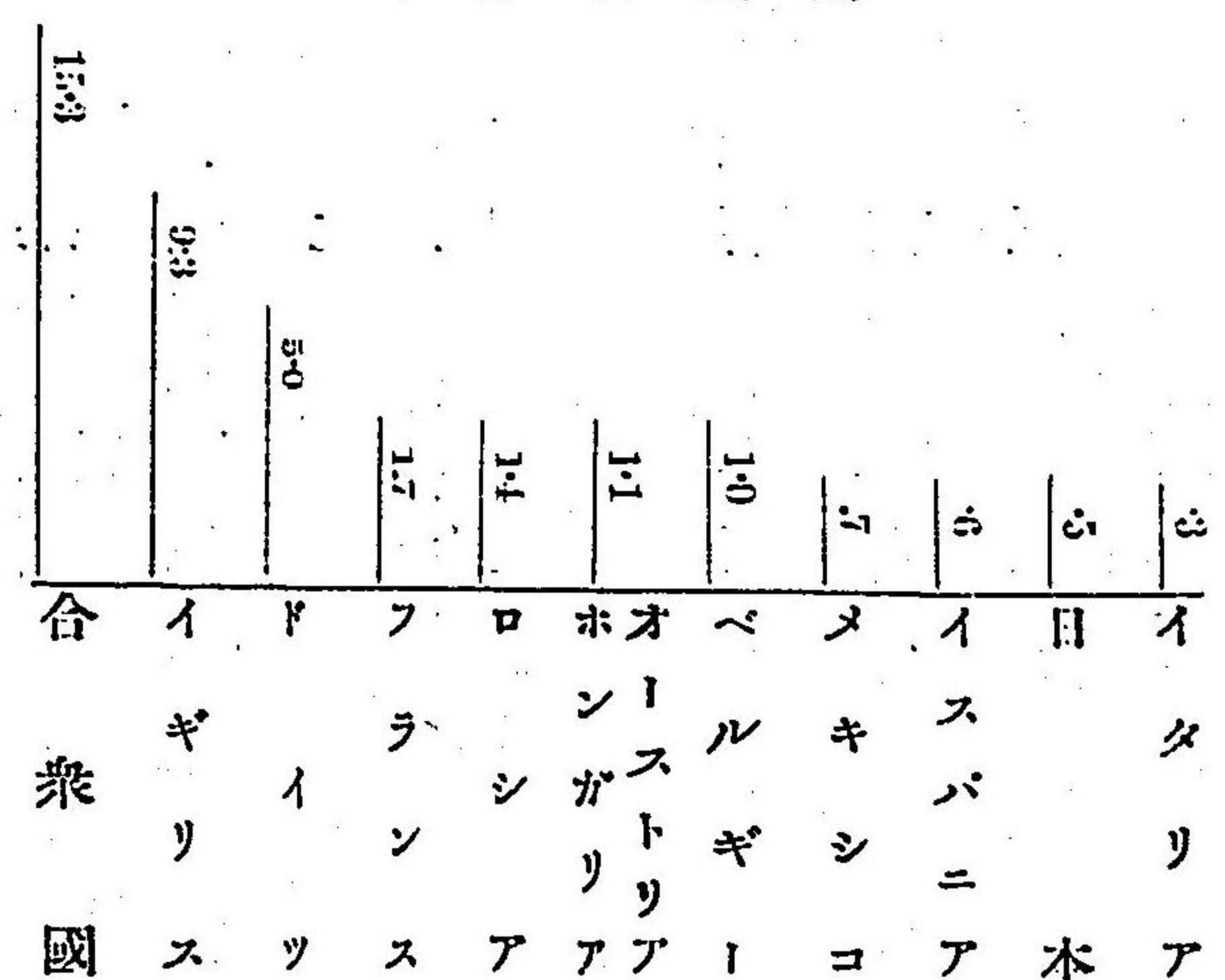
完備したれば、工業の盛大なることも、亦驚くの外なし。

棉布、毛布、鐵器等を、其の重なるものとす。

六、貿易 生産力

の非凡なるに反し、貿易總額は、世界第三位にあり。是一は、人口の少なきと、一は、自國製品を保護せむが爲に、輸入品に重税を課

各國鑛産總額
單位 億圓
（屬領を除く）



するに依るなるべし。されど、輸出額の大きいなるは、優に世界の第一位を占めたり。

主要輸出品を價格の大なるものより、順次に擧ぐれば

左のごとし。

棉花、麵粉、肉類、金屬、石油、木材、家畜、烟草、皮革、石炭、

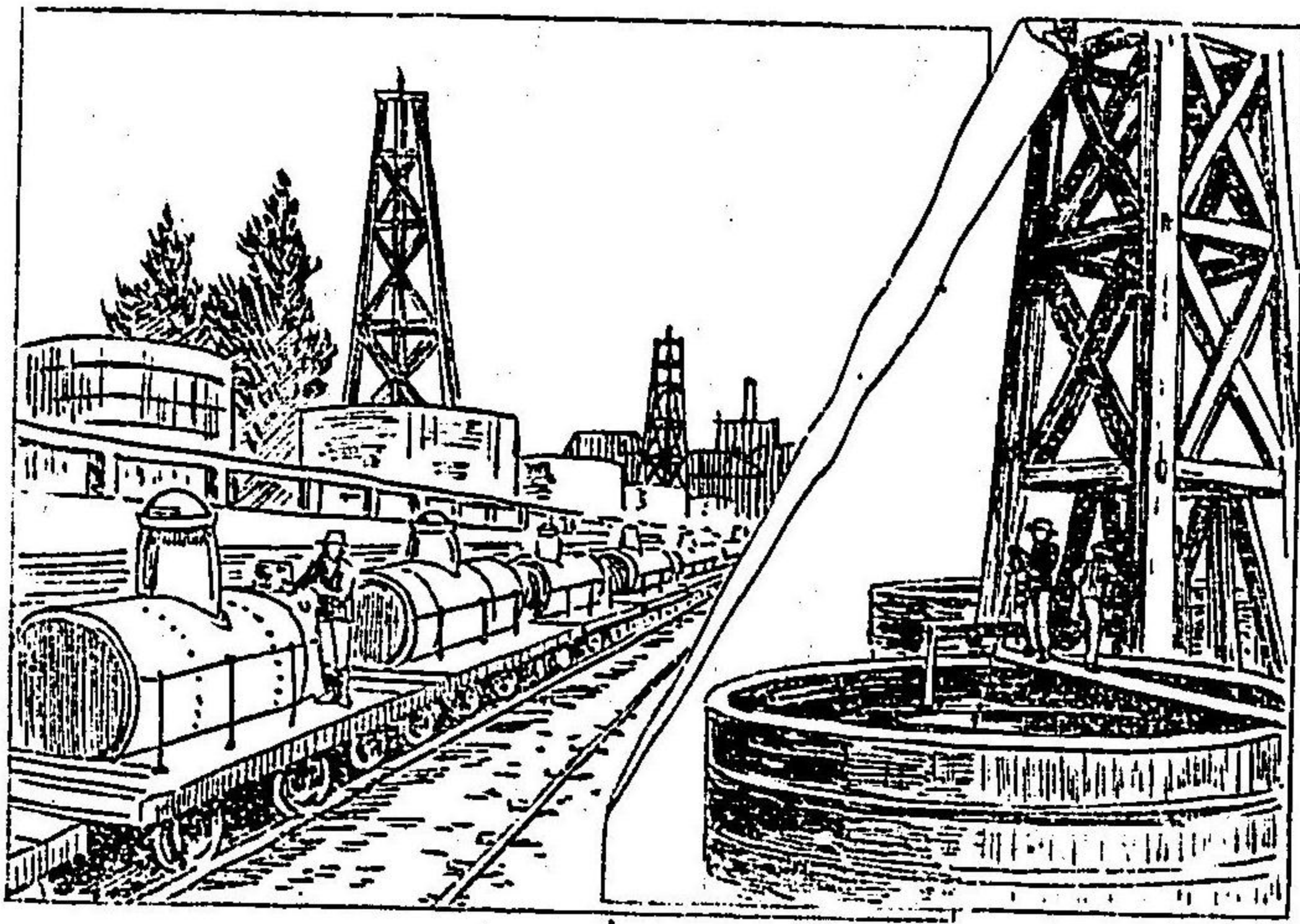
輸入品

砂糖、珈琲、藥料、毛皮、綿布、生絲、護謨、木製品、果實、

貿易對手國の主なるは、

イギリス、ドイツ、フランス

なり。我が國は、此の國に、生絲、茶、羽二重等を輸入し、繅綿、



坑油石のアニバルシンベ

輸出品

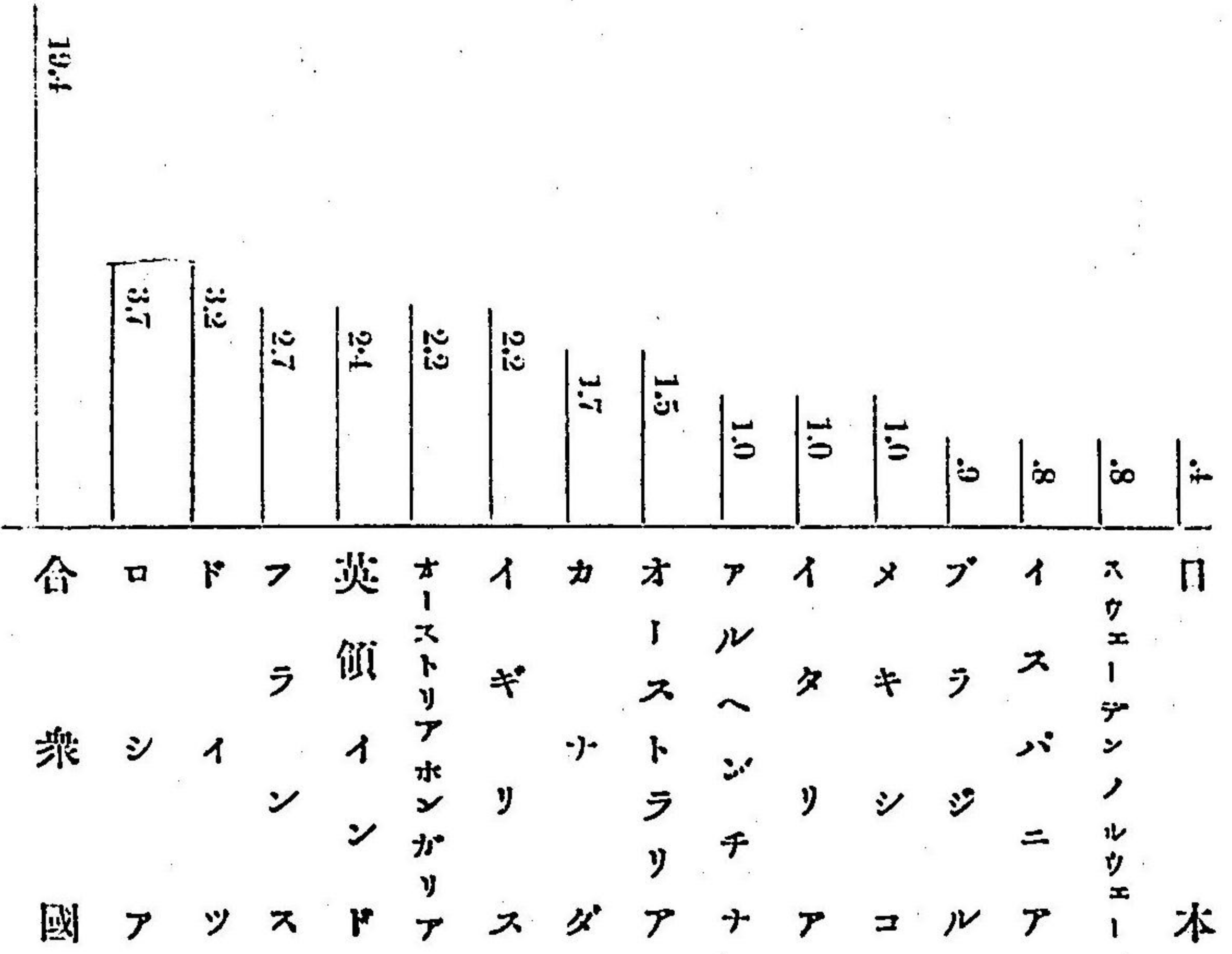
輸入品

我が國との貿易

交通

商船

各國本土鐵道延長
單位 萬哩



石油、烟草等を得。即、我が國に對しては、第一の花客にして、第二の賣手なり。

七、交通 交通機關は、到る所遍からざるはなし。商船噸數は、イギリスに次ぎて、第二位にあり。内地交通船は、ミ

鐵道

シシッピ河五大湖及諸運河に出入して、其の數萬を以て數ふべし。鐵道延長は、二十萬哩に垂んとし、ヨーロッパ六強國の鐵道を相合はすとも、尙及ばざること五萬哩なり。此の鐵道の合衆國を横斷して、兩大洋を連ぬる線路四條あり。左のごとし。

北太平洋鐵道 (ニッヨーク) — (ポートランド)

「ユニオン」大平洋鐵道 (ニッヨーク) — (サンフランシスコ)

大西大平洋鐵道 (フィラデルフィア) — (サンフランシスコ)

南大平洋鐵道 (ニッオレアンヌ) — (サンフランシスコ)

我が國よりの交通も、大いに開け、日本郵船會社の定期船は、此の大鐵道に連絡せり。

八、政治沿革 此の國の政體は、聯邦共和制にして、行

政治 聯邦共和制

政權は大統領に委任し、四年毎に改選し、其の下に國務大臣ありて、内閣を組織せり。國會には、上下兩院あり。上院は元老院と稱して、各州の代表者を集め、下院は代議院と稱して、一般人民の代議士を集めたり。

陸軍の常備兵は、僅に八萬に過ぎざれども、戰時には、夥多の兵を集め得べし。海軍力は、イギリス、フランス、ロシアに次ぎて第四位にあり。

此の國は、イギリス國の配下に在りしが、其の課税の苛酷なるを以て、遂に反旗を擧げ、交戦七年の後、西曆一千七百七十六年、遂に獨立せり。當時は、僅に十三州より成立せしが、次第に、近隣諸州を併はせ、今日にては、四十六州、六地方となれり。各州には、知事、及、州會ありて、一箇の自治

兵備

沿革

處誌

體を成し、官吏は總べて公選をもて擧げられたり。

此の國、國運の發達の迅速なることは、世に比なく、其の獨立の當時に較ぶれば、恰、別國の趣あり。我が國との交際、西曆一千八百零六年、西曆一千八百零八年、此の國の水師提督、ペルリの來航に始まり、其の後、次第に親密になりしなり。

九、處誌 此の國は、地勢上左の四大部に分かる。又、

全國中、人口十萬以上の都市四十あり。

(一)大西洋岸諸州 北部大西洋岸諸州 南部大西洋岸諸州

(二)中央部諸州 北部中央諸州 南部中央諸州

(三)大太平洋岸諸州

(四) 國外領地

大西洋岸諸州

(一) 大西洋岸諸州

北部大西洋岸諸州

- メイン ○ニューハンプシャー ○バーモント ○マサチューセッツ ○ロードアイランド ○コネチクカット ○ニューヨーク ○ニュージャージー ○ペンシルワニア

南部大西洋岸諸州

- デラウェア ○メリーランド ○バージニア ○コロンビア ○西バイジニア ○北カロリナ ○南カロリナ ○ジョージア ○フロリダ

ワシントン

首府ワシントン 人口二十七萬は、即、合衆國の首府にして、ポトマック河に沿へり。人口に於いては、國中第十五位にあれ

ども、國會議事堂、其の他の壯大なる建築物あり。我が公

フィラデルフィア

使館も、此所にあり。フィラデ

ルフィアは、第三の都會なり。

最盛の工業市にして、兼ねて、

石炭貯藏所たり。此所に有

名なる獨立館あり。

大ニューヨークは、ホドソン河

口に位し、有名なる釣橋を架

けて、ロング島のブルトクリン

と通ぜり、以前は、唯、ニューヨ

クとのみ稱せしが、近時、近傍

諸地を域内に收めて、面積は、世界市府中、第一となり、人口



大ニューヨーク

ニュー・オルリー
ンス

ニュー・オルリーンスは、ミシシッピ河口の三角洲に位し、棉
花賣買の盛なること、世界第一と稱せらる。

大平洋岸諸州

(三)大平洋岸諸州

○モンタナ ○ワイオミング ○コロラド ○ニュー・メキ

シユ地方 ○アリゾナ地方 ○ユター ○チバダ ○アイ

タボ ○ワシントン ○オレゴン ○カリフォルニア

サンフランシス
スコ

サンフランシスコ 人口三十四萬は、大平洋沿岸第一の港市に

して、人口は三十四萬なり。同名の灣口に立ち、市街壯麗
なり。内地にありては、彼の東西兩洋の間に通ぜる大鐵
道の終點となり、海上にありては、東、南洋と交通の起點と
なれり。サンフランシスコの北方海岸にポートランド、
タコマ、シアトルの三市あり。サンフランシスコと共に

タコマ

我が領事館の所在地とす。特に、タコマは、我が國との貿
易盛なり。

此の沿岸地方は、我が國に最近きを以て、在米本邦人の
多数は、此の邊にあり。

國外領地

(四)國外領地 アラスカ地方

此の他に、ハワイ地
方あり。前に説けり。

アラスカ

アラスカは、合衆國の一地方たり。國中、山がちなれど、
氣候は、黒潮の爲に和げられたり。住民は、海豹を捕ふる
を業とせり。又、ユーコン河域のクロンダイクにては、近
年、沙金採取の利、多しと稱せらる。

メキシコ

第五章

メキシコ 墨西哥

境域

一、境域

此の國は、合衆國と、中央アメリカとの中間

に位し、東に、ユカタン半島突出して、合衆國のフロリダ半島と共に、メキシコ灣を抱き、西に、カリフォルニア半島突出して、本土との間に同名の灣を抱けり。面積は、凡、我が國の五倍あり。

地勢

メキシコ高原

二、地勢 地勢は、單純なり。ロッキー山脈、國の西邊に亘り、東側には、シエラ・マドレありて、中間に、廣濶なるメキシコ高原を形づくれり。高さ、平均、九千尺あり。オリサバ、ポポカテペトルの二高峯は、南に併立し、共に火山なり。河は、北境なる、リオ・グランデの外、又、記すべき大河なし。

氣候

三、氣候 此の國は、熱帯にあれど、氣候は、土地の高低に依りて、三様の別あり。沿海の低地は、炎暑、濕潤。高地は、和煦、乾燥、山地は、寒冷なり。

住民

沿革

四、住民、政治 土人を「アステクス」と呼び、本洲發見以前、既に國を成して、稍、開明の域に達せしが、其の後、イスパニヤ人の侵略する所となりて、一旦、其の殖民地となりき。然るに、久しからずして、再、獨立國となり、又、帝國となり、遂に、今の共和國となりぬ。我が條約國の一にして、又、我が移民あり。

種族

當國一千三百萬の人口中、大部は、イスパニア人の苗裔、及、其の雜種にして、言語、宗教、亦、皆、イスパニア國に同じ。

政治區劃

政體は、一に、合衆國の制に模倣し、全國を二十七州、一區二地方に區分せられたり。

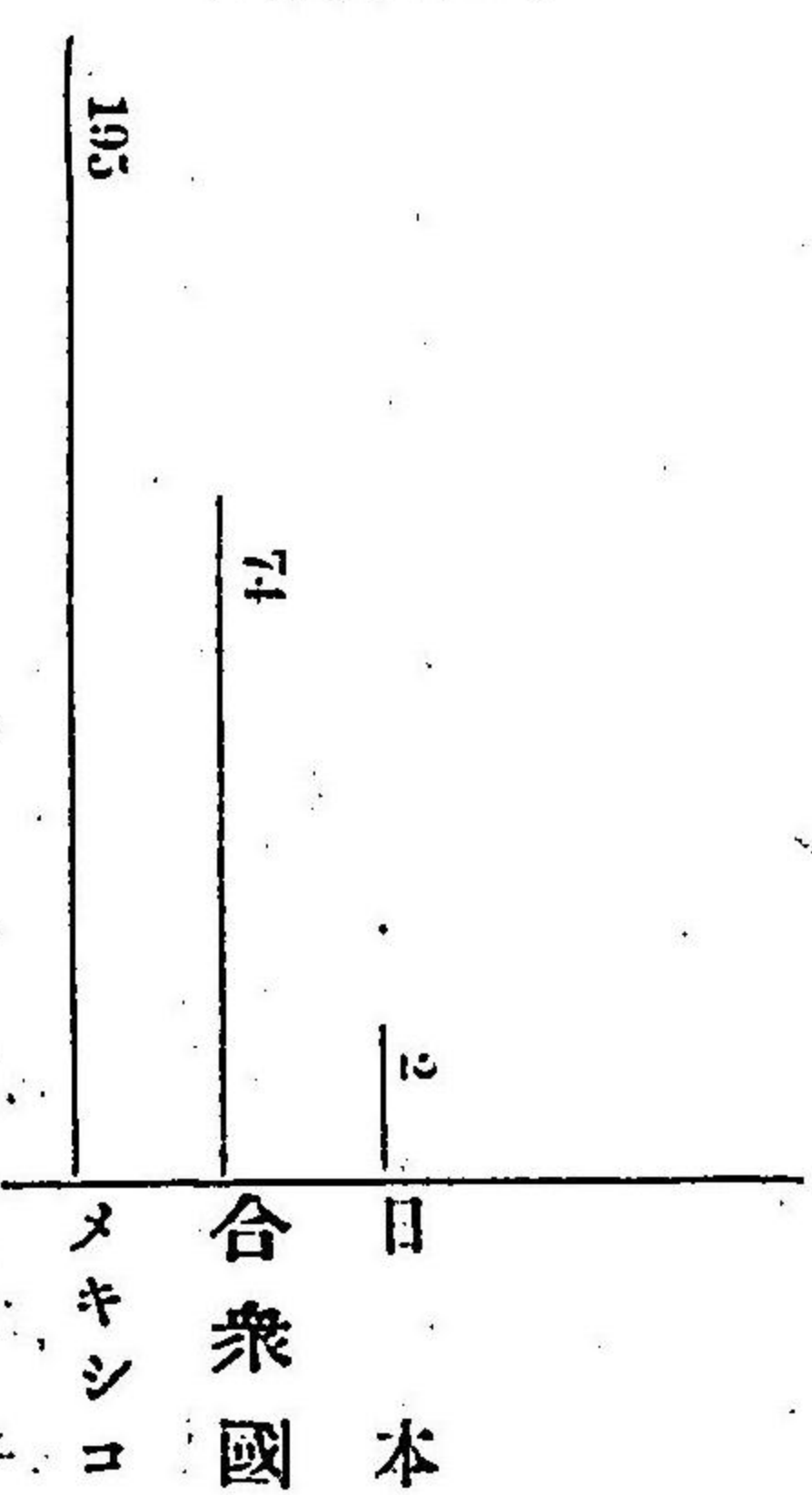
生業

五、生業 此の國は、天産豐富なれども、開發の功、未、十分ならず。農産には、咖啡、甘蔗、「カカオ」、玉蜀黍、棉花等あり。

農産

桃花心木、蘇木、及「ユチニール」蟲は、いづれも名産なり。牧畜は多く、北部地方に行はれたり。當國雖此の富源は、鑛物にあり。特に、銀は、世界第一等の産地にして之

主要銀産國産額
單位百萬元



をメキシコは銀と呼びなせり。鐵道の延長は、我が國の二倍に餘れり。

六、處誌 首府の

名は、國名に同じ、人口三十萬、地、熱帶の中にあれど、七千五百尺の高原に位するが故に、大に、健康に適せり。我が公使館の所在地なり。市街美觀を呈し、林泉の風致あり。メキシコ灣に瀕せるベラクルスは、當國第二の要港にして、大

礦産

處誌

メキシコ

ベラクルス

平洋岸のアカプルコと共に、通商の關門たり。

中央アフリカ

第六章 中央アメリカ

メキシコ以南、パナマに至る間の地を總稱して、中央アメリカといふ。地勢、一般に、高隆して、起伏多く、火山到る處に散在せり。又、地震、多きを以て聞こえたり。氣候は、全く、メキシコに類せり。産物は、主として、熱帶性植物なり。

此の地は、初、メキシコと共に、イスパニアの治下にありしかば、住民は、今も、メキシコに同じ。中央アメリカの中には、五共和國と、一英領殖民地とあり。左のごとし。

區劃

英領ホンチラス

グアテマラ

サルバドル

ホンチラス



ニカラガア運河測測圖

(一)英領ホンチラス
首府をバリーズ九千といへり。

(二)グアテマラ 首府も
グアテマラ七萬といへり。

(三)サルバドル 首府
をサン・サルバドル六萬といへり。

(四)ホンチラス 首府
は、テグシガルバ一萬なり。

ニカラガア

ニカラガア運河

コスタリカ

西インド諸島

位置

(五)ニカラガア 國土最大にして、物産亦最豊饒なれど、唯其の氣候は炎熱甚し。首府を、マナガ三萬と稱せり。

世に、名高きニカラガア運河とは、此の國の東西海岸を連絡せむとするものなり。即、國內の大湖ニカラガア及之より出づるサン・ファン河を利用し、河口のグレイタウンより大平洋岸のブリトーまで、凡、一百七十哩開鑿を要すべき陸地は二十五哩の間に運河を通ずるにあり。

(六)コスタリカ 首府をサン・ホセ 人口二萬五千と呼べり。

第七章 西インド諸島

一、位置區劃

メキシコ灣の東口に当たり、フロリダ半島より、オリノコ河口の間に、カリブ海の外縁を成して、

區劃

砌トインのごとく連列する大小無數の島嶼を、總稱して西インド諸島と稱せり。諸島を大別して、バハマ、大アンチル、小アンチルの三島群とす。

氣候

二、氣候、物産 氣候、熱帯に位すれど、唯海風の影響に依りて、幾分炎熱の度を減ぜり。季節に、乾、雨の二候あることは、他の熱帯地方に同じ。

物産

物産は、熱帯植物を主とし、甘蔗、煙草、珈琲等を出だせり。

住民

三、住民 土地豊沃なれども、住民は、未、五百萬に上らず。其の中、イスパニア種を多しとす。言語、宗教、亦、イスパニアを模せり。

處誌

四、處誌

バハマ諸島

(一)バハマ諸島英領 キウバ半島の北面に散布せる英領

ワットリング

殖民島にして、珊瑚質なり。海綿の産、名あり。西曆一千四百九十二年、コロンブスがアメリカ發見の第一着に上陸せしは、諸島中のワットリング島なりきといへり。

大アンチル諸島

(二)大アンチル諸島 西インド諸島の大部を占め、中に、キッバ、ジマイカ、ハイチ、ポルトトリコの四島、最有名なり。

キッバ

キッバ 西インド一千餘島中の最大なるものにして、アンチル女皇の稱あり。凡、我が本州の半に當たれる面積を有せり、甘蔗、煙草の産、頗、豊富なり。本島は、始め、イスパニア領なりしが、後本國と戦端を開き、次いで、イスパニアと合衆國との葛藤となり、一時は、アメリカ保護の下にありしが、昨年明治三十五年全然其の手を離れて、獨立共和國とな

ハバナ

シアマイカ

ハイチ



ハ バ ナ

和國は本島の西半を占め。

首府をポート・アウ・プリンス

りぬ。首府ハバナ人口二
は、西インド最盛の港市に
して、砂糖、煙草を輸出せり。
シアマイカ領 景勝を以
て聞こゆる地なり。首府
をキングストン 人口四と
いへり。
ハイチ キバに次げる
大島にして、分かれて、ハイ
チ共和国、ドミニコ共和国
の二部となる。ハイチ共

ドミニコ共和国

ポルトリコ

小アンタル

五人口といへり。

ドミニコ共和国は、其の東半を占め、**二**府をサン・ドミン
ゴ人口と稱せり。

ポルトリコ領 米西戦争の結果、合衆國の所有に歸せ
り。物産は、キバと同じ。 **■**府をサン・ファン 三人口と稱せ
り。

(三)小アンタル諸島 火山質の列島にして、時々噴火の
災あり。諸島中の最大なるを、英領ツリニダードとし、人
口の稠密なるは、同バルバドス島なりとす。

南アメリカ

第五篇の下 南アメリカ洲

第一章 總論

境域

一、位置、廣表 北は、パナマ地峽を以て北アメリカに

面積

連なり、東は大西洋に、西は大平洋に面し、南は南極洋に入

海岸

れり。面積總べて、七百萬方哩ありて、北アメリカよりも

海岸

小なり。

二、海岸 本洲の沿岸は、アフリカと同じくして、甚屈曲に乏し、灣の名あるは、稀有にして、唯、北海岸にアマゾナ河口あり。又、東海岸に、ラブラタ河口あり、又、岬角の著名なるは、最東端のサンロケ崎、及、極南端のホーン崎なりと

地勢山系

三、地勢、山系 アンデス山系は、本洲南端のホーン崎

アンデス山系

より、パナマ地峽に至るまで、四千五百哩の間に連亘せる



南アメリカ洲

世界第一の長山脈にして、其の平均高度は、凡、一萬二千尺に達せりといふ。此の山系の北方は、數派に分かれ、其の間に、高地あり。山系の最高

點は、チレのアコンカグア、八萬二千尺にして、其の他に、二萬尺を超ゆるもの三峯あり。又、赤道附近には、幾多の活火山あり。

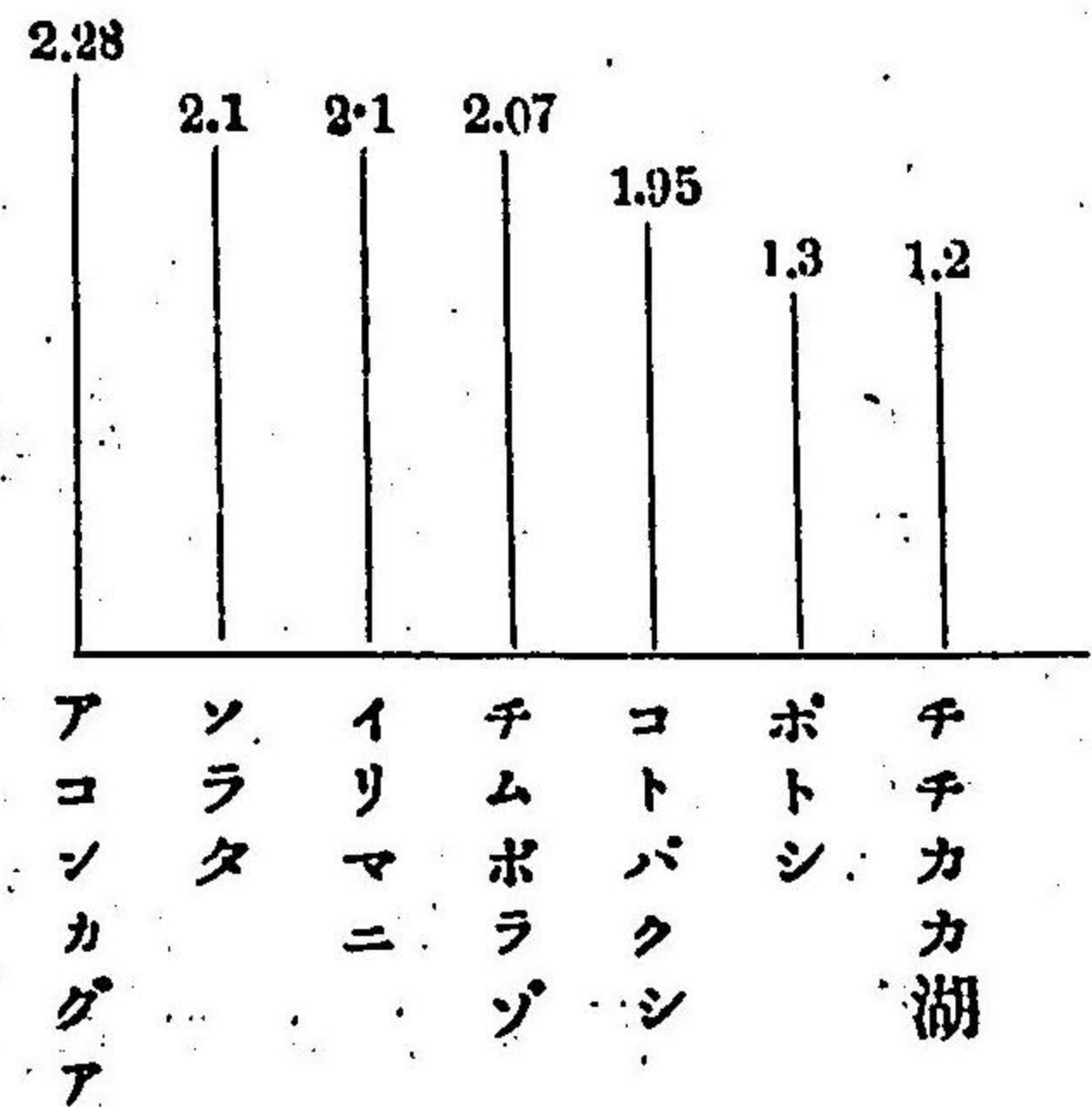
東部山脈

アンデス山系の外に、其の東部には、二三の山脈あり。

中央平野

即、ベチズエラ海岸山脈、パリメ山脈、ブラジル海岸山脈等なりとす。

南アメリカ、カリメ、高山 單位萬尺



以上の西部、東部の山地の間は即、南アメリカ中央の大平野にして、三の低地あり。(一)オリノコ河灌域の「リッノス」(二)アマゾン河灌域の「セルバス」(三)ブラタ灌域の「バンパス」是なり。

區劃

四、區劃 本洲の西部、及、東部には、左のごとき邦國あり。

西部諸國

コロンビア、ベチズエラ、エクアドル、ペル

ーチレ、

東部諸國

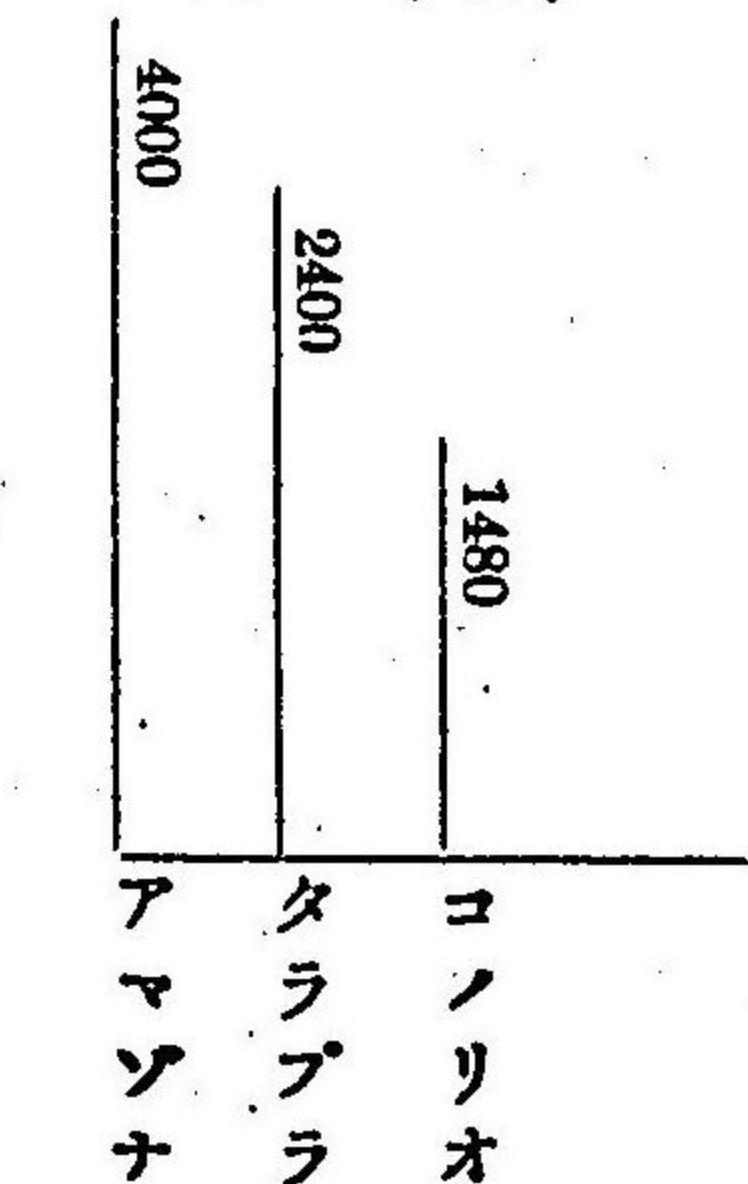
ポリビア、アルヘンチナ、ウルグアイ、パラグアイ、ブラジル、グイヤナ、

水系

五、水系

南アメリカにも、亦、大河多し。アマゾナ、オリノコ、ラブラタの三大河は、

南アメリカ、カリメ、大河 單位哩



中央平野の水を收容して、大西洋に放射せり。この外、ブラジルにサンフランシスコ

河あり。

湖水は、北アメリカに反して、名あるは、唯一のチチカカ湖あるのみ。

氣候

六、氣候

本陸の三分二は熱帯に位し、氣候概して炎

熱なり。又、四分三は貿易風の衝に當たり、雨量多し。特に赤道直下は最高温度、最高雨量を有する地と稱せらる。然れども、同緯度に位するアフリカに比して、較冷氣なるは貿易風、樹林、高地、寒流等の影響あるに由れり。本洲最寒地は高地及南緯三十度以南の中にあり。又、此の緯度以北にありては、貿易風はアンデスの山系に遮ぎらるるを以て、山系の西方には、四時一滴の雨なき沙漠地を生ぜり。

天産植物

七、天産植物の種類に富めるは世界に冠たり。就中、アマゾン河畔を最とす。喬樹多くして、無比の良船材を出だせり。其の他、有要植物に幾那、カカオ、甘蔗、煙草、珈琲、メニオク等あり。動物は、東半球に於けるが如き、巨大

動物

の哺乳獸はなけれども、象に似たる貘、駱駝に似たる駱馬、及羊駝、獅子に似たる、ビウマ、虎に似たる、ジギアあり。其

礦物



南アフリカの動物

の外、猿、猴、鱒魚、蟒蛇、及兀鷹等有名なり。礦物亦、甚豊富なり。最著はれたるは、金、銀、銅、硝石にして、寶

石には、金剛石、及綠柱玉あり。

八、住民 地積の大いなるに比すれば、人口稀少にして、全洲の人口は、我が國の人口と同數なり。種族は、ヨ

住民 人口

ロップ人、インド人、黑人、及白人の雜種を多しとす。白人は、イスパニアより出てたる者多けれども、ブラジルには、ポルトガル人の裔多し。言語も從ひて、此の二國語を專用語とし、宗教は主として舊教を奉ぜり。

交通

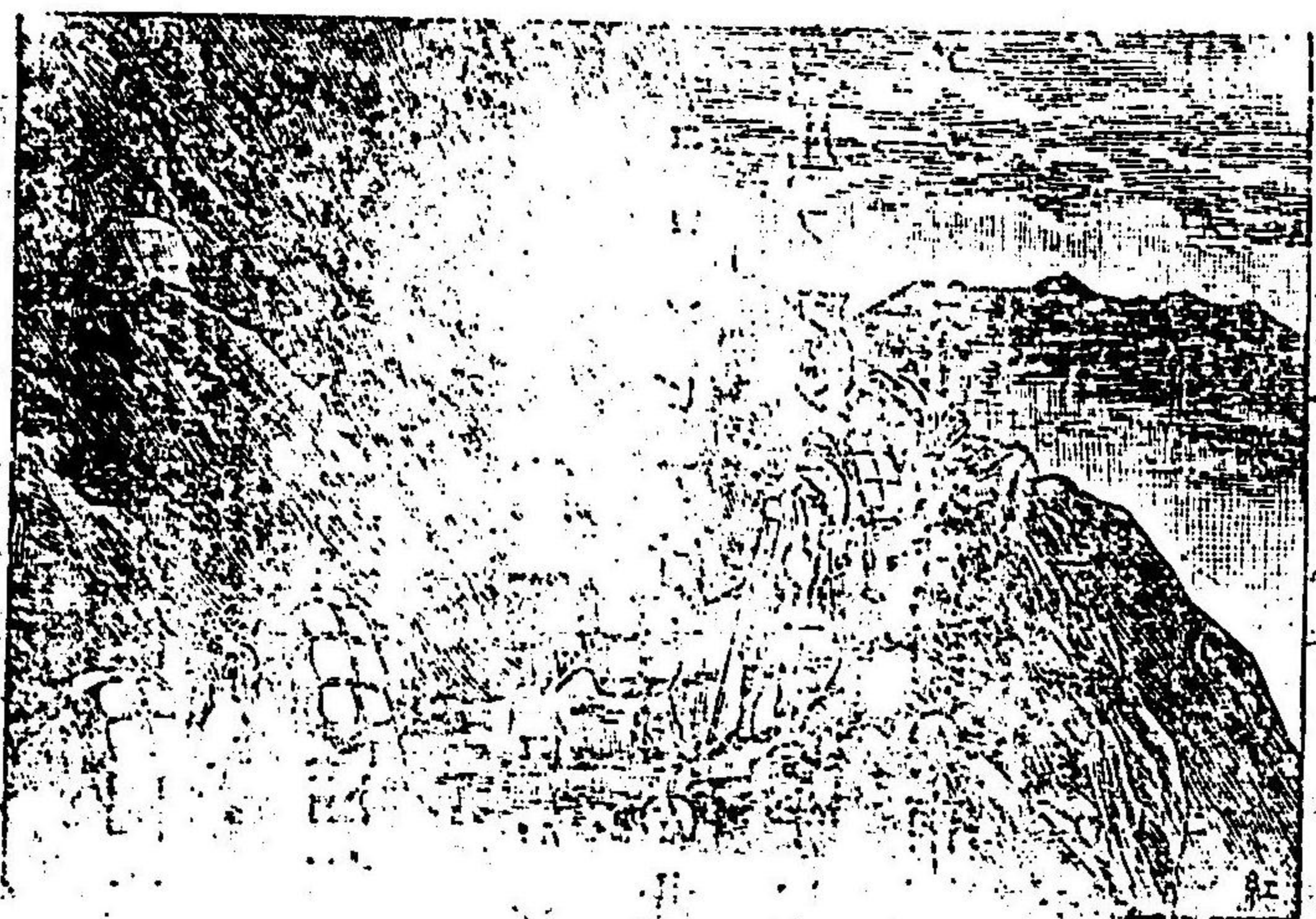
陸路

九、交通 交通の設備は、未遍からざれども、内地自然の通路として、河水を利用せり。又鐵道の敷設、日に盛大に趣き、既に、アンデスの險路を貫きて、本洲の南部を横斷せるものあり。アンデスの山路は、駱馬を使役して、貨物を運搬せり。海路は、東西の航行、自在にして、沿岸に、良港數所あり。海底電線は、北アメリカ、ヨーロッパ、アフリカに通ぜり。殊に、パナマ運河開鑿の計畫は、本洲のみならず、未來世界の交通事業に多大の影響を及ぼすべきものた

海路

現勢

り。コロンビアの條下に詳なり



駱馬旅行

一〇、現勢 本洲は、其の發見以來、イスパニア、ポルトガル二國の手に歸し、ブラジルは、ポルトガルに、他は、イスパニアに隸屬せしこと、凡、二百年に及びしが、ナレ、先、イスパニアの羈扼を脱して、獨立し、次いで諸國、皆、之に倣ひて獨立し、今や、九共和國、一合衆國に分かれたり。此の中、ベル

一 共和國、チレ共和國、アルヘンチナ共和國、ブラジル合衆國の四國は、我が條約國たり。

第二章 西部諸國

第一 ヨロンビア

ヨロンビアは、本洲の北西隅にある、一共和國にして、廣袤、凡、フランスの二倍半に相當し、人口は、四百萬に足らず。アンデス山系は、國の南境に於いて、三派に分かれ、其の間、各、高原あり。マグダレナ河、エウカ河、此の間を流れたり。山系の東側は、オリノコ河の灌域たり。氣候は、地の高低に従ひて、一ならず。物産は、金銀、綠柱玉等の礦物、珈琲、煙草、幾那及家畜類とす。

西部諸國

ヨロンビア

位置

地勢

物産

處誌

處誌

一 府ボゴタ 人口十萬 十は、海面上八千餘尺の高地にありて、氣候佳良なり。バナマ



パナマ運河豫測圖

の豫定を以て着手せられたり。

ありて、氣候佳良なり。バナマ港は、太平洋にあり。バナマ鐵道を以て、大西洋岸のコロンと連絡せり。有名なるバナマ運河は、此の鐵道と相並びて、開鑿せられむとす。最初、彼のスエズ運河の工事に名を著はしし、レセップ氏の設計に係りしかど、工費不足を告げて、一時中止し、昨年(明治十五年)に至りて、再十年間の豫定を以て着手せられたり。

ベチズエラ

位置

オリノコ河

リアノス

コロンビアの東に隣れる一共和國にして、ハリマ山脈南を限り、オリノコ河中央を横断して、所謂オリノコリアノスを成せり。オリノコ河はハリマ山中に發源し、河口には大三角洲をなせり。リアノスの地は氣候炎熱、疫癘流行すれど、山地は然らず。甘蔗、珈琲、金、家畜を要産とせり。

處誌

カラカス

マラカイボ

處誌 一府を、カラカス 人口七といひ、三千尺の高處にありて、氣候中和を得たり。マラカイボは同名の湖口にある通商港なり。

エクアドル

第三

エクアドル

此の共和國は赤道直下に位せり。アンデス山中に世

處誌

キト

グアヤキル

ペルー

地位

産物

界最高の活火山コトパクス、一萬九千及、チムボラゾあり。山東はアマゾナの上流に當たり、深林を成せり。「カカオ」護謨、幾那皮を主要物産とせり。

處誌

一府を、キト 人口四萬と稱せり。恰赤道の直下に

第四

ペルー

エクアドルの南方に接し、廣袤我が國に三倍せり。地勢は大太平洋海岸、中央臺地、アマゾナ、セルバスの三部に分かれ、氣候亦區々なり。農産及鑛産に富めり。今日諸國に傳はれる馬鈴薯、カカオ、キニーネ、羊駝等は、元此の國よ

沿革

り出でたりと云ふ。銀、硝石、鳥糞、亦、甚、名あり。ペルーは、其の初め、「インカス」帝國の本土にして、新世界の發見に先だち、文化、夙に進みしが、イスパニアの將軍ピザロに征服せられ、久しく其の領地となりき。前世紀のはじめ、再獨立せしかども、國力、更に振はず。鐵道は、海岸の諸港市より内地に向ひて、十餘條を通ぜり。我が條約國の一なり。

處誌

處誌 一 府リマ 十萬人口は、アンデス山の西なる河谷にあり、其の西岸カリオは、良港なり。チチカカ湖に近きクスコは、「インカス」帝國の舊都にして、其の遺蹟の存するもの少なからず。

第五

チリ

チレ

位置

地勢

ペルーの南、ホーン岬に至るまで、緯度、殆、四十度の間に連なる帶狀の地にして、世界の最長國と稱せらる。廣袤は、我が國の二倍に足らず。アンデス山系、東境に連亘して、アコンカグアの高峰、其の中部に聳えたり。我が國と同じく、地震多き國なり。

氣候

氣候は、緯度に従ひて、大差あり。北方は溫和なれど、雨量絶無にして、沙漠を成し、南方は、又、寒流の影響に依りて、寒冷なり。産物中、銅、硝石、鳥糞、殊に名あり。又、農産に富めり。

産物

現勢

此の國、イスパニアの羈絆を脱して、共和國となりしより、未、百年を経ざれども、國運、急に進み、教育、軍備、交通等の設備、見るべきもの多く、南アメリカの強國たるに愧ぢず。

處誌
サンチアゴ

バルパライソ

今は我が條約國となれり。人口三は亦、高地に位し、繁盛の都會なれど、市内の家屋は、地震に耐へむが爲に、平屋造り多し。海港バルパライソは、南アメリカ西岸の要港にして、鐵道を以て二府と相通ぜり。ジ、アシフルナンデスは、海上四百哩にある一孤島なり。

東部諸國

第三章 東部諸國

ポリビア

第一 ポリビア

ポリビアは、本洲の中央に位せる海なき國にして、アンデス高原の最高部を占め、中にソラタ、イリマニの二高峰あり。礦物は此の國重要な産物にして、殊に、ボトシの銀

處誌
スケレ

ラバズ

アルヘンチナ

位置

地勢

坑有名なり。府を、スケレ二萬口と稱せり。チチカカ湖に近

きラバズ市は、此の國第一の都會なり。

第二 アルヘンチナ

一、位置、地勢 本洲の南部を占めたる大國にして、面積我が國の七倍あり。西は、アンデス山系を以て、チレと分界せり。ラブラタ河國の東北を流れ、其の灌域は「パンパス」の草原を成せり。北部は「گران、チ、コ」の沃野を成し、又其の南方は「バタゴニア」と稱し、荒涼たる沙原なり。此所には、インディア人の狩獵を營むもの多し。ラブラタ河は、バラグアイ、パラニア、ウルグアイ三流の合一せるものにして、河幅の濶きこと、世界無比と稱せら

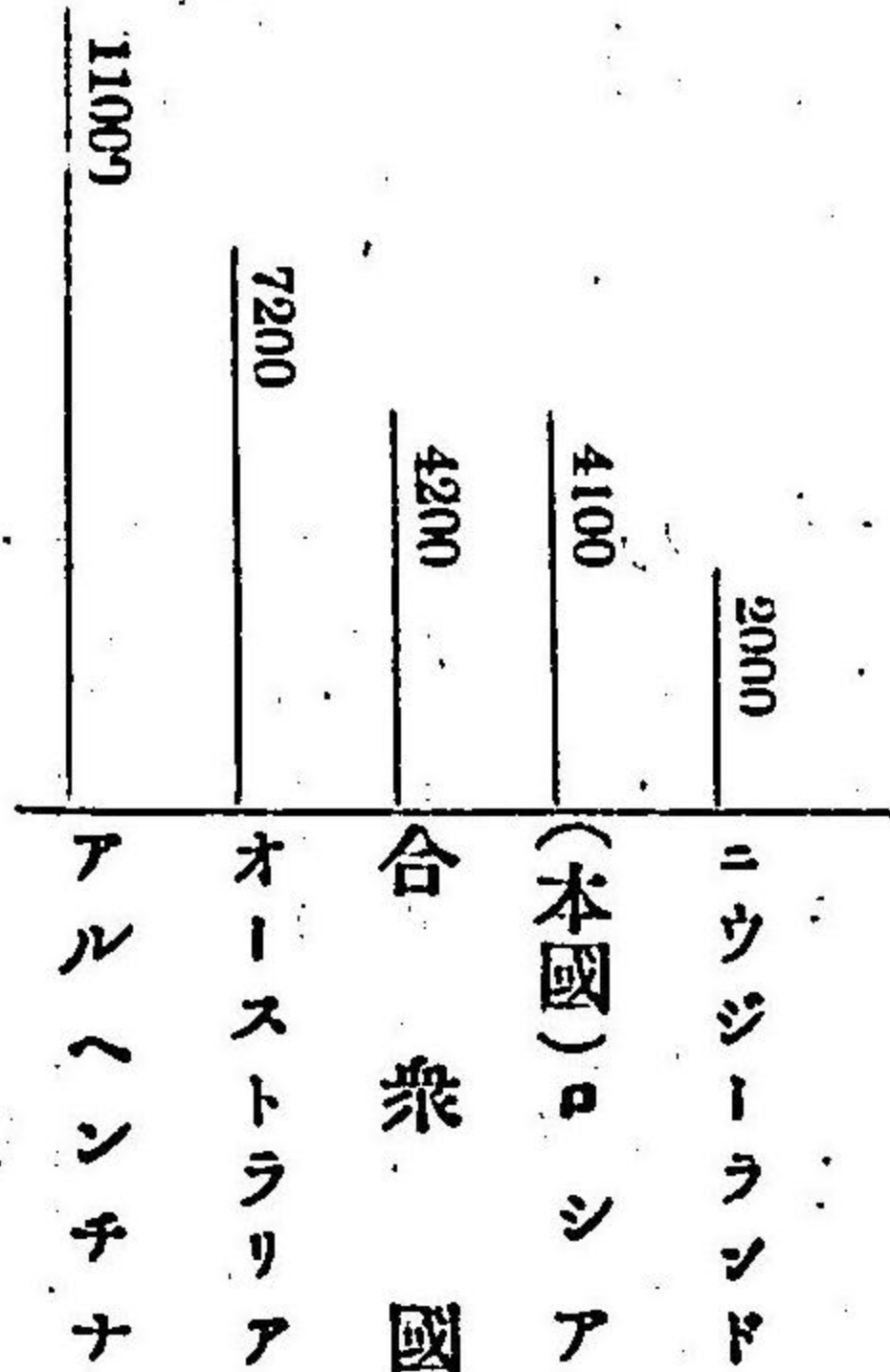
ラブラタ河

生業

る。大船といふとも、能く一千二百哩の上流に航すべし。
二、生業、氣候 氣候概して溫和にして、廣漠たる牧野
連なりたれば、牧畜甚、盛大なり。殊に飼羊の業は、オース

トラリアを凌駕して、其
の産額、世界第一等なり。
牛馬の産額も、亦、之に準
じて、世界の二三位を下
ならず。農産、鑛産も、亦、

各國羊畜頭數
單位百位萬頭



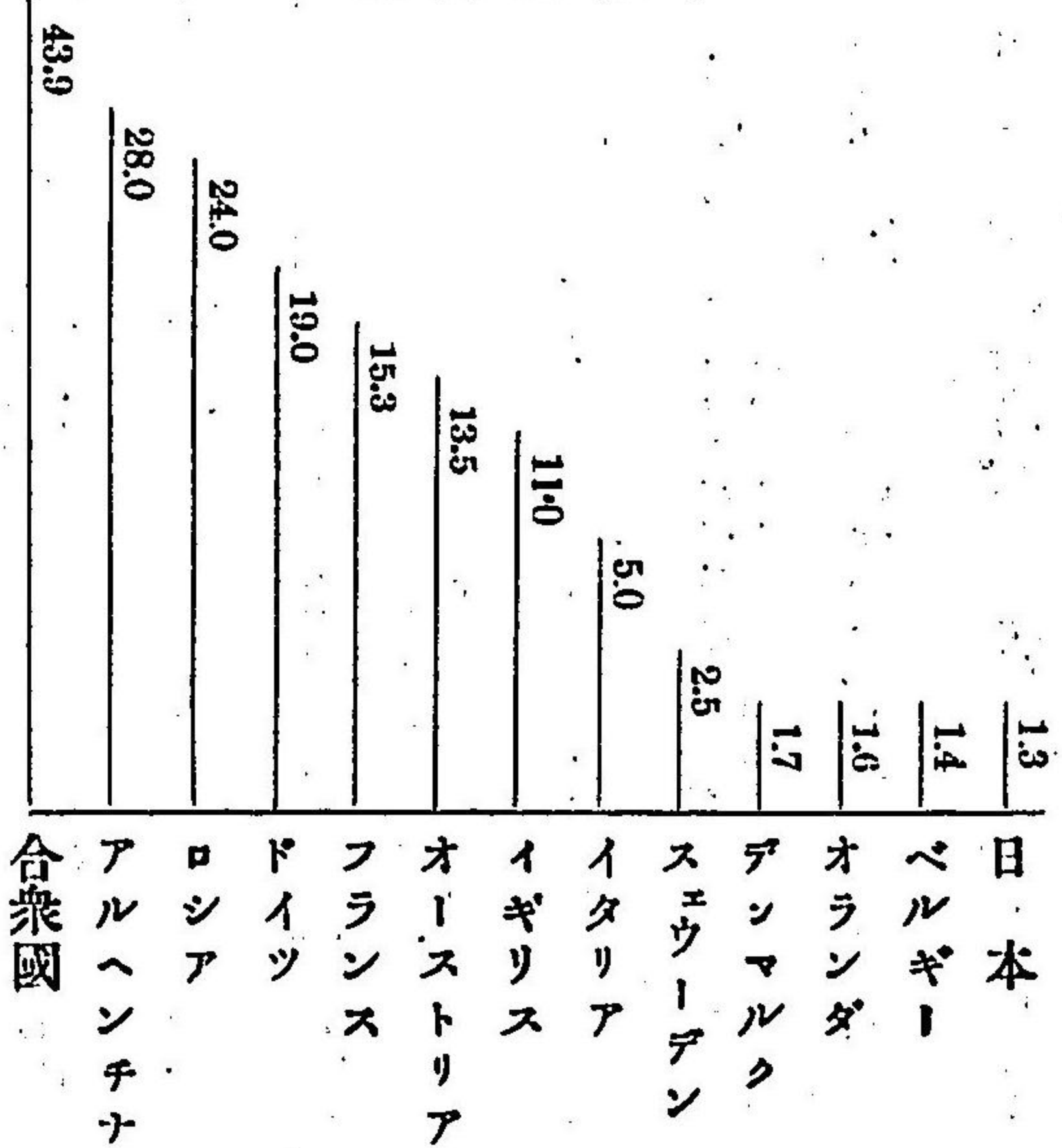
豐富なり。

住民

三、住民 地域大なれど、人口は五百萬に満たず。然
も、大部は他國の移民にして、イタリヤ人を殊に多しとす。
政治は、共和制にして、近時、我が國とも、通商條約を締結せ

政治

各國畜牛頭數
單位百位萬頭



り、財政の不
整なること
は、南アメリ
カ諸國の通
患なれど、此
の國に於い
て一層甚し
きを見る。



パタゴニア人

鐵道は、一府を中心として、四通せり。
中に、アンデス山を横斷して、チレの海
岸に達するものあり。

四、處誌 ラプラタ河口なるブエ

鐵道

處誌

ブエノス・アイ
レス

ロサリオ

フオー克蘭
ド諸島

ウルグアイ

モンテビデオ

ノス・アイレスは、此の國の[■]府にして、人口八十餘萬あり。南アメリカ第一の大都會たり。交通の便、大いに備はれり。ロサリオは、パラニア河の右岸に立ち繁盛[■]府に次ぐ。ユルドバは、其の西北に當たり大學及天文臺あり。

三 フオー克蘭諸島

マガリエンス海峽の東口に近く、フオー克蘭諸島あり。英國の殖民地なり。氣候中和にして、物産多し。

四 ウルグアイ

南アメリカ共和國の一にして、ウルグアイ河の西に横はる小國なり。國內草原にして、好牧場をなせり。[■]府モンテ・ビデオ人口十六萬は、アルヘンチナのラプラタ港と相對して、良港の名あり。

パラグアイ

第五 パラグアイ

ラプラタ河の支流パラニア、ピルコマヨ、二川の間にかまれる小共和國にして、東部は、ブラジル高地に連なり、南部の平野は、豊沃なり。「マテ」[■]即「茶」は、此の國の名産にして、南アメリカ諸國に用ゐられたり。[■]府アスンシオン人口四萬は、ピルコマヨ、パラグアイ兩河の會點に位せり。

第六 ブラジル

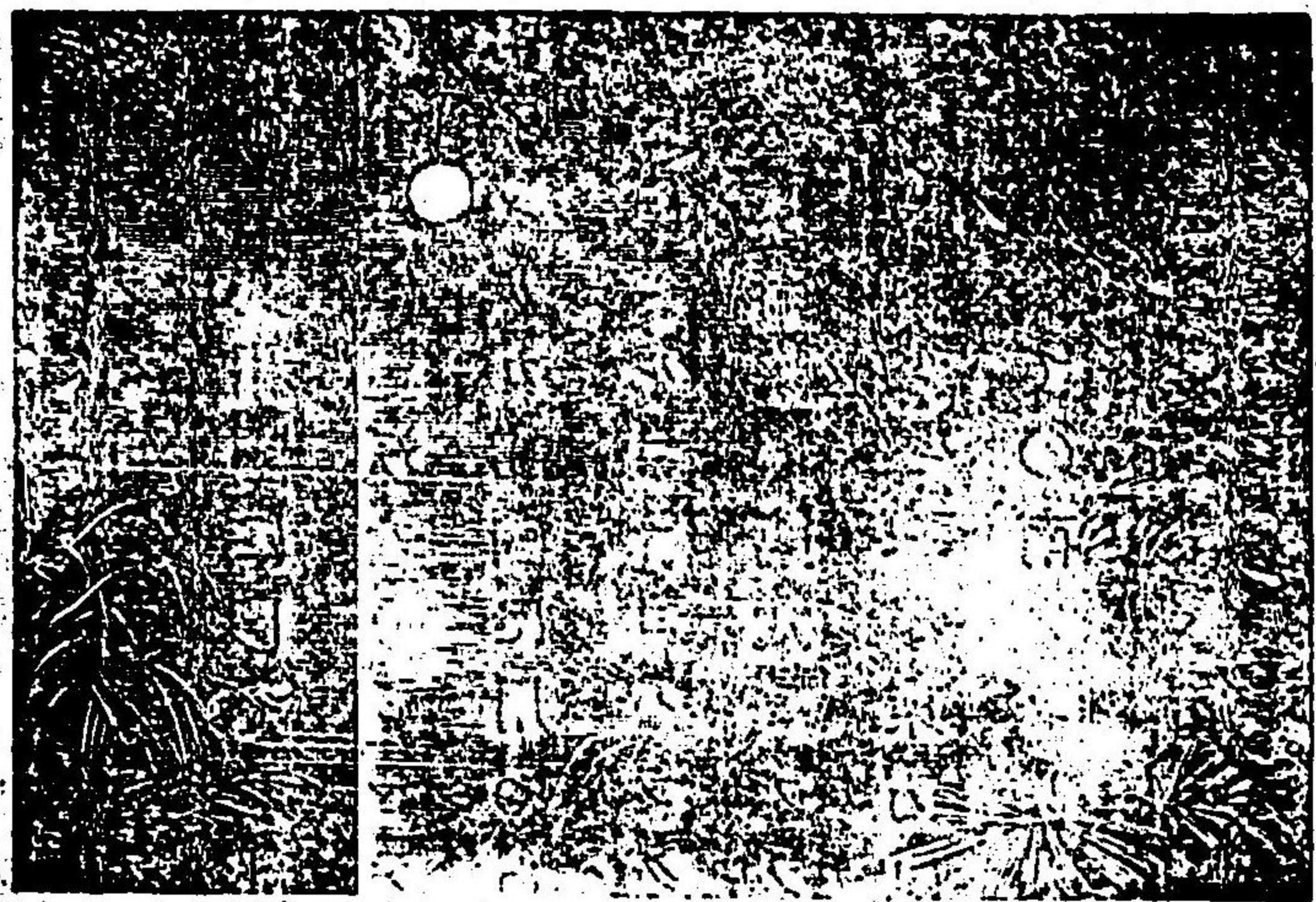
境界
面積

一、境界廣袤 東方は大西洋に面し、他は、チレを除くの外、總べての南アメリカ諸國と境を接せり。面積、ヨーロッパ全土と均しく、殆ど本洲の一半を占めたり。之を世界第六位の大國とせり。

二、地勢氣候 南方は所謂ブラジル高地をなし、北方

地勢

アマゾン河



アマゾン河、南アメリカの地中海と稱せられ通舟里程支流を合せて、五萬哩に及び、水量、非常に多きが故に、世界第一の大河と稱せらる。水源は、ペルーの山中に發し、途上、リオネグロ、マデイラ以下の大支

ンチンス、サンフランシスコ、及、パラニの三河、此より出づ。

此の高地の北方、ハリマ山

脈に至るの間は、即、アマ

ゾン河の流域に屬せり。

アマゾン河は、南アメリ

カの地中海と稱せられ通

舟里程支流を合せて、五萬

哩に及び、水量、非常に多き

が故に、世界第一の大河と

稱せらる。水源は、ペルー

の山中に發し、途上、リオネ

グロ、マデイラ以下の大支

流數條を合はせて、流程四千哩にして、赤道直下に流れ出

づ。水波漫々として、恰大海を見るがごとし。河口の幅、二百哩。

此の河谷は、即、世界無比の大森林にして、所謂セルバズの

地是なり。大幹巨木鬱蒼として、白晝尙、日光を仰ぎ見る

こと能はずといへり。

氣候は、セルバス及濱海の地は、暑氣濕氣共に堪へ難く、

南部地方は、比較上、長候なり。

三、住民、政治 住民は、白人其の大部を占め、メチス、白

人とインド、黒人、インド人之に次げり。總數一千五百萬と

稱せらる。

政治は、共和政體にして、上下の議院を設け、施設多く、ア

メリカ合衆國に則とれり。即、我が國條約國の一なり。

セルバス

氣候

住民

政治

天産

四、産物 植物の發育著きこと、他に比類を見ず。其



の農産中、最主要なるは、**珈琲**にして、世界總産出額の大半は、此の國より出づ。砂糖、煙草、棉花、**マテ**、護謨、及木材の産出、亦頗多量なり。家畜は牛、馬、羊を主とせり。礦物の富も測るべからず。されど、多くは、未採掘せられずして、唯石炭、金、金剛石等を出だせり。工業、及交通の進歩は甚遅々たり。鐵道は八千里あり。

處誌
リオデジャネーロ

五、處誌 一府、リオ・デ・ジャネーロ 又略しは、同名の灣に臨

み、人口、七十五萬あり。南アメリカ第二の都會にして、又有數の良港なり。貿易盛大を致し、甚風致に富めり。ペルナンブコ港之に次ぎて名あり。

グイアナ

第七、グイアナ

グイアナは、ベチズエラの東にあり、海濱は、平野豐饒なれども、内地に入るに隨ひて、次第に高隆し、山林地方となり。氣候の宜しきは、此の高地部なり。主要物産は、砂糖、及金なり。

處誌

處誌 此の國は、英、蘭、佛三國の分領する所に係り、各府あり。ジルジタウン、パラマリボ、又、カイエンヌにして、いづれも、人口五萬以下の小都なり。

第六編 結論

諸大陸

第一章 諸大陸

東大陸と西大陸

第一 東大陸と西大陸

世界の陸土は之を大別して東大陸及西大陸の二とす。東大陸は更に之を分ちて、ヨーロッパ、アジア大陸、アフリカ大陸、及オーストラリア大陸の三とす。即、アジア、ヨーロッパ、アフリカ洲、及、大洋洲の四大洲を含めり。西大陸は、即、南北アメリカ大陸なり。今各大陸の面積を比較するときは、左表のごとし。

面積の比較

東大陸

ヨーロッパ、アジア大陸 二一三五〇〇〇

アフリカ大陸 一二〇〇〇〇〇

オーストラリア大陸 二八六〇〇〇

西大陸

北アメリカ大陸 八六〇〇〇〇

南アメリカ大陸 七〇〇〇〇〇

第二 ヨーロッパ、アジア大陸と

アフリカ大陸

ヨーロッパ、アジア大陸は、ヨーロッパ、及、アジアの二大洲を含み、スエズの地峽によりて、アフリカ大陸に連なれり。

今、此の二大陸を比較するときは、種々なる點に於いて、著き不同あるを見るなり。即、左のごとし。

歐亞大陸とアフリカ大陸

ヨーロッパ大陸

アフリカ大陸

(一)赤道以北にありて、大部は温帯に位す。
(二)赤道以南に跨がり、大部は熱帯に位す。
(三)東西に擴がり、四大洋に臨む。

(三)地形出入多くして、許多の大半島及大内海を有す。故に海岸線は、最長なり。

(四)地勢も、亦複雑にして、大山脈多く、又低平の地は多く、沃野をなす。

(五)島嶼極めて多く、又火山脈に富む。

(六)人口甚密にして、世界文明の中心となる。

南北アメリカ大陸

第三 南北アメリカ大陸

北アメリカ大陸の南アメリカ大陸に於けるは、尙、ヨーロッパ、アジア大陸の、アフリカ大陸に於けるがごとし。即ち、北アメリカは、パナマの地峽によりて、南アメリカに連なり、一は、赤道以北にありて、他は、赤道以南に跨がれり。然れども、此の西方二大陸の比較は、東方二大陸のごとき不同を見ずして、寧ろ、近似の點多し。即ち、左のごとし。

北アメリカ大陸

南アメリカ大陸

- (一)赤道以北にありて大部 (二)赤道以南にありて、大部は、温帯に位す。 (三)赤道以南にありて、大部は、熱帯に位す。
- (二)地形三角形をなして、南 (三)北アメリカと同じ。方に尖る。
- (三)海岸に出入多くして、且 (三)海岸の出入少なくして、島嶼に富む。 且、島嶼少なり。
- (四)西海岸に並行せる大山 (四)北アメリカに同じ。脈あり。 又、東岸にも低山脈あり。
- (五)本洲の中部は、大河の流 (五)北アメリカに同じ。域にして、廣大なる平野をなす。

世界の邦國

獨立國と屬國

又、西大陸を東大陸に比するとき、ヨーロッパ、アジア大陸は、北アメリカ大陸に比して、不同の點多けれども、アメリカ大陸と南アメリカ大陸とは、多く、近似の點を有せり。

第二章 世界の邦國

第一 獨立國と屬國

世界の邦國には、獨立國と屬國とあり。獨立國の最多きは、ヨーロッパ、アジアに次ぐ。他の諸洲には、屬國多くして、獨立の國は少なり。

獨立國の最大なるは、支那にして、ブラジル、合衆國、ロシアに次ぐ。又、屬國の最大なるは、シベリアにして、カナダ、オーストラリア、インドに次ぐ。

國體

君主國

獨立國には、亦君主國と、共和國とあり。君主國とは、上に世襲の帝王ありて、一國を主宰せるものにして、若し其の政令帝王の専斷より出づるときは、是を專政と稱す。即、清、韓、ロシア、トルコのごときは、此の專政の國なり。又憲法ありて、其の政令一定の規約に従ふものなるときは、之を憲政と稱す。即、ヨーロッパ各洲各國及我が日本のごときは、此の憲政の國なり。

共和國

共和國とは、一國の人民中より主權者を選出し、其の任期を定めて、政令を行はしむる者にして、其の主權者を大統領と呼ぶ。フランス、北アメリカ合衆國、メキシコ、及南アメリカの獨立諸邦のごときは是なり。

聯邦

茲に、又ドイツのごとく、數國聯合して、同一の君主を戴くものを聯邦と云ひ、北米合衆國のごとく、共和國にして、數州同一なる主權者の下に聯合したるを、合衆國といふなり。

世界の住民

第三章 世界の住民

人口

第一 人口

現今、世界住民の總數は、約十五億あり。其の半數以上は、アジア洲に、四分一は、ヨーロッパ洲に、餘は、アメリカ以下の各洲に分布せり。其の概況を圖示せば左のごとし。大洲の面積に比して、人口調密なるは、ヨーロッパを最とす。一國につきて、最大なるは、エジプトなり。ベルギー、

密度

人種

白色種

オランダ、イギリス本國之に次ぎ、我が國は第五位にあり、第一表につきて見れば、世界最多數の人口を有てるは、

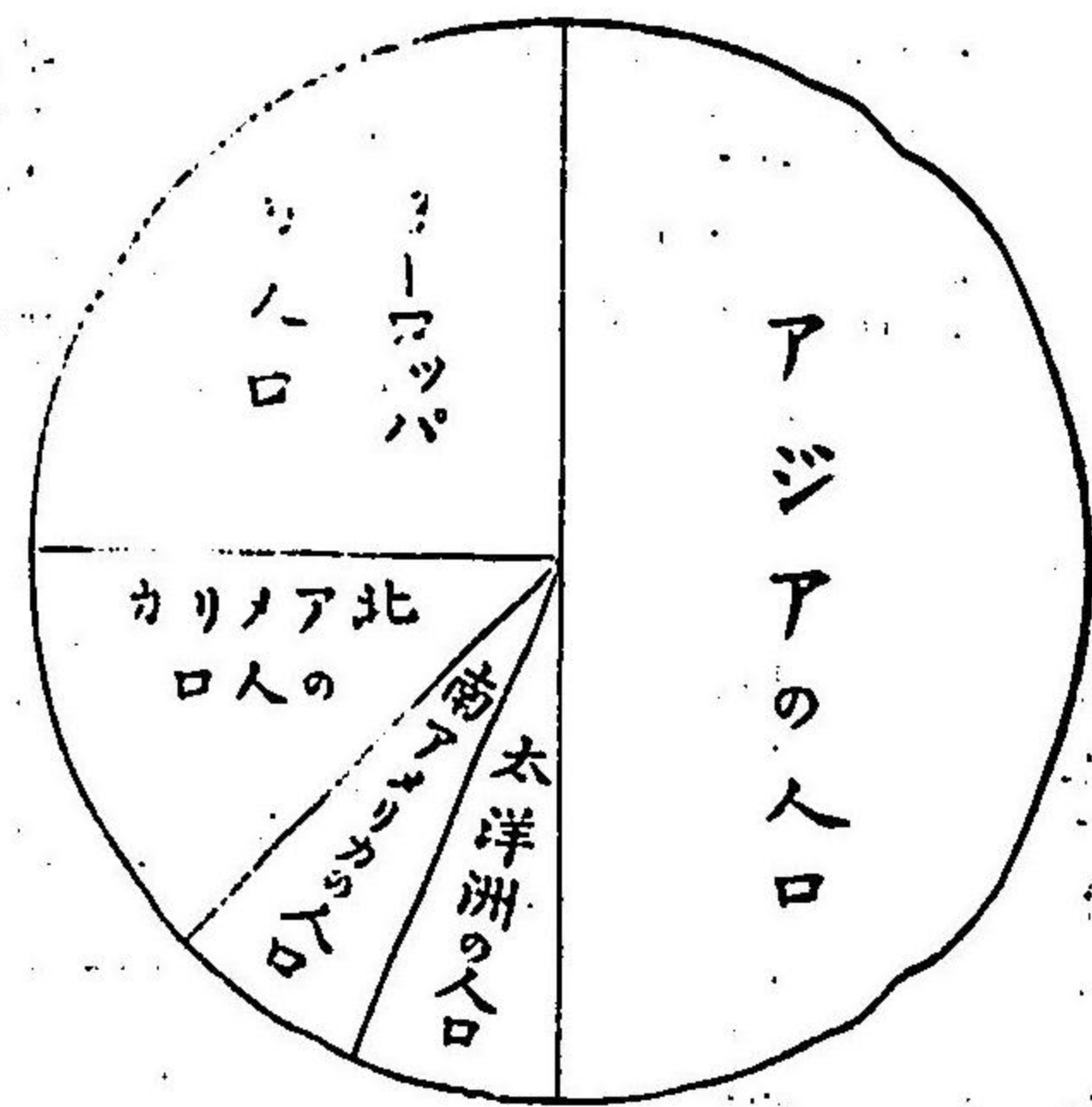
支那にして、約四億あり。次は印度にして、約三億あり。是れ等の國は、共に、アジアに存せり。

第二 人種

人類を分かちて、五種とす。

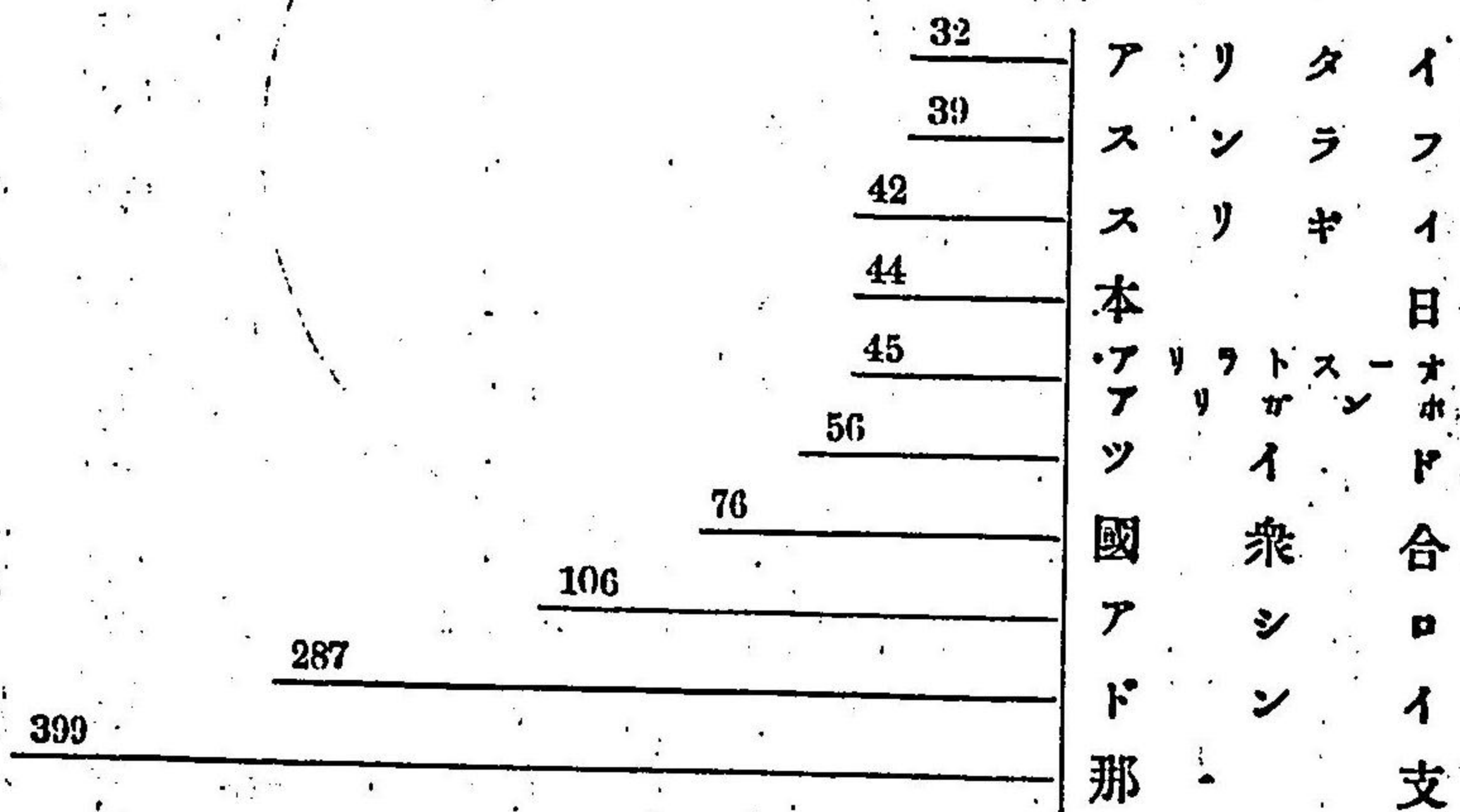
即、白色種、黄色種、黑色種、褐色種、赤色種是なり。然るに、同一種の中より、許多の變種を出だし、又、異種の間には、種々なる雜種を生ぜり。

(二)白色種は、ユウカサス種、又は、インド、ヨーロッパ種とも

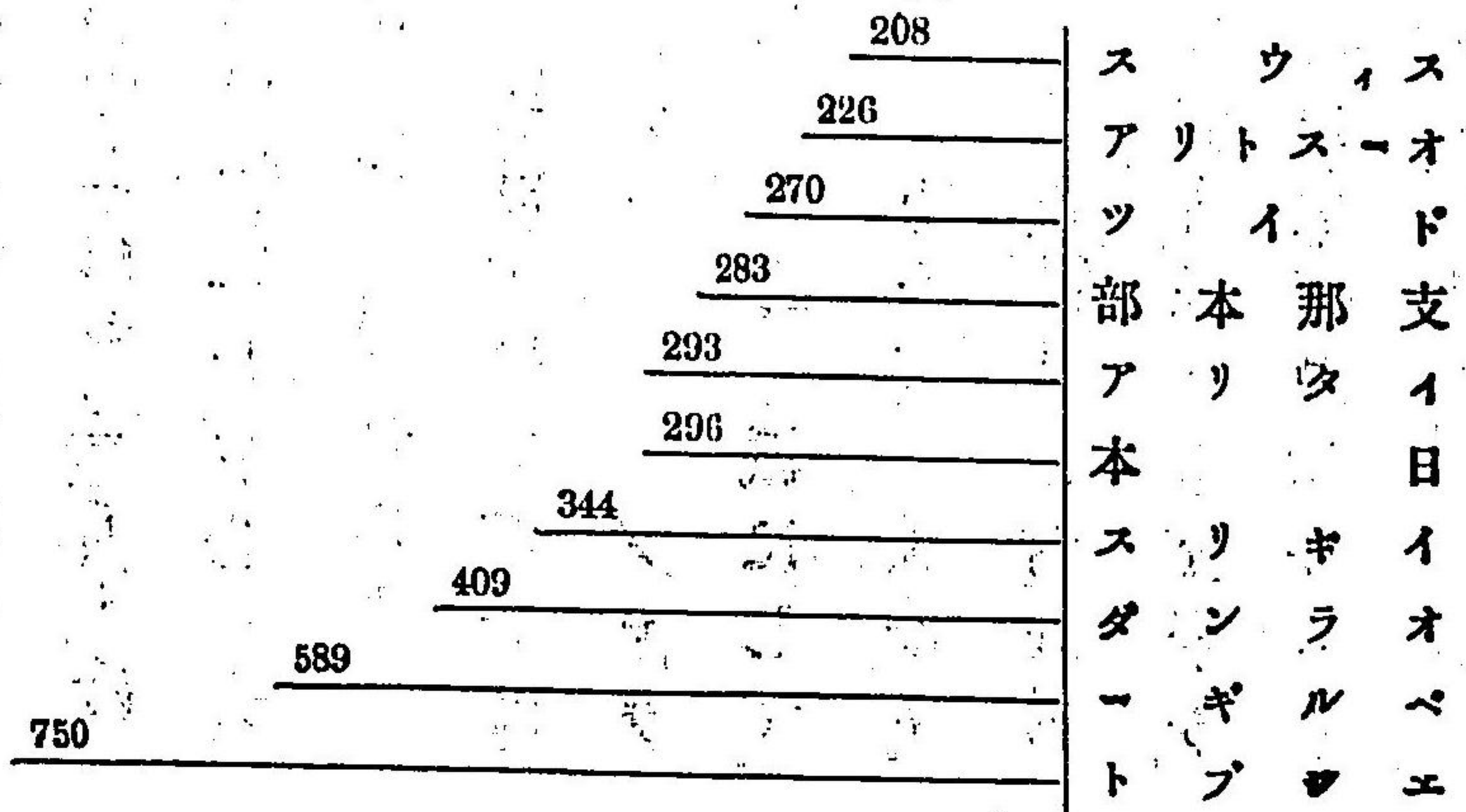


各大陸の人口

各國總人口比較
單位：百萬人
歐米諸國の者は皆屬を除く



各國一方哩平均人口
單位：一人
屬を除外



いふ。凡、六億人あり。其の視、歐、アメリカ諸國の住民、大抵之に屬し、又、西南アジヤ、オーストラリアにも亘れり。其最優勢なる人種にして、今日世界の文明は、一に、其の手に成れるなり。

黄色種

(二)黄色種は、一に、蒙古種とも云ふ。六億人あり。其の東北アジア、東南ヨーロッパ、ホシガリア、北方アメリカ等に居住せり。今日は、其の勢力、大いに前者に劣りたれども、古代は、發達著く、其の創造發明に係る事物多かりき。

黒色種

(三)黒色種は、即、アメリカ種にして、一億六千萬人あり。アフリカ内地の住民、是にして、又、中部オーストラリア、メソポタミアにも滿蔓せり。然れども、其の地方に移殖せるものは、多く、奴隸たり。

褐色種

(四)褐色種は、メラネシア種ともいふ。五千萬人あり。メラネシア群島を本據とし、西は、マダガスカル島より、東ポリアネシアに至る、インド洋、太平洋上の諸島嶼に蔓延し、北は、我が臺灣にも及べり。此の人種は、黄色種の中に加ふることあり。

赤色種

(五)赤色種は、アメリカ、インド人なり。アメリカの舊土人にして、南アメリカ、パタゴニア人のごときは、此の種的好模式なり。此の人種は、今や次第に絶滅の期に近づけり。

言語

第三 言語 言語は、人類の特有にして、各國民、互に、其の祖先より傳はれる言語あるをもて、其の種類夥し。

各國語中、一地方を限りて、最多くの人に使用せらるるものは、支那語なり。億されど、世界の通用語として、流行區域の最廣きは英語にして、億一之に次ぐをイスパニア語とす。五千萬此の二者いづれも、商業上に用ゐらる。之に反してフランス語は、交際上の用として、多く、各國の上流社會に行なはれたり。器、イヌ、パニア此の外、ドイツ語、ロシア語、各六千萬亦、各勢力あり。殊に、ドイツ語のごときは、專學術上の用語として、學者間に使用せられたり。

宗教

第四 宗教

蠻野人と開明人とを問はず、宗教思想を有せざる國民は罕なり。されど、社會、人心の異なるに従ひて、宗教の形式、教義一様ならず。往往、氷炭相容れざるものあり。

宗教の別

宗教の最進歩せるは一神教にして、開明人の有する所なり。二神以上、多神を信仰するは、其の次にして、更に下れば、偶像、自然物等を崇拜するに至る。是等は、蒙昧の民に一般なりとす。今日の宗教は、大別して、凡、六種とすることを得べし。即、左のごとし。

基督教

一神教 猶太教

回回教

佛教

多神教 婆羅門教

蠻教

此等の宗教は、蠻教を除くの外は、皆、アジアに基を置き、

次第に諸方に傳播せり。

基督教

(一)基督教信徒の數四億は、エースキリストの開きし教にして、

後世數派に分かれたり。ヨーロッパ、南アメリカに行

マ法王を管長とし主として、南ヨーロッパ、南アメリカに行

はる。ギリシ教正教は、教義前者と大差なく、ロシア皇帝を

其の長とす。ロシア、バルカン半島等に行はる。プロテ

スタント教即新教は、舊教に反對して起こりし一派にして、

中部ヨーロッパ、スカンデナヴィア、北アメリカ、オーストラリ

ア等に行なはる。以上を基督教の三大派とす。此の外

にも尙數派あり。

(二)猶太教七百餘萬は、基督教と共に、アジア、トルコに起こり

しが、故國亡びて、信徒多くは、離散せり。

猶太教

回教

回教

(三)回教信徒三億は、アラビヤより起る。一時ヨーロッパ、

アジアを風靡するの勢ありしが、今は、稍衰へたれど、尙ア

ジアの西部、東南部、トルコ、アフリカの北部等に行なはれ

たり。

(四)佛教四億は、本國インドには、勢力なく、日本、支那、インド

支那、セイロン等に行なはれたり。

(五)婆羅門教二億は、其の起原佛教よりも舊く、古來、インド

人間に崇奉せられたり。

(六)蠻教は劣等のものにして、太平洋洲、アフリカ、南アメリカ

等々の蠻人間に行なはる、其の種類甚多し。

生業

第四章 生業

重要天産

第一 重要天産物

生業の種類は、數多けれども、諸産物の根源は、動植鑛の三界を出でず。

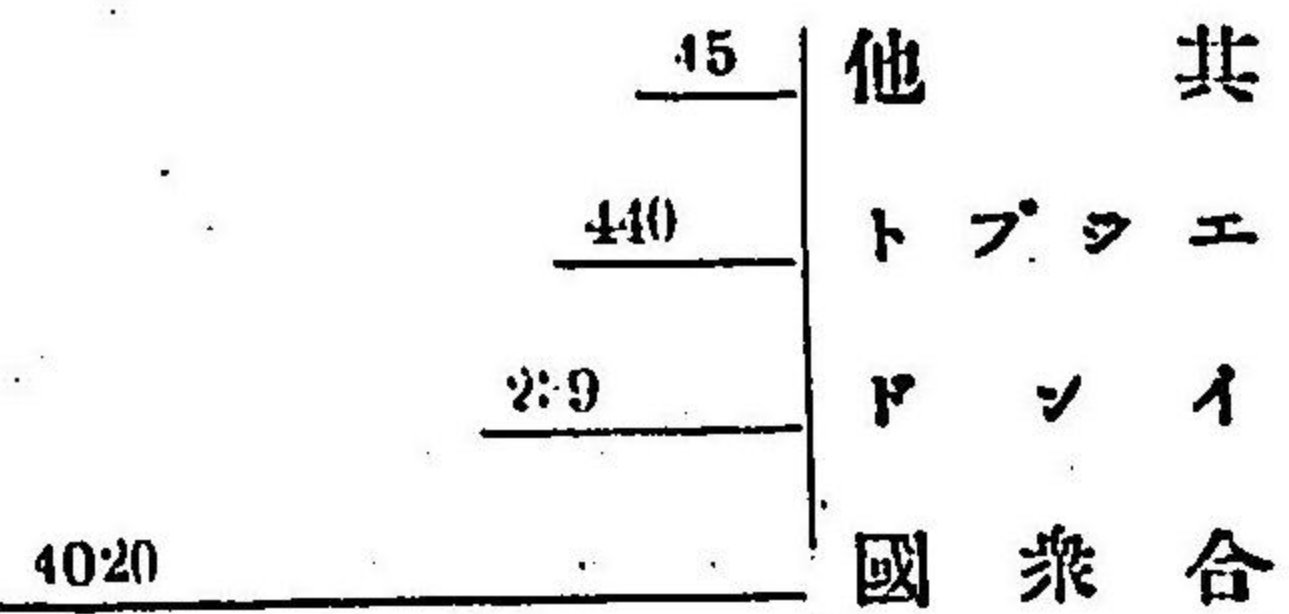
(一)動物 家畜の中、牛を多く産するは、印度、北米合衆國にして、羊はオーストラリア、アルヘンチナを最とす。魚族の産地には、ノルウェー、ニッポランド、及我が北海道あり。所謂、三大漁場是なり。羊毛は、オーストラリア、アルヘンチナ、及英領南方アフリカ。蠶絲は、東洋にて、支那、日本、西洋にて、イタリア、フランスを推す。毛皮獸は、主としてアジア、アメリカの北方寒帯に棲めり。

(二)植物 米は、世界三分一の人民の常食にして、其の産國は主として、インド以東の東方アジアなり。小麦は、西

動物

植物

棉花主要産國比較
單位位萬俵
一俵は五百英封度



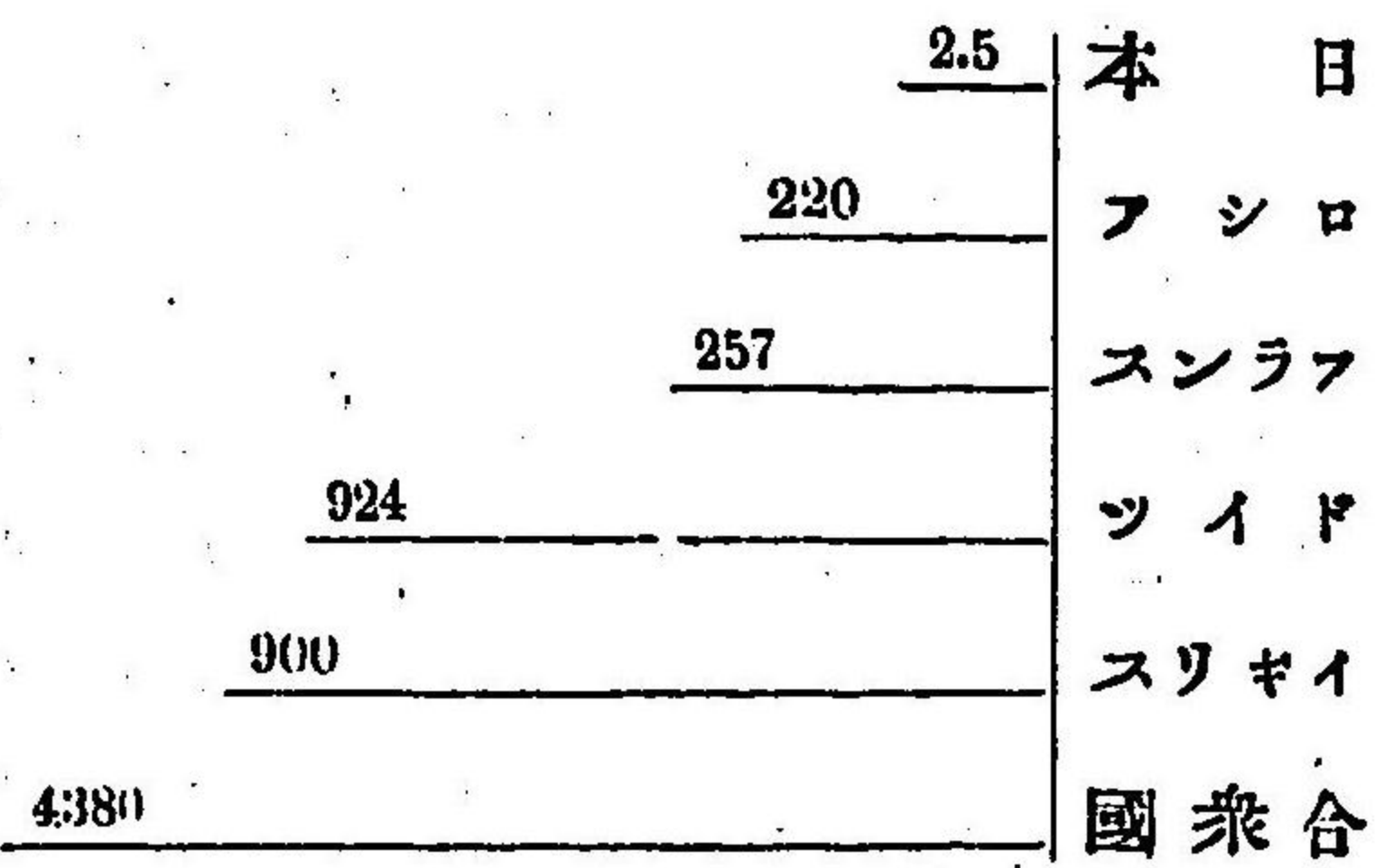
洋人の生命にして、合衆國の産額は、其の全額の四分一を占め、ロシア、フランス二國之に次げり。茶の産地は、前の米産地と同じ、砂糖は、ドイツを主位とす。棉花の産地は、温熱帶地方に限れり。其中、合衆國第一位にありて、世界總額の過半を占め、インド、エジプト之に次げり。之を世界棉花産出の三主要國とす。我が國、紡績用の棉花は、合衆國、インド、支那産のものなり。

(三)鑛物 鐵、石炭は、人世最要の鑛物なり。此の二鑛の産は、合衆國第一にありて、全額の四分三を占め、イギリス、

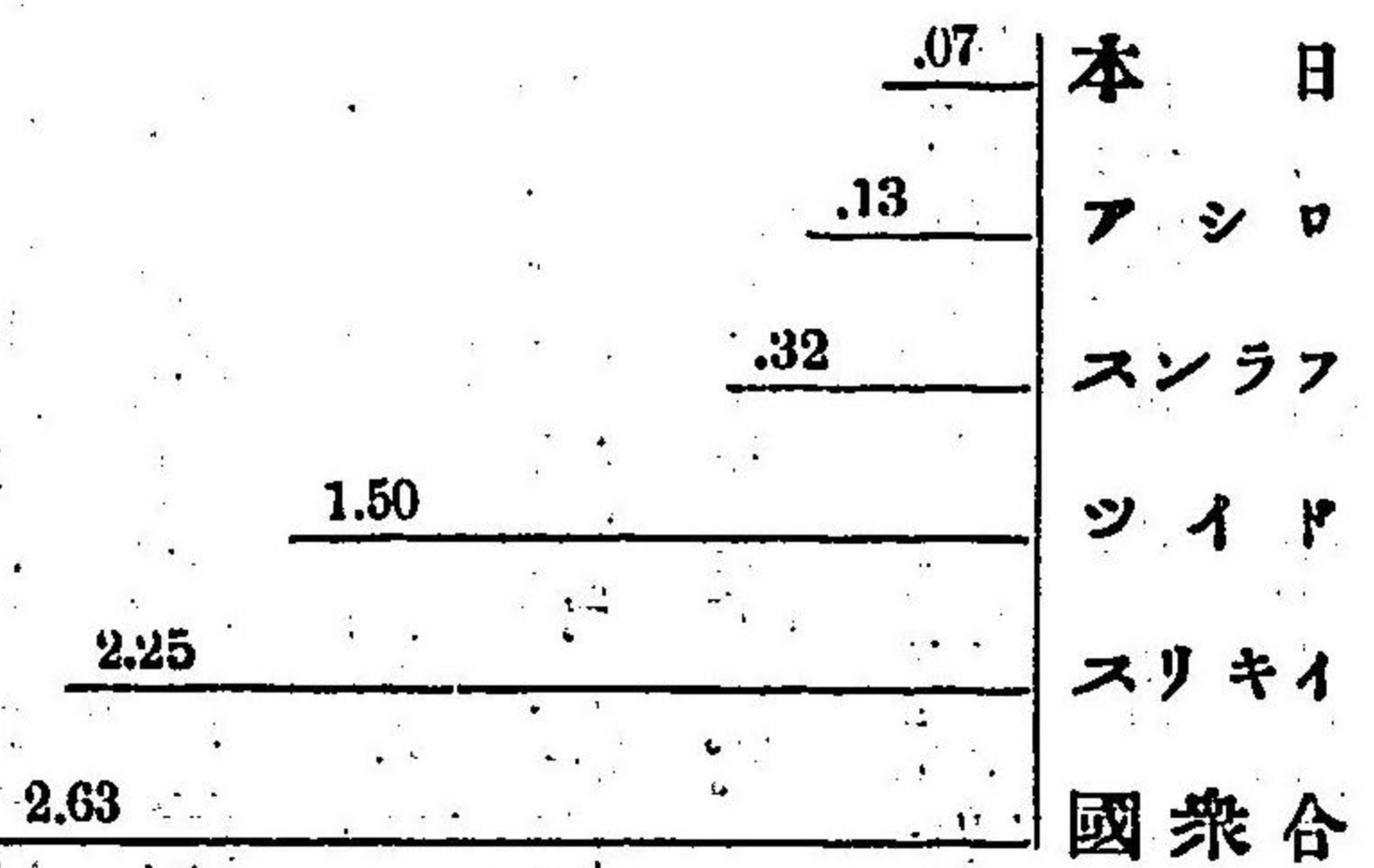
鑛物

ドイツ、フランス之に次げり。我が國に出づる石炭の量は、現今、東洋第一と稱すれども鐵に至りては、甚振はず。

各國鐵銑產額
單位萬噸
（領屬を除く）



各國石炭產額
單位億噸
（領屬を除く）



多くは輸入を待て仰けり。銅の産額亦、合衆國を以て最とし、全世界産額の過半を占めたり。我が國は、イスマニ

貿易

アに次ぎて、第三位にあり。金産額表は、第四篇アフリカは、フランス、パール、合衆國、オーストラリア、ロシア、銀は、合衆國、メキシコ。石油は、合衆國、ロシアを最大産地とす、我が石油業は、近時、大いに振ふに至りしかど、尙、大部は、合衆國より輸入せり。

貿易

我が國は、世界の貿易國中にて、第十二位を占めたり。明治元年に比ぶれば、後進國にして、早く既に、此の位置に達せしは、異常の發達なれども、之を我が國面積の十分一大なるオランダ、ベルギー、スウイス等のごとき國に比すれば、尙、遙に劣れり。此の三國は、其の商勢能く、大國と伍して、毫も劣ることなし。今、其の輸出入總額を、各一人に割

各國輸出入額
單位百萬元

50	那	支
52	ル	ラ
52	ナ	チ
55	本	ン
62	ア	ニ
74	ニ	バ
82	ス	ウ
120	ス	イ
124	ア	リ
160	ア	シ
193	ガ	ン
300	ニ	ギ
346	ダ	ン
468	ス	ン
528	國	衆
750	ツ	イ
	ス	リ
	ギ	イ
	入	輸
	出	輸
	額	總

入り當て、三國を平均すれば、三百六十圓となる。之を我が國一人の貿易額十圓と比すれば、實に三十倍に當たれ

日本貿易別國

輸出品別價格
單位百萬元

輸入品別價格
單位百萬元

1	ア	リ	ト	ス	ー	オ
2	ア	シ	ア	領	露	
2	ア	リ	ト	ス	ー	オ
2	ン	ビ	リ	イ	フ	
3	ダ	ナ	カ			
5	ツ	イ	ド			
9	ド	ン	イ	領	英	
11	鮮				朝	
11	ス	リ	ギ	イ		
12	ア	リ	タ	イ		
27	ス	ン	ラ	フ		
41	ン	コ	ン	ホ		
43	那			支		
72	國	衆	合			

1	ア	リ	ラ	ト	ス	ー	オ
2	ス	ウ	イ	ス			
3	ン	ビ	リ	イ	フ		
3	ス	ン	ラ	フ			
4	ア	シ	ア	領	露		
4	ア	リ	ト	ス	ー	オ	
5	ー	ギ	ル	ベ			
10	鮮			朝			
11	ン	コ	ン	ホ			
27	那			支			
28	ツ	イ	ド				
32	ド	ン	イ	領	英		
42	國	衆	合				
50	ス	リ	ギ	イ			

り、以て如何に他の商況の活潑なるかを想見すべし。我が國と諸外國との間に行なはるる貿易の情況は、次に掲ぐる輸出入品國別價

鐵道

社及大坂商船會社之に當たれり。此の二會社の外に我が近海に被等と競争を試みるもの多し。ピーオー會社、大平洋汽船會社、ロイド會社、フランス郵船會社等是なり。鐵道延長の最大なるは合衆國にして十九億四千哩あり。我が國の總延長は唯其の端數なる四千哩なり。加之軌條狹く、速力緩し。西洋にて、汽車の速力速きものは、一時間平均一百哩を駛り、五十哩以上を行くは、常のことなり。我が國にては、新橋、神戸間の急行といへども一時間二十五哩を駛るのみ。國土の大いさに比して、鐵道の最發達したるは、ベルギー、イギリス本國、スウイス等のヨーロッパ諸國なり。鐵道比較表は、北米、又此に特に注目すべきは、諸大陸を貫通する鐵道なり。ヨーロッパは、姑く措きて、アジアには、シベリア大鐵道あり。北アメリカには、中央の横斷線あり。パナマ地峽鐵道あり。

電信

り。南アメリカには南部の横貫鐵道あり。彼のアメリカの縦貫鐵道、中央アジアの横貫鐵道も、將に其の工を竣へむとせり。電信線は、世界各國の間に通ぜり。其の海底電線の功は、實に偉大なるものあり。我が國にては、長崎よりウラジボストクに至る海底線あるが爲に、ロシアのベテルブルグより、ウラジボストク港に通ずる陸上線に接續して直に、ヨーロッパと通信することを得。又長崎より上海に至り、更に、インド洋に沿ひて、紅海を出て、ヨーロッパ洲に通ずる線あり。大西洋海底線には、イギリスとカナダとを連絡せるもの、外に、數線あり。大平洋海底線は、合衆國、ハワイ間の一線あるのみなれば、我が國とアメリカとの

通信は、ヨーロッパ線を経て、間接に、之を辨ずべし。されど、現今、合衆國は、南洋諸島との間に、大平洋横斷の電線を設けむとて、既に其の計畫をなせり。近くは、又、無線電信の發明あり。カナダ、イスラント、千八百にては、昨年其の工事竣へて、通信を開始せり。

日本と列國

第五章 日本と列國

條約國

第一 條約國

人の孤立して、生活を遂げられざるがごとく、國も、亦、單獨に立つこと能はず。故に、方今、宇内の各國は、修好通商の條約を締結して、互に、其の利益を交換せり。我が國は、嘉永七年、北アメリカ合衆國と、始めて、和親の條約を結び

我が條約國

しより、年を遂ひて、諸國との交際繁く、殊に、明治二十七八年の戰役に於いて、我が國力の優に、諸強國と比肩すべきを公示せしよ、國威、急に揚がり、各國と對等の條約を結了するに至りぬ。現時、我が國と、條約を締結したるは、總べて、二十四箇國ありて、其の首府には、公使を駐在せしめ、又、通商港の主要なる處には、領事若しくは、名譽領事を置けり。今其の條約國名を擧ぐれば左のごとし。

- アジア 韓、シム、清、三國
- ヨーロッパ イギリス、ロシア、オランダ、フランス、ポルトガル、ドイツ、スウイス、ベルギー、イタリア、デンマルク、スウェーデン、ノルウェー、イスパニア、オーストリア、ハンガリア、ギリシヤ、十四國

アフリカ …… コンゴ獨立國 …… 一國 ……
北アメリカ …… 合衆國、メキシコ …… 二國 ……
南アメリカ …… ヘル、ブラジル、アルゼンチン、チレ …… 四
國 ……

以上の條約國中にて、特に、其の關係の重きものを舉ぐれば、(一)清、韓二國は、本邦と離るべからざる位置にありて、上古より、交通、常に絶えず。今後其の關係は、益、親密なるべし。(二)ヨーロッパ、文物を始めて、本邦に傳へしは、オランダ人にして、彼等は、我が國の爲に、開發の勞を執りしなり。(三)イギリスは、アジアに廣大なる領土を有し、又、我が國に輸入し來たる物貨額は、他國の最上に位せり。輒近、日英同盟の成立せしより、貿易上、政治上の關係、益、親密を加へ

たり。(四)北米合衆國は、對岸の富國にして、通商上、我が唯一の花客たり。殊に、近時、ハワイ、フィリピン等の諸島を併有して、益、本邦に近づき來たれば、而後、我と交際の頻繁を加ふべし。(五)ロシアは、アジアの北半を領有し、此所に、交通、軍事上の重器たる大鐵道を敷きたれば、向後、其の行動は、大いに留意すべきものなり。(六)ドイツ、フランスも、亦、我に對して、其の關係淺からず。

二 國土の大小

一、列國本土の大小 國の富強は、必しも土地の大小に關するものにあらずとも、總じて、大の小に勝ること多きは、勢の免れざる所なり。支那は、疲弊したれども、國土廣大なるを以て、尙、何處にか、生命の宿れる處あり。ベル

國土の大小

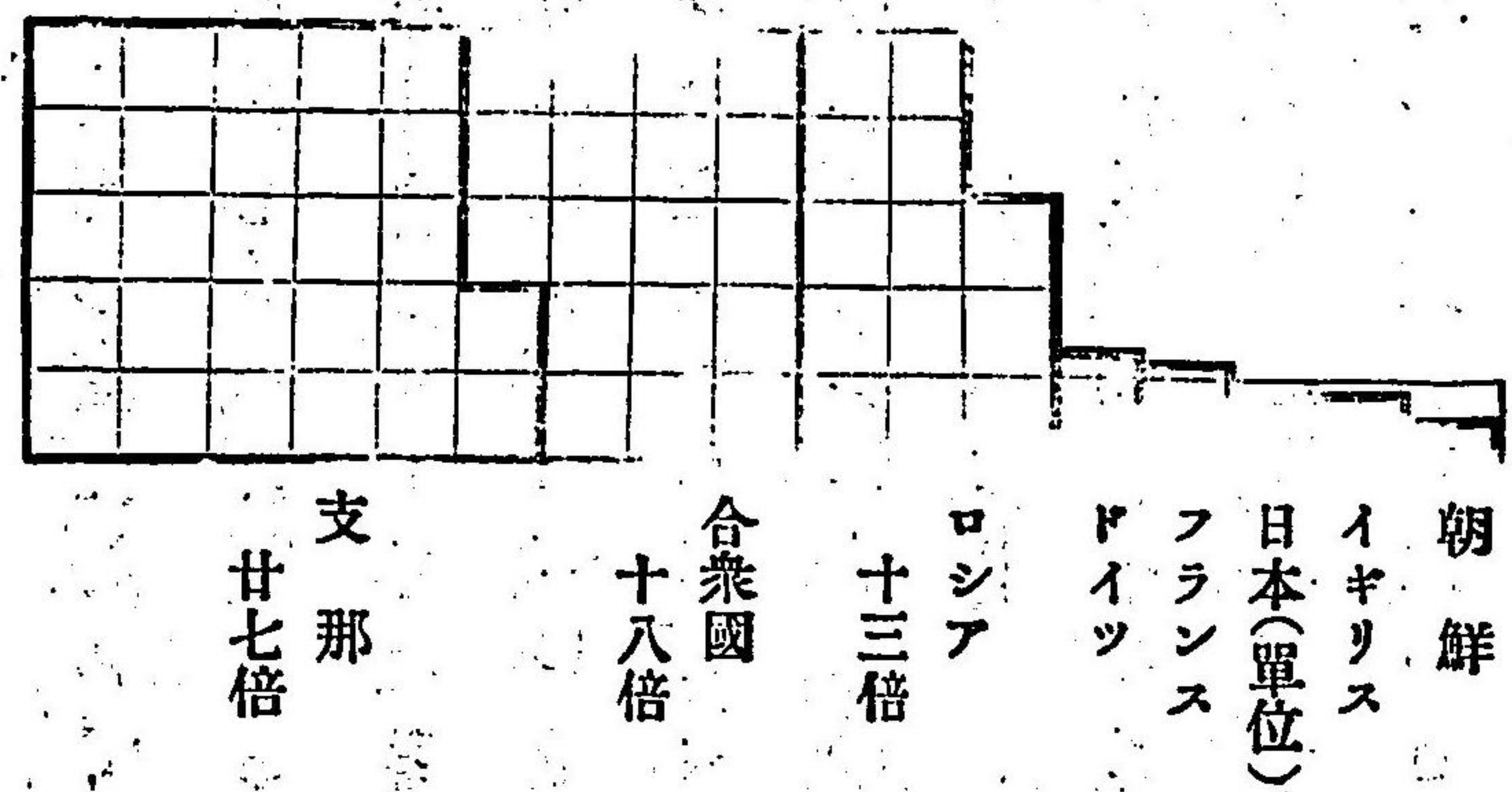
本土の大小

12	11	10	6	8	7	6	5	4	3	2	1
二〇	二四	二四	二九	六九	七六	九〇	一一一	二〇九	二九三	三二二	四二三
ドイツ	オーストリア・ハンガリア	シヤム	スウェーデン・ノルウェー	ベルギー	メキシコ	コンゴ獨立國	アルヘンチナ	ロシア	合衆國 <small>（亞細亞を除く）</small>	ブラジル	支那

ギー、オランダ、スウイスは、開明の度に於いては、少しも他に譲らざれども、國土の小なるか爲に、世界の強國といふこと能はず。今、我が條約諸國の國土の大きさを比較する時は、上表のごとくなるべし。又其中、特に重要國の面積を圖示すれば、左のごとし。

24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13
一	一	一	一	二	三	八	一一	一二	一六	一九	二〇
ベルギー	オランダ	デンマルク	スウイス	ギリシヤ	ポルトガル	朝鮮	イタリア	イギリス	日本	イスパニア	フランス

積面土本國各



領土の大小

二、列國領土の大小 方今強國と稱せらるゝ國は、いづれも、其の領土の擴張に勉めたり。是一には、戸口、次第に増殖して、國土の狹隘を告ぐるにより、新に、土地を求めて、其の民を移し、殖産に従事せしむるにあれども、亦、一朝事あるの日には、軍隊を輸送すべき通路、艦隊を碇泊せしむべき根據地を要すべきは、勿論、平日といへども、交通、貿易の上に、自國の領土の諸方に散在せるは、猶、商家に支店あるがごとくにして、其の便益、大なるものあればなり。

今、列國中領土の最大なるは、イギリスにして、ロシア之に次ぎ、フランス、ドイツ、ポルトガル、オランダ等、又之に次がり。いづれも、其の面積は、本國に比して、數倍の大いさあり。中にも、イギリス、オランダ、フランスの三國は、本土、

甚狹くして、領土頗、廣きものなり。左表によりて見るべし。

國名	面積	本國面積の倍數
イギリス	一一〇一	八五・八
ロシア	六五六	三・一
フランス	三八九	一九・五
ドイツ	一〇二	四・六
ポルトガル	八〇	二・二
オランダ	七八	六二・〇

今、又本土領土を合はせて、其の大なるものを順次に擧ぐれば、第一は、イギリス。第二は、ロシア。第三は、支那。第四は、フランス。第五は、合衆國となる。之を世界の五大國と謂ふ。

富カ

國富

一三 富カ

一、國富 各國富力の度は、マルホール氏の統計に従へば、合衆國第一にして、千二百八十二億圓なり、イギリス

兵力

陸軍

ドイツ人は、凡、八十圓を有せり。是、第一の多額にして、日本人は、僅に、其の十分の一を有せり。

四 兵力

一、陸軍

陸軍常備兵の最多數なる國は、ロシアにして、フランス、ドイツ之に次げり。合衆國、イギリスのごときは、常備兵員の數は極めて少なけれども、國家有事の日には、夥多の民兵を募集し得べし。我が國は、明治三十七八年の戰役後、軍備の擴張を企て、大いに、兵員を増加したれども、之を、ヨーロッパ

各國陸軍平時總兵力
單位萬人



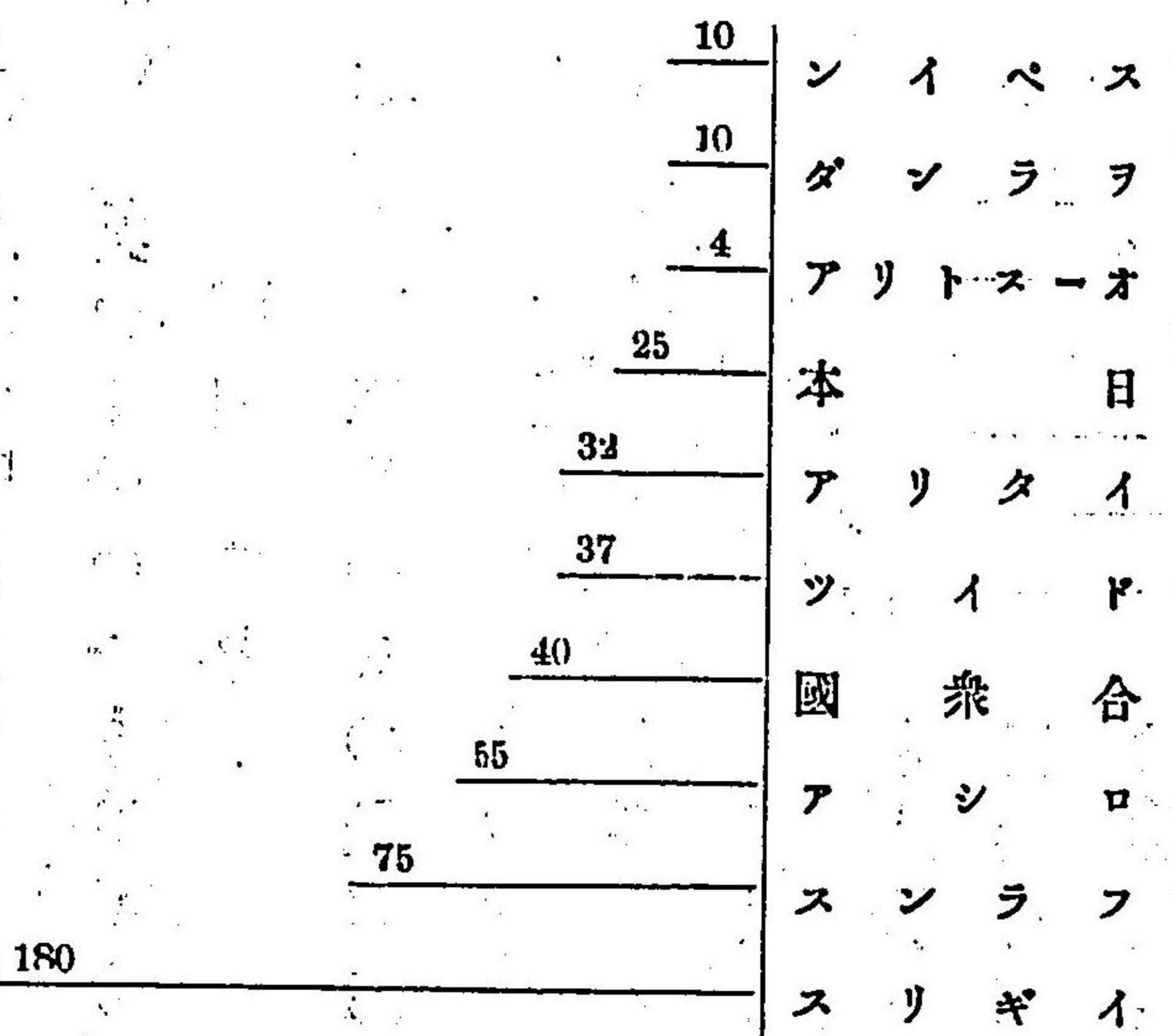
海軍

アメリカ諸強國の兵數に比すれば、尙、下位にあり。

二、海軍

海軍力の最大なるは、イギリスにして、フランス、ロシア之に次

各國軍艦總噸數比較
單位萬噸



げり。我が國の海軍は、數年來、擴張の計策に盡力し、今や世界の海軍國として、第七位にあり。現時東洋に於ける諸國の海軍力を比較するに、我は最も優勢の位置にあり。

各國戰艦數

イギリス	五九
フランス	三四
ロシア	二五
ドイツ	二三
合衆國	一八
イタリア	一六
オーストリア	九
日本	七
イスパニヤ	六
オランダ	四

此の表は、戰艦のみの數にして、我が國は、オーストリアの下位にあれど、強力なる戰艦多ければ、實際は、第七位、即ちイタリアの次にあることを得るなり。又、巡洋艦以下、一種、艦艇を合算する時は、第一なるイギリスは、六百餘隻あり。フランスは、五百隻、日本は、四百餘隻、日本は、三百隻にして、其の差尙大なり。各國軍艦の總噸數比較は、別表に就きて見るべし。

日本の位置

第六二

世界に於ける日本の位置

我が國土の美

地理上の位置

我が國上古より「美國」の稱ありしは、偶然にあらず。國土の美、我が國のごときは、他に多く比類を見ざるなり。今、其の優れたる點を擧ぐれば、(一)海岸線に富む。(二)地味肥沃なり。(三)山水明媚なり。(四)氣候平和なり。(五)天産豊かなり。然れども、是唯、其の内國の風土形勢に止まり、進みて、我が對外の位置を案するときは、一層、他に優れたる所あり。今、其の西方の大陸諸邦には、支那、インドのごとく、地廣くして、人繁き所あり。以て、吾が通商の利を收むべし。又、地方には、シベリアのごとき未墾の廣土ありて、夥多の天産物を遺せり。東方には、新進の當國、北米合

衆國及カナダありて、我と交通の便益少なからず。南方には南洋諸島及オーストラリアありて、又久しく、我が邦人の開發を待てり。此く我が海の四周は、悉く、有望の地を以て充たされたり。されば、東洋に於ける日本の位置は、西洋に於けるイギリス國の位置に優るとも、決して劣ることなし。

國勢上の位置

然れども、又退いて、我が國勢上の位置如何を顧るときは、未遽に他の列強の上に出づること能はず。其の領土たり、其の富力たり、其の兵力たり、是をヨーロッパ、アメリカの諸強國に比して、尙幾許の差等あるかは、前條日本と列國との比較を見て明なるべし。是蓋、其の開國の日、尙淺きによらずんばあらず。古來、我が邦人は、其の國土の美

に誇りて、久しく唯我獨尊を以て主義としたりき。然れども、今の日本は、日本の日本にあらずして、世界の日本なり。宣しく、内には、十分に、其の國力を養ひ、外に對しては、益、其の國威を張り、世界萬國の上に、超越せむことを、期せざるべからず。

地理學教科書 外國の部下卷終

明治三十五年十二月廿三日印刷
明治三十五年十二月廿七日發行

地理學教科書外國之部

上卷 定價金四十錢
下卷 定價金七十錢



不許
複製

編輯兼
發行者

東京市京橋區尾張町新地二番地
合資
社 田 沼 書 店

古代表者

田 沼 勝 之 助

發行者

橫濱市尾上町三丁目廿七番地
田 沼 太 右 衛 門

印刷所

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
株式
會社 秀 英 舍 第 一 工 場

發兌元

東京市京橋區
尾張町

合資
會社 田 沼 書 店

電話新橋八八二番(長距離加入)

22/8/31

發

賣

所

沖繩縣特約
一手販賣

橫濱市尾上町三丁目廿七番地

田沼商店

電話三三五番

埼玉縣北葛飾郡杉戸町

田沼支店

沖繩縣那霸區久米大門前通

三笑堂 有馬參次郎

大賣捌所

全國各書林

明治三十五年十二月廿三日印刷
明治三十五年十二月廿七日發行

地理學教科書外國之部

上卷 定價金四十錢

下卷 定價金七十錢

編輯者
發行者

東京市京橋區尾張町新地二番地
合資 田沼書店

古代表者

田沼勝之助

發行者

橫濱市尾上町三丁目廿七番地
田沼太右衛門

印刷所

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
株式會社 秀英舍 第一工場

發兌元

東京市京橋區
尾張町

合資 田沼書店

電話新橋八八二番(長距離加入)

1-548

發 賣 所

沖繩縣特約
一手販賣

大賣捌所

横濱市尾上町三丁目廿七番地

田 沼 商 店

電話三三五番

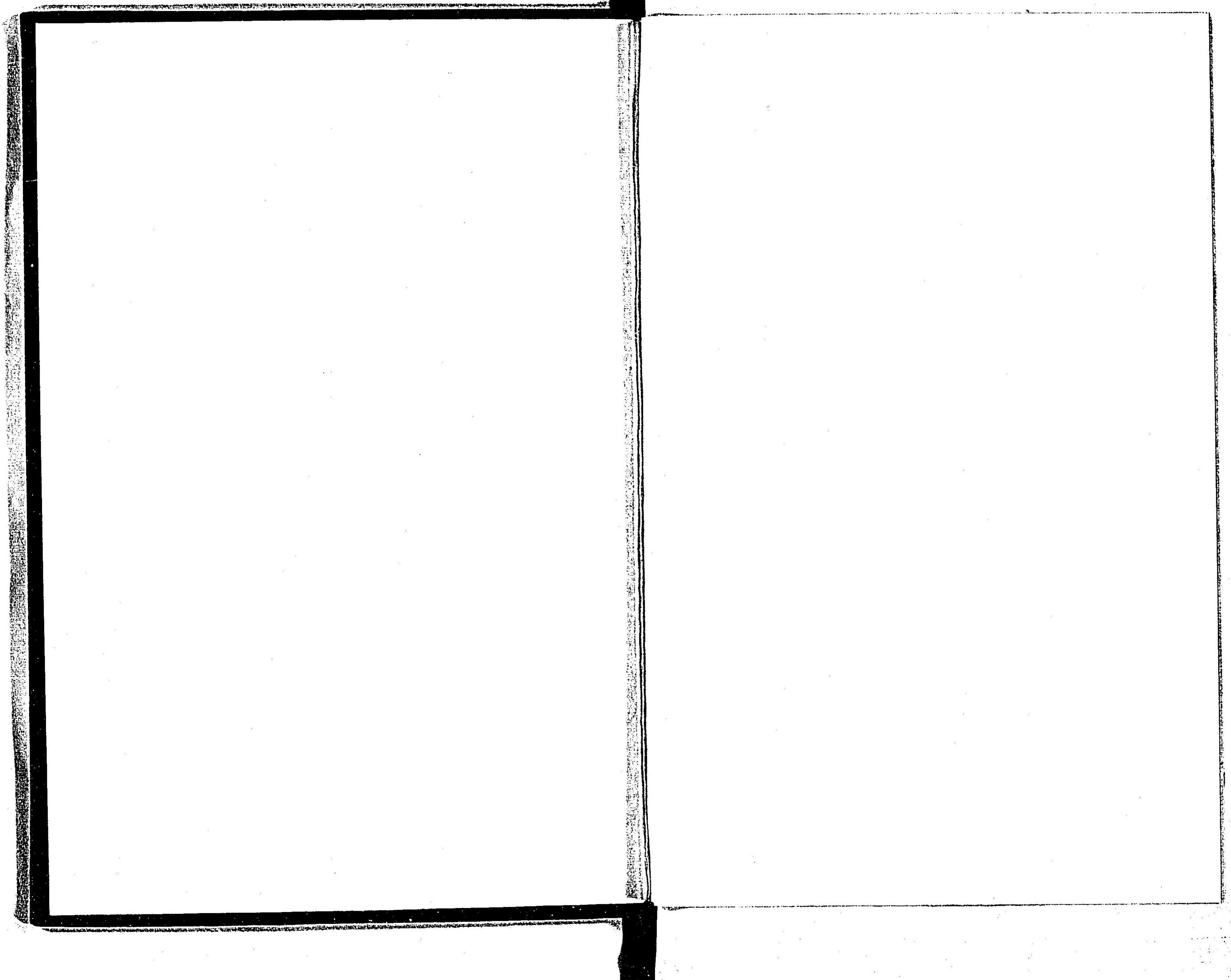
埼玉縣北葛飾郡杉戸町

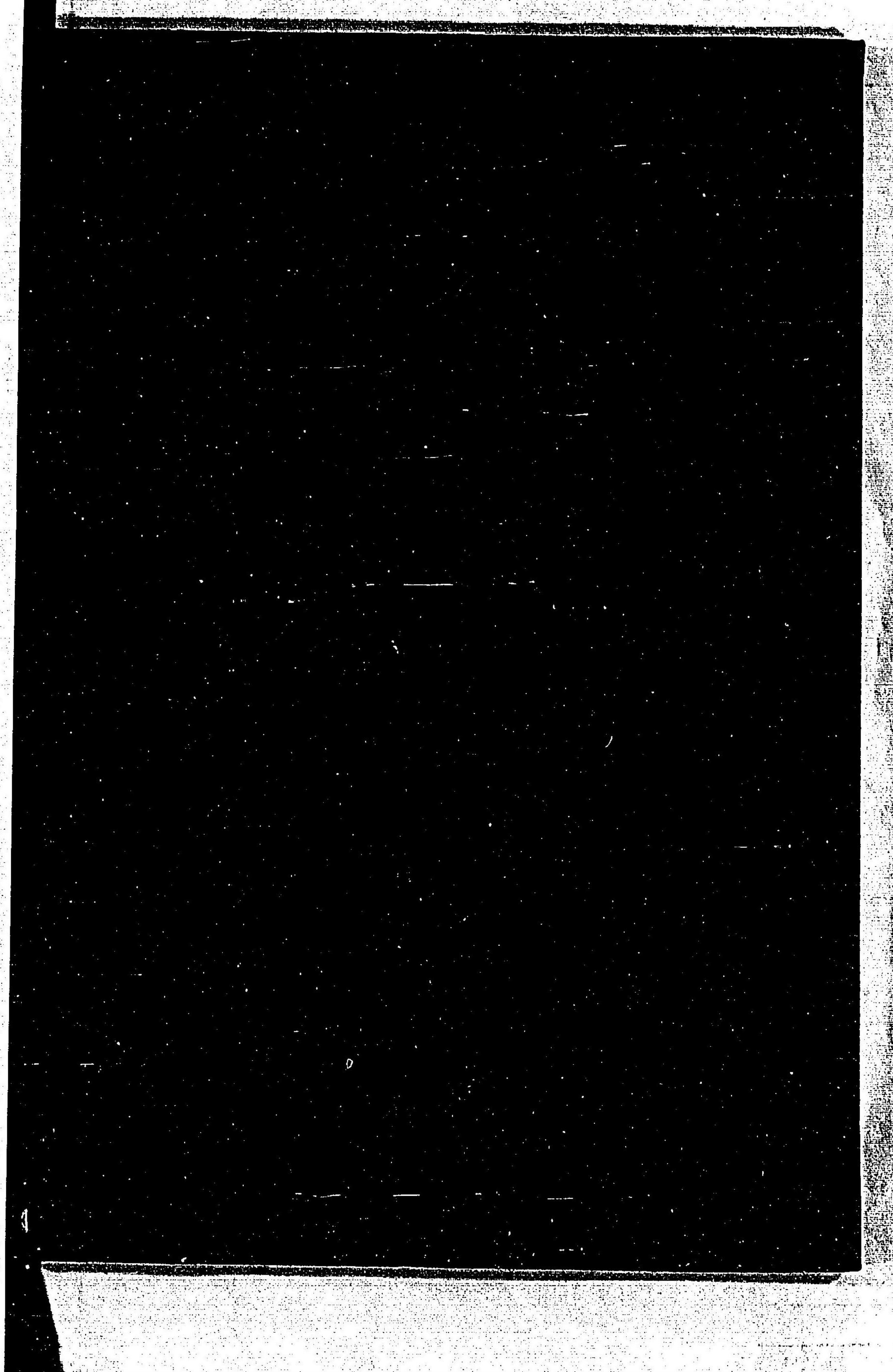
田 沼 支 店

沖繩縣那霸區久米大門前通

三笑堂 有 馬 參 次 郎

全 國 各 書 林





86
304

022131-001-4

86-304

地理学教科書 外国之部

田沼書店

M35-36

ADA-0530

